

92

13

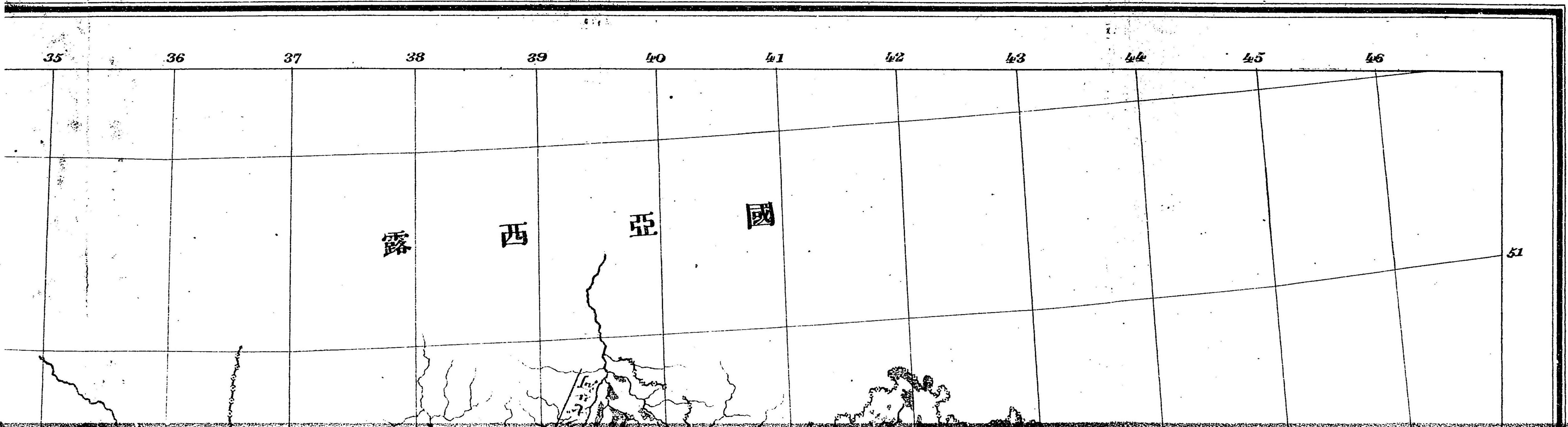
澳大利國森林視察復命書

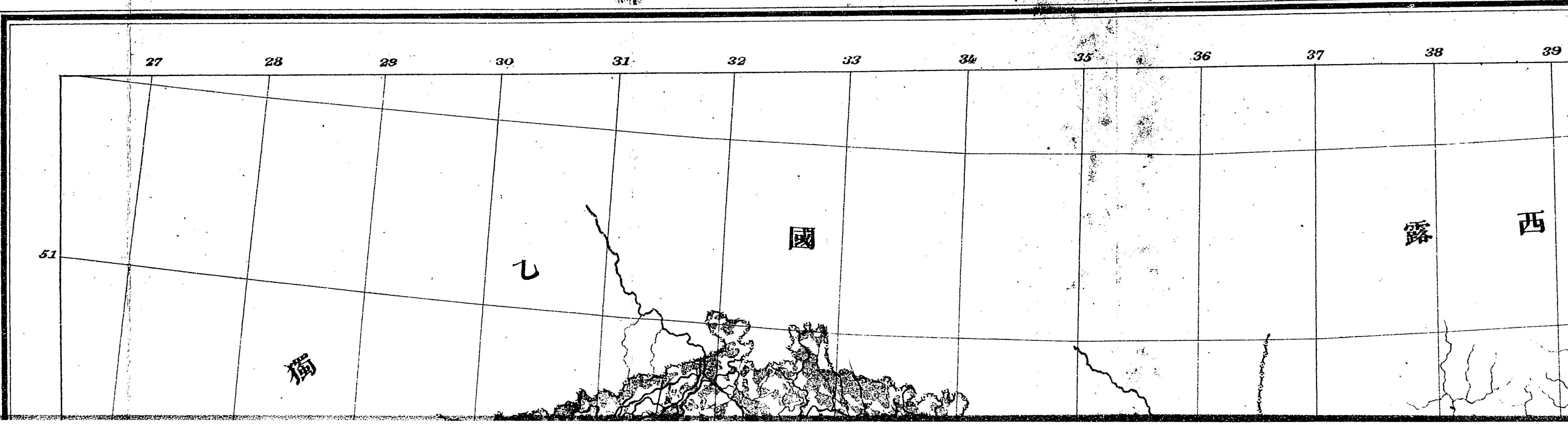
正誤

七十四頁 十行 總收入ハ總支出

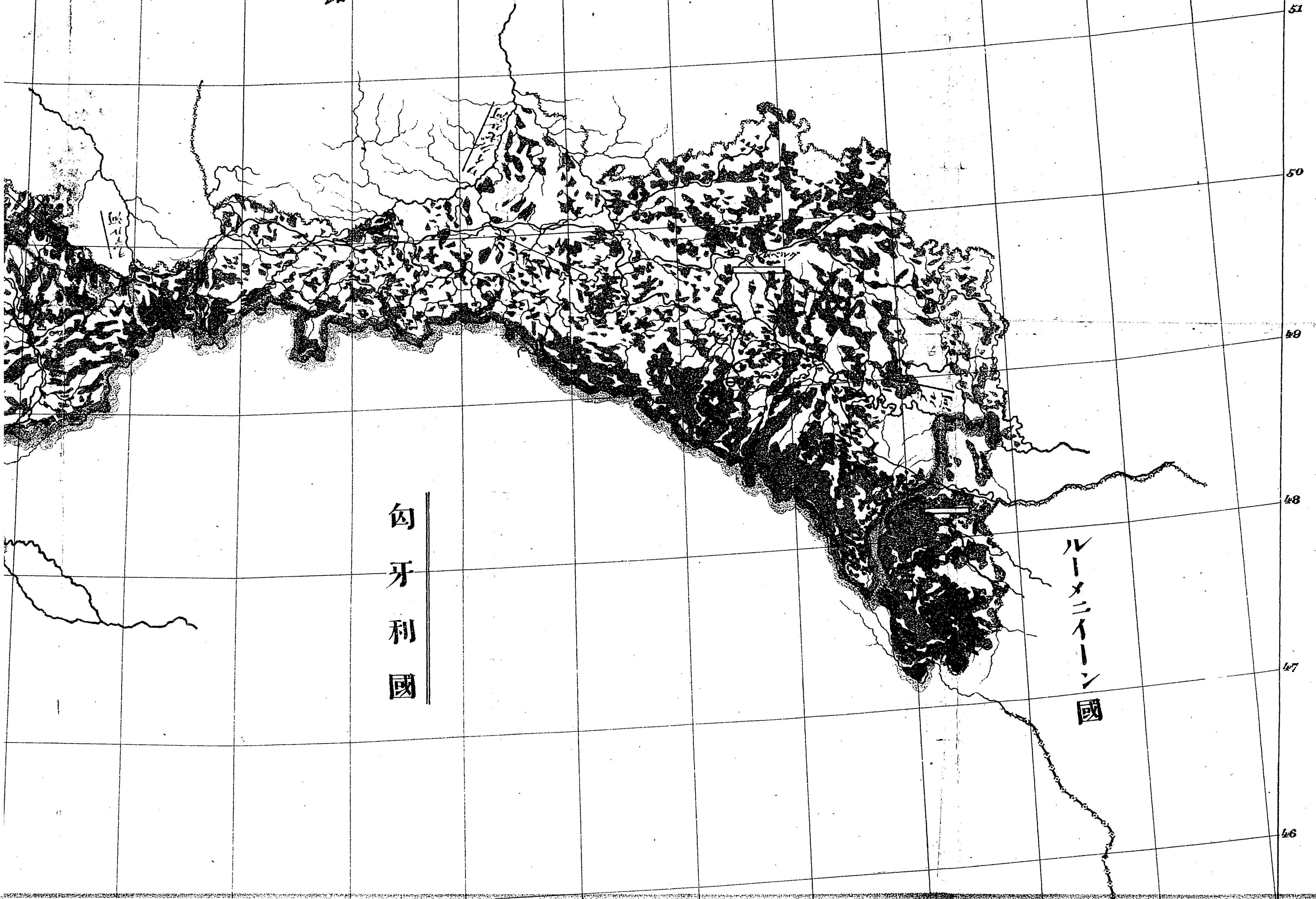
全 十三行 一町步ニ付テノ總收入ハ支出

七十五頁 五行 三、二六、ハ三、二二





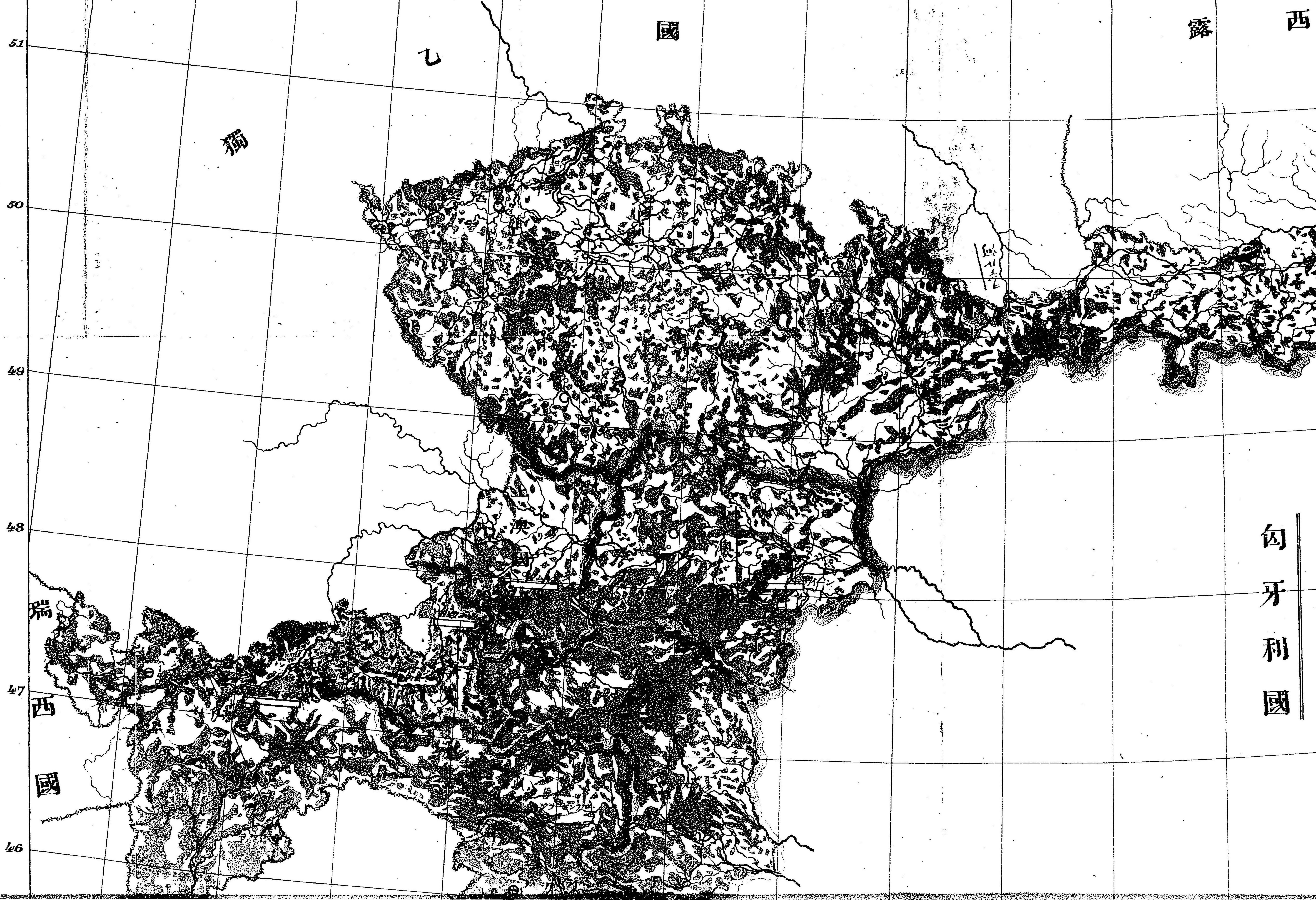
露 西 亞 國



匈 牙 利 國

ル ー メ ー ニ ー ン 國

51
50
49
48
47
46



匈
牙
利
國

西
露
國

國

乙

獨

瑞

西

國

51

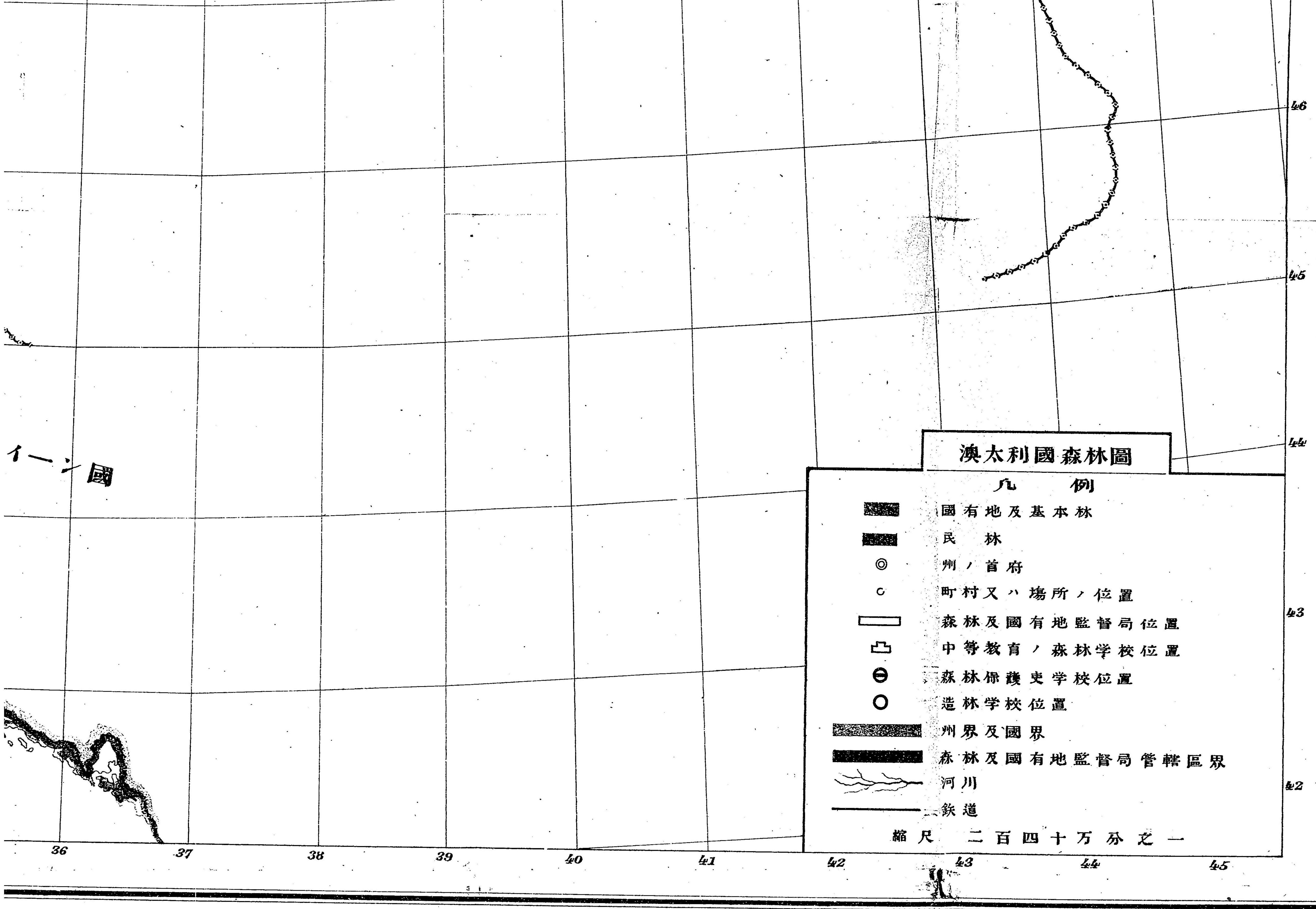
50

49

48

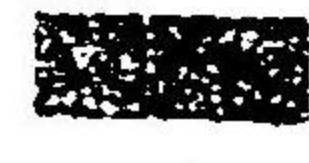



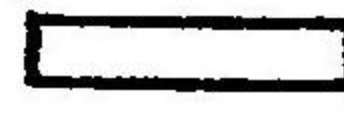





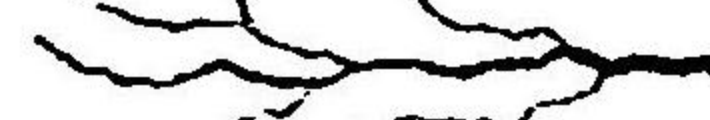
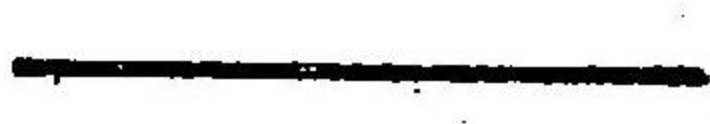
47

46



澳大利國森林圖

凡例

-  國有地及基本林
-  民 林
-  州、首府
-  町村又ハ場所、位置
-  森林及國有地監督局位置
-  中等教育、森林學校位置
-  森林保護吏學校位置
-  造林學校位置
-  州界及國界
-  森林及國有地監督局管轄區界
-  河川
-  鉄道

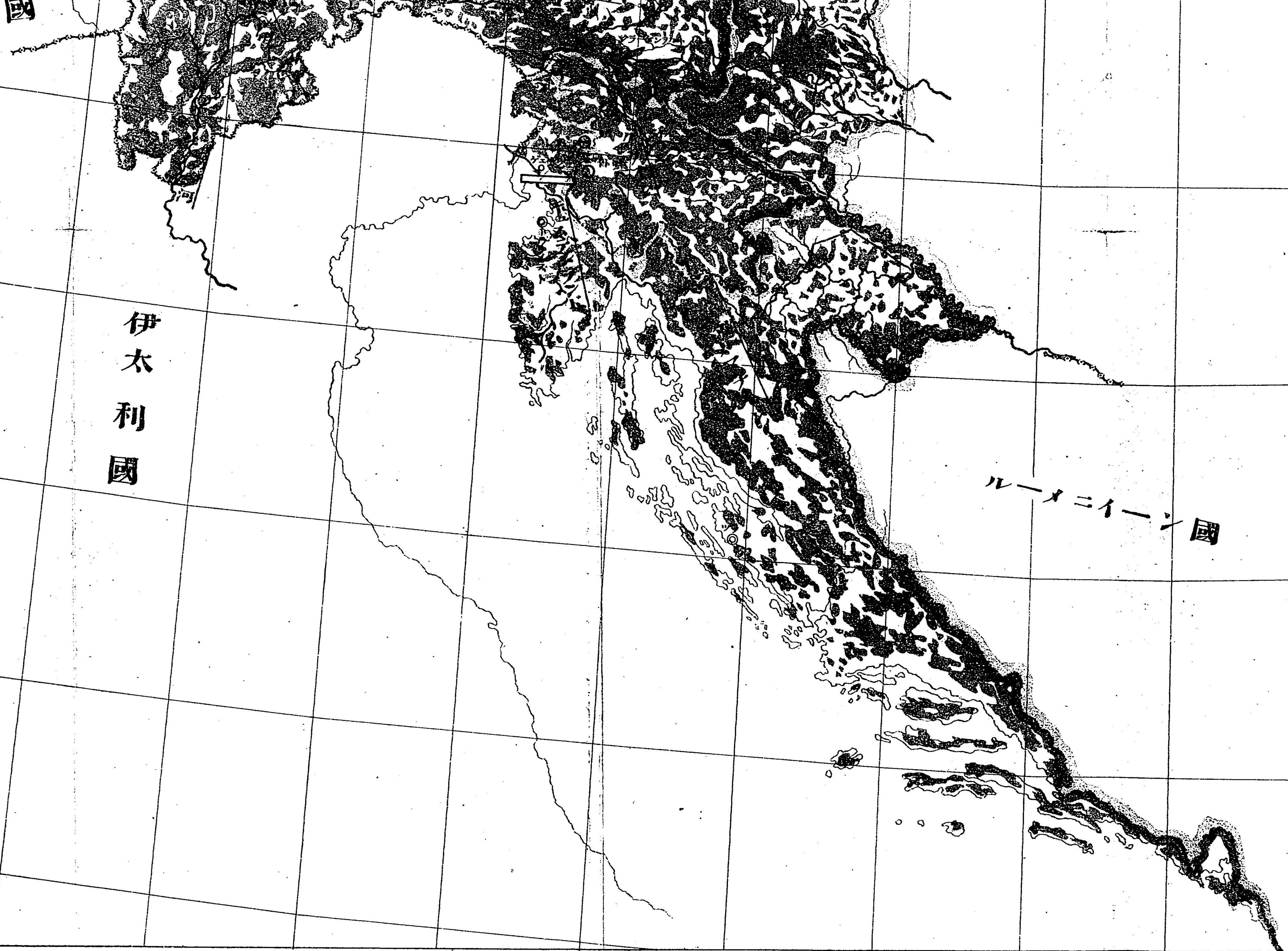
縮尺 二百四十万分之一

46
45
44
43
42

伊
太
利
國

ル
ー
マ
ニ
ー
國

28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38



小官曩ニ歐洲ノ林政及林業視察ノ命ヲ受ケ、昨年四月廿一日橫濱ヲ解纜シ同六月十日佛蘭西國巴里府ニ着、同行ノ林學博士營林技師志賀泰山及前着ノ營林技師白澤保美ト共ニ視察ノ方面及事項等ニ協議ス爲シ、白澤技師ハ既ニ佛國ノ視察ニ着手セシヲ以テ該國ニ留マリ其視察ヲ續行シ、志賀技師ハ主トシテ獨逸國ニ就キ、小官ハ重モニ澳大利國ニ就キ視察スルコトニ定メタリ、是ニ於テ小官ハ同年六月二十一日巴里府ヲ辭シ巴威里國「ミュンヘン」府ニ到リ、同國森林事業ノ概況ヲ視察シ、更ニ同年八月四日澳大利國維也納府ニ移リ、本年三月廿日迄同府ニ駐在シテ略目的ノ調査ヲ了シ、翌廿一日維也納府出發歐羅巴及普魯士國ノ森林學校、森林試驗所、森林工場等ヲ巡視シ更ニ森林經濟上ノ視察ヲ爲スニ必ズ認リ荷蘭、自直義及英國ヲ經テ本年五月三十日歸朝致候、依テ澳國林政林業ノ概要ヲ録シテ閣下ニ進呈ス請フ、御覽ヲ賜ヘ、

農務省山林局 寄附本



明治三十四年八月十五日

右謹テ復命致候也

農商務省山林局林政課長
營林技師兼農商務技師 村田重治

農商務大臣 平田東助殿

緒言

林業ノ盛衰カ國家ノ隆替ニ至大至深ノ關係アルハ敢テ言ヲ俟タサル所ナリ、抑我國（日本）ノ事漸ク世論ニ上ルニ至レルハ賀スヘキ所ナリトス、然レトモ世人往々我國林業ノ現況ヲ見テ尙冷眼輕視スルノ傾ナキニアラス、是茲ニ一言以テ警告セントスル所以ナリトス、說者動モスレハ曰ク英國ハ殆ト森林ヲ有セス從テ林業ノ見ルヘキモノナシ而カモ國運ノ隆盛斯ノ如シ、森林何ソ必スシモ國家ノ存續ニ必要アラシヤト、是寔ニ思ハサルノ甚タシキモノナリ、請フ少シク商工業ト林業トノ關係ニ就キ注視セヨ、商工業ヲ以テ立國ノ大本トスル英國ハ果シテ林業ニ如何ナル關係ヲ有スルカ、尙詳言スレハ英國ニ於テ商工業又ハ礦業ノ進歩ニ伴ヒ林產物ノ需用ハ如何ナル程度ヲ以テ増進セシカ、之ヲ統計ニ徵スルニ木材ノ輸入（詳言スレハ輸出ノ差ニシテ輸入超過ナリ）ハ千八百七十五年ニハ七百七十萬立法「メートル」（一立法「メートル」ハ我尺ノ三本ニ當ル價格不詳）ナリシカ千八百九十八年ニハ千二百五十萬立法「メートル」ニ増加シ此價格四千七百十四萬八千磅ナリトス、即チ二十四年間ニ於テ木材ノ輸入殆ト六割強ノ増進ヲナセリ、而カモ同年間ニ於ケル一般貿易品ノ輸入額ノ増加ハ三割弱ニ過キス、商船噸數（商船ノ製造ニハ木材ヲ使用ス）及石炭產出高（石炭坑採掘業ニハ坑木トシテ甚タ木材ヲ要ス）ノ増進ハ約五割内外ナリトス、知ルヘシ商工業ノ進歩スルニ隨テ林產物ノ需用ヲ増進スルノ甚大ナルコトヲ、然リ而シテ英國カ自國ノ木材供給地トシテ頼ム所ハ自國領地ノ加奈陀ニシテ尙其不足ハ之ヲ露國、瑞典及諾威等ニ仰ケ

リ、是ニ於テカ英政府ハ永年ノ經驗ニ依リ商工業ノ進歩ハ著シク木材ノ需用ヲ増加スルコトヲ證明シ且將來愈増加セントスル林産ノ需用ニ對シテ加奈陀及東歐各國ノ頼ムヘカラサルヲ洞察シ、輒近自國領地ノ印度ニ於テ熱心ニ林業ノ計營ヲ企圖スルニ至レリ、單ニ商工業ヲ以テ立ツ英國ニシテ林業ノ經營施設ニ着眼スルコト已ニ斯ノ如シ、又近來獨逸國ノ商工業カ進歩發展ノ顯著ナルコトハ世人ノ知ル所ニシテ、輒近二十年間ニ於テ外國貿易ノ總額及商船噸數ハ五割ヲ増進シ、又最近十年間ニ石炭及鐵ノ產出ハ十三割強則チ殆ト一倍半弱ノ増進ヲ顯ハシ、之ニ伴ヒテ大ニ木材ノ需用ヲ増進シ其輸入超過ハ千八百八十八年ニアリテハ二千三百六十四萬二千「チエントナル」(六「チエントナル」ヲ以テ一立法「メートル」則チ我尺ニ三本ト見做シテ大差ナシ)此價格七千五百十二萬二千「マルク」ニ過キサリシカ、千八百九十八年ニハ四千七百三十五萬「チエントナル」此價格二億九千六百四十八萬九千「マルク」ニ昇リ僅カニ十年間ニ材量ニ於テ二倍、價格ニ於テ三倍以上ノ劇甚ナル増進ヲ現ハセリ、由來獨逸國ハ林業ヲ以テ稱セラレ材量ノ豐富ニシテ且作業ノ合理ナル森林無慮一千四百萬「ヘクタール」(一「ヘクタール」ハ我約一町二十五歩ニ當ル)ヲ領有スルニモ拘ハラズ、商工業ノ大進運ハ木材ノ需用ヲシテ頓ニ増加セシメ、今ヤ自國消費材ノ約三分ノ一ヲ他國ニ仰カサルヲ得サルニ至レリ、其他商工業ヲ以テ稱セラル、所ノ佛蘭西、白耳義、荷蘭等ノ一般外國貿易ト木材貿易トノ趨勢ヲ查察ノ趨勢ト揆フニセリ、是ニ由テ見レハ林業カ商工業ノ進歩發展ノ上ニ至大

シテ餘アリトス、

熟々我國ノ地勢、氣候、位置ヨリシテ通商ノ關係、比隣各國ノ事情等ヲ觀察シテ將來執ルヘキ實業上ノ方針ヲ接スルニ、商工業ノ進歩ト共ニ林業ヲ駢進セシメ、以テ獨立シタル商工業國トナスノ一大決心ヲ確立スルヲ要ス、則チ内ニシテハ林地ヲ保護蕃殖シテ國土ノ安寧ヲ保維シ、洪水氾濫ノ災ヲ豫防シ、林産ノ供給ヲ増進シテ商工業ノ進歩ヲ促致シ、外ニシテハ將來支那、朝鮮ノ開明ニ乘シ鐵道ノ布設ニ電信ノ架設ニ、鑛山ノ採掘ニ、將タ工業ノ原料ニ缺クヘカラサル木材ヲ輸出シテ隣邦開國ノ大事業ヲ補クルコトハ、我國ヲ措テ將タ何レノ國ニ之ヲ求ムヘキカ、由來北米合衆國及加奈陀ノ森林ハ豐富ナリト稱ス、或ハ然ラシ然レトモ英、獨、佛等歐洲各國ノ將來愈々増進シテ殆ト底止スル所ナキ木材ノ需用ニ應シ且自國ノ劇甚ナル商工業ノ進歩發展ニ伴ヒ年々巨億萬ノ木材ヲ供給シテ果シテ幾數十年ヲ耐ヘ得ヘキカ、獨、佛ノ森林家ハ北米合衆國及加奈陀ノ森林ノ富ヲ概算シ歐洲各國カ彼等ノ森林ヨリ木材ノ供給ヲ仰キ得ルハ今ヨリ三十年若タハ五十年ナルヘシト説ク者アリ、是固ヨリ精確ナル統計ニ基ツキタル立論ニアラス、然レトモ世人カ米國森林ノ富ヲ以テ無盡藏ナルカ如ク想像シタルハ其謬見タルヲ知ルニ難カラス、

是ニ由テ之ヲ觀レハ我國カ此天然ノ地勢ヲ利用シ將來林政上執ルヘキ大方針ヲ確立シ永遠ノ大規模ニ依リ林業上一般經營施設ノ基礎ヲ立ツルハ、寔ニ方今國家經濟上至急至大ノ要務ナリト言ハサルヘカ

ラス、然リ而シテ其森林ノ制度法令ヨリ百般ノ施設ハ固ヨリ我國体ニ基ツキ、國ノ位置ニ鑑ミ、尙風俗民情ト歴史習慣ヲ參酌シ之ヲ制定設置セサルヘカラサルハ言ヲ俟タスト雖モ、亦林業上ノ先進國ノ經驗ニ鑑ミ長ヲ採リ短ヲ補フノ方法ニ依ルハ極テ安全ノ策ナリト信ス、余輩昨年親シク佛國巴里博覽會ニ臨テ各國林業ノ進否長短ヲ對比シ若干カ其大勢ヲ窺測スルヲ得タリ、殊ニ澳太利ノ出品ニ係ル種々ノ模形、圖面、統計表等ニ依リ輒近該國林業ノ進歩ト森林經濟ノ發達トノ顯著ナルヲ想見シ、且我國ニ於テ做フヘキノ點多々ナルヲ發見セリ、何トナレハ彼國ノ林業カ國家ニ對スル位置、國ノ地勢及林況ノ我ニ酷似スル所アルカ上ニ彼國カ輒近林業ヲ以テ國家經濟ノ大本トナシ中歐ノ木材市場ヲ獨占スルノ決心ヲ顯ハシ、致々トシテカヲ林業ノ發暢ニ致スノ事實アレハナリ、是ニ於テカ余輩澳國ニ遊フノ念禁スル能ハス佛、獨ヲ經テ澳國ニ到リ該國ニ駐在スルコト八閱月林政及林業ノ一斑ヲ觀察シ該國林業ノ劇甚ナル進歩ヲ致シタル所以ヲ聊カ窺測スルコトヲ得タリ、左ニ見聞ノ要概ヲ記述セム、若シ同愛ノ士閱讀ノ勞ヲ惜ムナクンハ蓋シ望外ノ幸也

凡 例

- 一 本書ノ參考ニ資スヘキ法律、規則及報告ノ類甚タ多シ、之等ヲ悉ク載スルハ煩勞ニ耐ヘサルノミナラス却テ要領ヲ得難カラシムルノ嫌アルヲ以テ各事項ノ記述上必要ナル場合ニハ文章中ニ其要ヲ摘メリ只其最モ重要ナリト認メタル森林法律及山水ヲ無害ニ他ニ導ク爲メノ設備ニ關スル法律ハ之ヲ附録トシテ末尾ニ付セリ、
- 一 本書中ニ掲記シタル計數ハ論旨ヲ妨ケサル限リハ其端數又ハ時トシテハ百位、千位已下ヲモ省略シタリ、
- 一 文章中假名ノ左方ニ線ヲ引キタルハ人名、地名等ニシテ假名ヲ「」ノ記號ヲ以テ圍ミタルハ貨幣、面積、容積、距離等ノ單位ノ名稱ナリ、又假名ヲ（ ）ノ記號ヲ以テ圍ミタルハ註釋又ハ注意ノ記載ナリトス、
- 一 貨幣、面積、容積、距離等ハ多ク之ヲ改算セス、是レ改算ノ爲メ端數ヲ生シ計數上煩雜ヲ來タスノミニシテ何等ノ利益ナケレハナリ

目次

總論

第一節 地勢氣候及林況ノ要概

第二節 林業ノ狀態

一 森林ノ面積

二 林業ノ發達

第一章 森林管理ノ機關

緒言

第一節 森林最高監督機關

一 農務省

二 國有林ノ技術局

三 砂防工ニ關スル技術局

附 砂防工ニ關スル地方機關

第二節 森林ノ監督機關

目次

一頁
七七
七
二
一九
一九
二〇
二〇
三三
三〇
三二
三三

第三節 國林有ノ管理機關	三七
一 森林及國有地監督局	三七
二 森林及國有地管理署	四四
附 森林及國有地ノ保護機關	四五
第二章 國有林及基本林ノ施業及經濟等	五一
第一節 森林ノ施業	五一
一 施業ノ綱領	五一
二 作業ノ方法	五二
三 經理事業ノ成績	五五
四 造林事業	五七
(一) 天然造林	五八
(二) 人工造林	五九
第二節 森林ノ收支	六二
一 事業ノ收入	六二
二 事業ノ經費	七二

第三節 林業勞力者	八二
第四節 森林收入ノ徵收ニ郵便貯金局ノ交通手形ヲ利用スルコト	九〇
第三章 森林教育ノ機關	九九
緒言	九九
第一節 高等教育ノ學校	一〇二
第二節 中等教育ノ學校	一〇九
第三節 下等教育ノ學校	一一四
一 造林學校	一一五
二 森林保護吏學校	一一六
第四章 森林官吏ノ登用及森林家ノ國家試驗	一二一
第一節 森林官吏ノ登用	一二一
一 森林技術官	一二一
二 森林保護吏及技術助手	一二五
第二節 森林家ノ國家試驗	一二六
第五章 森林官吏ノ待遇	一三三

緒言

一三三

第一節 俸給旅費及賞與手當

一三四

第二節 官舍及自用地ノ貸與并ニ自用燃材及制服ノ給與

一三八

第三節 官吏ノ恩給ニ關スル方法

一四一

一 恩給ノ種類

一四一

二 官吏退隱料

一四三

三 寡婦恩給及孤兒恩給

一四八

四 子女養育料及子女養育料附加額

一五二

五 一時賜金及死亡賜金

一五四

第六章 狩獵ノ制度

一五五

第七章 森林ニ關スル設置所ノ概況

一六三

第一節 林業試驗所

一六三

第二節 森林協會

一六四

第三節 森林的工業場

一六八

附 錄

森林法律

一七二

山水ヲ無害ニ他ニ導ク爲メノ設備ニ關スル法律

一九九

總論

第一節

地勢、氣候及林況ノ概要

奥國ノ地理學上ノ位置ニ於テ種々ノ差別アルト、土地ノ海面ヲ拔クコト高キトニ依リ地勢、氣候及林況亦千差萬別ナリトス。然レトモ國土ノ大部分ハ山嶽ニシテ其面積ハ國ノ全面積ノ四分ノ三以上ヲ占メ平地ハ僅カニ其四分ノ一ヲ保ツニ過キス、則チ高サニ依ル國土面積ノ分配ハ實ニ左ノ如シ、

地形	面積	百分率
平地	七六、六〇〇	二五、六
丘陵	一九五、一〇〇	六四、九
高山	二八、五〇〇	九、五
全面積	三〇〇、二〇〇	一〇〇、

(一)「クワドラートキロメートル」ハ約我百町八反三畝歩余ニ當ル

山嶽ハドナウ、ワデル等ノ大河ニ依リ帶狀ニ分割セラレ、普通之ヲアルペン地方ヘルチスツセ地方及カルパートル地方ノ三ニ區別ス、最高位置ノ山嶽ハ國ノ西南部ニシテ所謂アルペン山是ナリ、チロールノアルペン山ニテハ其最高點ハ拔海三千九百〇八「メートル」ニ達スル所アリ、舟後ノ通スル河川ハ北海ニ流ル、エルベ及ライン東海ニ注クワイクセル、ワデル、黒海ニ下ルドニス

二
テル、ドナウ及裏海ニ朝スルエツチ、イゾンゾ、ゲルヨナレンタ等ニシテ皆運輸ノ便ヲ助ク、此國ノ
河川及運河ノ總延長ニ於テ筏ヲ通シ得ヘキモノ二千七百四十三「キロメートル」、(一キロメートルハ我
九町余ニ當ル)船及筏ヲ通シ得ヘキモノ二千七百四十三「キロメートル」、蒸氣船ノ往復スルモノ千百十
八「キロメートル」ナリ、河ノ最大ナルハドナウニシテ其流域十一萬五千平方「キロメートル」長サ三百
二十「キロメートル」ヲ有セリ、之ニ亞クハエルベニシテペーメンノ諸川ハ悉ク之ニ注キ流域五萬千二
百六十六平方「キロメートル」長サ三百八十「キロメートル」ヲ有シ其内三百四十「キロメートル」ハ舟筏
ヲ浮ベメルニツク以下ハ蒸氣船ヲ通ス、

地理上ノ位置及海面上ノ高サノ異ナルニ從ヒ各地方ノ温度、風ノ方向及雨量モ甚タ種々ナリ、然レト
モ氣候上降雨ノ時季ニ依リ普通之ヲ分ツテ夏雨地方及秋雨地方ノ二トナセリ、北部各州即チペーメン
ガルチエーン、ブコビナ、上及下澳國、サルツブルク、スタイエルマル、クケルンテン、北チロール及フオ
ルアールベルクハ夏雨地方ニシテ、南部各州即チクライン、イストリオン、ゲルツ、グラヂスカ、南
チロール及ダルマチエーンハ秋雨地方ニ屬セリ、澳國ノ氣候ハ一般ニ温和ニシテ植物ノ生育及牧畜業
ニハ最モ適セリ、温度ノ高キ地方ハ南ダルマチーンニシテ年平均温度攝氏十七度ナリ、之ニ反シ低温
ナルハアルペン、リーゼン及カルバテン地方ニシテアルペン、ケルンテンニテハ年平均温度攝氏〇、
六度ニ降レリ、一般ニ温度ハ高サ一百「メートル」毎ニ攝氏温度〇、五九度ヲ低下ス、故ニ高サ二百七十

「メートル」ニテ一度ノ温度ヲ低減スルノ比ナリ、

雨量ハアルペン及カルバテン地方ニ多クシテ中央アルペンノアルト、アウスシイーニ於テハ一ケ年
間ノ雨量殆ント二千「ミリメートル」ニ達セリ、之ニ反シブラーク、ダルマチエーンノカルストブラテ
アウ及イストリー地方ニ於テハ最モ少ナクシテ一ケ年間ノ雨量僅ニ五六百「メートル」ノ所アリ、中央
氣象臺ノ報告ニ依リ概言スレハ雨量ノ多キ時季ハ七八月ノ季節ニシテ一ケ月ノ雨量ハ一年ノ雨量ノ十
三、五「プロチエント」乃至十三、九「プロチエント」ヲ占メ、之ニ反シ一二月ハ雨量最モ少ナキ時季ニ
シテ僅ニ年雨量ノ四、六乃至五、五「プロチエント」ヲ有スルニ過キス、霜ハ高位置ニ從ヒ頻繁ナレトモ
其量ハ多カラス、此一般氣象ノ報告ニテハ森林及農事上ノ問題ヲ解クニ尙不充分ナルヲ以テ澳國農務
省ハ特ニ森林氣象ノ觀測ヲ開始セリ、其目的ハ氣候ガ植物ノ生長ニ及ホス關係及森林ノ存在ガ氣候上
ニ及ホス關係ヲ研究セントスルニアリ、即チ其觀測事項ハ雨量、風ノ方向、風ノ速度、濕氣ノ量并ニ
バロメートル及テルモメートルノ度ナリ、既ニ一千八百七十八年乃至一千八百八十年ノ三ケ年間ニ於
テ全國ニ七十一ヶ所ノ觀測所ヲ設置シ、森林及國有地管理署(森林及國有地管理署ハ我國ノ小林區署
ト其位置及性質ニ於テ稍近似スル官衙ナリ)ノ職員ヲシテ觀測ニ從事セシメ居レリ、
地質ハ中央アルペン地方ニテハ結晶シイフアル岩ニシテ主トシテグナイスイヨリ成リ、南アルペンニテ
ハロート、ホルフェル、北ノカルクアルペンニテハムツセルカルクヲ見ルコト多ク南ノカルクアルペ

シニテハクライト石灰及砂岩ヲ多シトス、カルバーテン地方ハ概シテ火山岩ニシテ表面ハ砂炭、石炭及メルゲルシイーフェルヨリ成レリ、故ニ土地ハ地方ニ依リ豊瘠ノ差アルヲ免レスト雖モ樹種ノ撰擇其當ヲ得レハ最高ノ山嶽ヲ除クノ外ハ森林ニ仕立テ得ヘカラサルノ所少ナシトス、

上文所記ノ如ク地勢、氣候及土壤ノ種々ナルニ依リ樹種甚タ多ク利用上必要ナル樹種ハ殆ント之ヲ見サルナシ、然レトモ主要樹ハ針葉樹ニアリテハトウヒ、シラベニシテ濶葉樹ニテハブナナリ、殊ニ國有林及基本林(基本本林トハ教會、學校其他ノ設備ノ基本財産林ニシテ宗教基本林、學校基本林、寄附基本本林ノ區別アリ凡テ基本本林ノ管理、施業及保護ハ一切之ヲ國有林ト共ニ政府ニ於テ施行シ其純收入ヲ其所有者ニ付與スルノ制ナリ)ニテハ南部一二地方ヲ除クノ外ハトウヒ及シラベ其他ノ針葉樹ヨリ成レリ、今其國有及基本林地全林積ニ對スル部合ヲ掲クレハ左ノ如シ、

トウヒ	四八、八
シラベ	一八、九
其他ノ針葉樹	七、八
ブナ	二〇、二
其他ノ濶葉樹	四、三
計	一〇〇、〇

故ニ針葉樹林ハ全林積ノ七十五、五「プロチエント」則チ四分ノ三ヲ占メ、濶葉樹林ハ僅ニ其四分ノ一ヲ占ムルニ過キス、只惜ムラクハ澳國ニ於テハ一般森林ニ關スル此種ノ統計ヲ缺ケリ、然レトモ町村林、團體林及私有林ハ國有林ニ比スレハ良好ナル位置ヲ占メ且收入モ多キヲ以テ林況モ尙一層佳良ナルコトハ推測スルニ難カラス、是ニ由テ之ヲ觀レハ善良ノ樹林ニ富ムコトハ獨逸各聯邦ニ優ルモ劣ル所アルヲ見ス、試ミニ其重ナルモノニ比較スルニ只王國撒遜(針葉樹八十五濶葉樹十五)ニ及ハスシテ巴威里(針葉樹七十四、濶葉樹二十六)及チューリッゲン(針葉樹七十四濶葉樹二十六)ニ稍等シク普魯士(針葉樹六十六濶葉樹三十四)其他ノ各邦ノ上位ニ在リ、澳國カ林業上ニ好望ヲ抱ケルモ實ニ故アリト言フヘシ、左ニ主要ニ二樹種ノ生育ノ概況ヲ掲ケ參考ニ資ス、

トウヒ (die Fichte Pinus Picea, du Roi.)ハ高山地方ニテハ多クハ純林ヲ成シアルペンニテハ二千「メートル」ノ高サニ達シ高山ハ殆ト此樹ノミヲ以テ充タサル、然レトモ其生長狀況ハ地方ニ依リ大差アリ、アルペン及カルバーテンノ高山ニテハ樹幹短クシテ下枝多ク且蘂若ヲ付生セリ、素ヨリ之等ノ森林ハ盡ク保護林ノ取扱ヲ爲シテ國土保安ニ重キヲ置ケリ、此樹ノ最適地ハ風ノ強カラサル傾斜ノ穩カナル場所ニシテ殊ニ混砂泥土ノ土壤ナリトス、

シラベ (die Tanne, Abies Pectinata, de Candolle)ハ普通トウヒ又ハブナト混生シ森林ノ主木トナルコト甚タ罕ナリ、只純林トシテ成立スルモノハ維也納、カルバーテン、テルノワーチル及イドリヤ等ノ地方

ナリトス、アルペン地方ニテハ混淆林ヲ成ス、然レトモ千六百「メートル」以上ニ達スルコト罕ニシテ
 森林帯ノ幅員甚タ狭シ一般ニ皆伐作業ノ結果トシテ此樹ハ漸ク減少セル傾向アリ、
 ブナ (die Rothen Buche, Fagus Sylvatica, Lin.) ハシラベト同位置ノ森林帯ニ生シ美良ナル閉鎖シタル森
 林ハ千五百「メートル」以下ノ所ナレトモ矮小ナルモノハ千八百「メートル」迄ニ達ス、ガリチエーン及
 ブロビナ地方ニテハ高山及平地ニ生シ多クハ混淆林ナレトモ其主木タリ、カルバーテン山脈ノ東方ニ
 進ムニ從ヒ漸ク此樹ノ増加スルヲ見ル、

其他三主木ニ亞キ稍主ナル樹種ハ左ノ數種ニ過キヌ

針葉樹

カラヤツ	die Lerche. Pinus Lacois, Lin.
シロヤツ	die Weizkiefer. P. Sylvestris, Lin.
シロヤツ	SchwarzHöhre. P. Austriaca, Hüss.
松ノ類	Zirbenkiefer. P. Cembra, Lin.
ハノヤツ	die Legföhre. P. Pinnitio, Haenke.
クヤツ	die Stumpfkiefer. P. Uligrosa, Neumann.

闊葉樹

カシノ類	die Stieleiche. Quercus Pedunculata, Willdenow.
	die Traubeneiche. Q. Robur, Willdenow.
	die Weichhaarige Eiche. Q. Pubescens, Willdenow.
	die immergrüne Eiche. Q. Ilex, Lin.
	die gemeinde Oder Schwarzerbe, Alnus. glutinosa, Grt.
ハンノキ類	die Weiszerbe. A. Incana, de Candoll.
	die Berg oder alpenerbe. A. Viridis de Candoll.

カハノキ Birke. Betula.

第二節 林業ノ状態

一 森林ノ面積

澳國ノ全面積ハ三千〇〇二萬「ヘクタール」(「ヘクタール」ハ我凡一町二十五歩ニ當ル)ニシテ森林面
 積ハ九百七十一萬「ヘクタール」ナリ、故ニ森林面積ハ全面積ノ三十二「プロチエント」ニ當レリ、此部
 合ハ日本(五十七「プロチエント」)及セルビーン(四十八「プロチエント」)ニ及ハスシテ瑞典(三十四「プロチ
 エント」)ニ伯仲シ、瑞西(二十七「プロチエント」)獨乙(二十六「プロチエント」)伊太利(二十二「プロチエント」)
 佛蘭西(十六「プロチエント」)其他ノ各國ノ上位ニアリ、若シ之ニ匈牙利(匈牙利帝國ト匈牙利王國トハ

所謂千八百六十七年十二月廿一日ノ聯合條約ニ依リ聯合シ澳匈君主國ト稱ス此聯合條約ニ依レハ各自完全ニ獨立シテ各憲法及立法權ヲ有スト雖モ國政ノ一部分則チ外交、陸海軍、共同事務的ノ財政ハ共同ニシテ且ツ貨幣制度、關稅、專賣ニ關スル件ハ同一ナリ、故ニ統計上等ニ就テハ兩國ヲ併合シテ觀察スルノ便ナルコトアリテ以下必要ナル場合ニハ往々匈牙利國ヲ併セ論スルコトナリ、又匈牙利國ト稱スルモノハクロアチーン及スラボニンノ兩國ヲ含ムモノトスヲ加ヘテ算スルトキハ、國ノ面積六千二百四十九萬「ヘクタール」森林面積千八百七十八萬「ヘクタール」ニシテ其森林面積ノ部合ハ稍下リテ三十「プロチエント」トナレトモ尙前記ノ順次ヲ失ハス、一千八百九十年ノ人口調査ニ依レハ澳國ノ人口ハ二千三百八十九萬五千人余ニシテ澳匈兩國ノ人口ハ四千三百三十五萬八千人余ナルヲ以テ澳國ニアリテハ人口一人ニ付平均〇、四六「ヘクタール」澳匈兩國ニアリテハ人口一人ニ付平均〇、四五「ヘクタール」ノ森林ヲ有スル割合ナリ之ヲ

人口一人に付平均森林面積

那威	三、八〇 <small>「ヘクタール」</small>
瑞典	三、五〇
土耳其及ボスニン	一、二九
セルビーン	一、三三

日本	〇、五三
西班牙	〇、四七
希臘	〇、四五
ルーマニン	〇、三四
獨乙	〇、三七
瑞西	〇、二五
佛蘭西	〇、二〇
伊太利	〇、一八

ニ比スルトキハ只那威、瑞典、土耳其、(ボスニンヲ含ム)セルビーンヨリハ遙ニ少ナク我國ニ及ハスシテ西班牙、希臘ト相伯仲シルーマニン、獨乙、瑞西、佛蘭西、伊太利等ヨリ多シトス、若シ之ニ匈牙利(〇、五二「ヘクタール」)ヲ加ヘレハ稍昇リテ約〇、五「ヘクタール」トナルヘシ、然レトモ尙前記ノ順次ヲ變スルニ至ラス、澳匈兩國ガ豐富ナル森林地ヲ有スルコトハ知ルヘキナリ、林政上施政ノ方針ニ大ナル關係アルモノハ森林ノ所有別面積ナリトス、澳國內ニ於ケル所有別分配ヲ見ルニ大要ハ左ノ如シ、

國有林 一、〇一七、〇〇〇「ヘクタール」

町村林 一、三九八、〇〇〇
 私有林 七、二八一、〇〇〇
 巴威里國有林 一一、〇〇〇

合計 九、七〇七、〇〇〇

備考

(一) 國有林ニハ國有林及基本林ヲ含ミ、^{フランス、ブラジリア}基本林ニハ宗教基本林、學校基本林及寄附基本林ノ別アリテ其面積ノ歩合ハ左ノ如シ

國有林 六九、六^{「プロチエント」}
 基本林 三〇、四
 宗教基本林 二九、九
 學校基本林 〇、三
 寄附基本林 〇、二
 (二) 私有林ニハ御料林、世襲財產林、教會及教會組合林ヲモ含ム面積ハ凡左ノ如シ
 御料林 一三〇、〇〇〇^{「ヘクタール」}
 内世襲財產林 六五、〇〇〇

世襲財產林 八三七、〇〇〇

但御料世襲財產ヲ除ク

教會及教會組合林 二五〇、〇〇〇

是ニ由レハ澳國ニアリテハ森林ノ大部分ハ私有林ニシテ其面積ハ全森林面積ノ七割五分余ヲ占メ、國有林及町村林ハ其二割五分弱ヲ有スルニ過キス、然レトモ私有ト稱スルモノハ殆ント國有林ト同一ノ取扱ヲナス御料林并ニ町村林ヨリ一層保續上安固ナル世襲財產林、教會林及教會組合林(其面積百六十一萬七千「ヘクタール」)ヲ含ムコトヲ注意セサルヘカラス、今假リニ之等ノ森林ヲ町村林ト併セテ團體林ト稱シ其面積ノ部合ヲ改算スレハ約シテ左ノ數ヲ得ヘシ

國有林 一一、^{「プロチエント」}
 團體林 三二、
 私有林 五八、
 若シ之ニ匈牙利ノ國有林十六「プロチエント」團體林五十二「プロチエント」私有林三十二「プロチエント」ヲ併セテ計算スレハ約
 國有林 一一、^{「プロチエント」}
 團體林 四二、

總論

私有林

四五、

ナリトス、國有林ノ多キハ西班牙(八二)「プロチエント」希臘(八〇)「プロチエント」露西亞(六六)「プロチエント」及日本(五一)「プロチエント」ニシテ、其少キハ以太利(四)「プロチエント」及瑞西(四)「プロチエント」ナリ、之ニ反シ私有林ノ少キハ西班牙(一七)「プロチエント」希臘(二〇)「プロチエント」瑞西(一九)「プロチエント」及露西亞ニシテ其多キハ瑞典(八五)「プロチエント」那威(八〇)「プロチエント」佛蘭西(六六)「プロチエント」及以太利(四三)「プロチエント」等ナリ、又團體林ニ富ムハ瑞西(六七)「プロチエント」及以太利(四三)「プロチエント」ニシテ其皆無ナルハ露西亞、フィンランド及那威僅少ナルハ西班牙(二)「プロチエント」及瑞典(三)「プロチエント」ナリ、是ニ由リテ見レハ澳國ハ比較的ニハ森林所有ノ分配ノ有様ハ殆ント各國ノ中央ノ位置ニアリト雖モ、澳國ノ地勢、國狀及林業ノ位置ヨリ觀察スルトキハ國有林ノ面積狭小ニ失シ國土ノ保護林業ノ進歩等ニ意外ノ困難ヲ感シ居ルヤノ状態ナキニアラス、備考 我國ノ全森林ニ對スル國有林ノ部合ノ計算ハ北海道沖繩縣及臺灣ヲ算外ニ置キ且簿面ニ依リタルモノナリ

二 林業ノ發達

熟々澳匈國ノ林業ノ趨勢ヲ觀察スルニ兩國ガ較近森林ノ富源ヲ開キ森林ノ收入ヲ以テ國ノ財源トシ着

々木材商業ヲ發展シテ今ヤ林業ヲ以テ國家經濟ノ大本トナスニ至リタルヲ認ム、試ミニ近世五十年間此兩國ノ木材外國貿易ノ伸長進展ノ狀ヲ統計ヲ以テ示サンカ、

年 度	輸 出	輸 入	輸 出 超 過
一八四八	二、二八四、三三八	四五〇、二七八	一、八三四、〇六〇
一八五八	一一、四九三、〇〇〇	五、〇七四、〇〇〇	七、四一九、〇〇〇
一八六八	二四、五一〇、四六二	二、四七四、九一六	二二、〇三五、五四六
一八七八	三八、九六三、〇六七	一、六九五、〇五一	三七、二六八、〇一六
一八八八	五八、二七〇、一一七	四、六〇八、八一九	五三、六六一、二九八
一八九八	八二、六〇七、四三九	四、三五七、四一七	七八、二五〇、二〇〇

木材製品

一八八六	一七、一二二、二九二	四、〇七五、一九六	一三、〇四七、〇九六
一八九六	二〇、四〇三、七六五	五、二五九、四二五	一五、一四四、三四〇

(「グルデン」ハ澳國ノ舊貨幣ニシテハ同國新貨幣ノ「クローチ」ニ價シ我國ノ約八十錢余ニ當ル)

是ニ由テ之ヲ觀レハ輸入ハ五十年間増減一定セス且其額モ僅少ナリト雖モ、輸出ハ峻々トシテ増加シ千八百四十八年ノ二百萬「グルデン」ハ五十年間ニ四十倍ノ増進ヲナシ、千八百九十八年ニ至リ八千二百萬「グルデン」ニ達シ、之ニ木材製品ノ輸出額ヲ加算スルトキハ一億三百萬「グルデン」ニシテ木材及木材製品ノ輸出額ヲ控除スルモ尙九千三百萬「グルデン」余ナリトス、千八百九十八年澳匈兩國ノ輸出總額ハ八億六千八百六十萬「グルデン」(一千萬「グルデン」ノ重要輸出品ハ二十四種)ニシテ木材ハ其第一位ヲ占メ之ニ亞クモノハ砂糖(六千七百萬「グルデン」)穀物(六千五百萬「グルデン」)金屬(六千百萬「グルデン」)家畜(五千五百萬「グルデン」)鶏卵(四千萬「グルデン」)等ナリトス、林業ハ實ニ澳匈兩國ノ經濟ヲ維持スル最モ重要ノ産業トハナリヌ、然レトモ斯ノ如ク林業ノ進展シ木材貿易額ノ増進シタルハ近世ノコトニシテ其原因ハ社會ノ進歩ニ從ヒ木材需用ノ増加シタルト交通機關ノ發達シタルトニ由ルト雖モ亦澳匈兩國ノ有識者カ社會ノ進轉ト自國ノ國狀トヲ察シ大ニ林業上ニ注意シ百般ノ施設其當ヲ得タルニ由ラスンハアラス、

說ヲナス者アリ、曰ク澳匈兩國ノ木材輸出ノ増加ハ獨乙ノ工業ノ進歩ニ促カサレ頻リニ木材ヲ伐リ出シ其需用ニ應シタルニ由ルト雖モ其木材ヲ產出スル所ノ林業ハ永久保續ノ合理的ノモノニアラスシテ恐クハ濫伐作業ナラント、此問題ヲ解カンニハ木材ノ生産量ヲ算セサルヘカラス、佛國森林官メラリルド氏ノ計算ニ依レハ兩國ニ於ケル千八百九十六年ノ木材產出額ハ左ノ如シ

澳	用材	一二、九〇〇、〇〇〇	用材林ハ全林ノ約四十七「プロチエント」
内	燃材	一四、六〇〇、〇〇〇	
匈	用材	二八、五〇〇、〇〇〇	用材林ハ全林ノ約三分ノ一
内	燃材	一九、〇〇〇、〇〇〇	

(參考「フエストメートル」ハ我凡尺ノ二本ニ當ル)

是ニ依レハ其用材產出量ノ併算高ハ二二、四〇〇、〇〇〇「フエストメートル」ニシテ則チ林面積「一」ヘクタール」ニ付一、一九「フエストメートル」ノ產出ニ當レリ、此產出量ハ佛蘭西(一、〇七「フエストメートル」)及普魯士(〇、八一「フエストメートル」)ニ比スレハ稍多シト雖モ不合理ナル作業ニ基ク生産額ト言フヲ得ス、又實際ノ狀況ヲ觀ルニ町村林、團體林ハ言フヲ俟タス私有林ト雖モ專門家ヲ以テ管理及施業スルコトニ當ラシムルヲ以テ敢テ政府ノ嚴格ナル監督ヲ俟タサルモ不合理ナル作業ヲナスナキ状態ニシテ濫伐作業杯ノ評言ノ當ラサルハ一回足ヲ彼國ニ入レタル者ノ皆知ル所ナリ、又或者ハ曰ク「世世澳匈兩國ノ林業ノ發展、殊ニ木材貿易ノ増進シタルハ驚クニ余アリ然リト雖モ現今ノ木材輸出ハ恐クハ其極點ニ達シタルモノニシテ尙此上モ木材輸出ヲ増加セントスルカ如キハ澳國ノ爲メ宜シク慎

ムヘキ所ナリト、蓋シ是該國ノ國家經濟上ノ大問題ナリトス、今試ミニ澳匈兩國ノ木材ノ需用供給ヲ算センカ、千八百九十八年ノ木材輸出入ノ重量ハ左ノ如シ、

輸 出	三三三、四八七、八二三
輸 入	一、七二四、二二二
差引輸出超過	三二、七六三、七〇一

則チ

五、二九三、九五〇

(參考六「チエントネル」ヲ以テ「フエストメートル」ト假定ス)

更ニ之ヲ丸太材ニ改算スレハ(丸太材ハ造材ノ三割増ト見做ス)約六百八十萬「フエストメートル」ナリ之ヲ前ニ記シタル用材產出量二千二百四十萬「フエストメートル」ヨリ減スレハ千五百六十萬「フエストメートル」ニシテ是則チ國民ノ需用スヘキ材量ナリトス、之ヲ人口四千三百三十五萬八千人ニ配當スレハ一人ニ付〇、三八「フエストメートル」(則チ我尺一)本餘ナリ、澳匈兩國ト殆ント伯仲スル人口ヲ有スル英吉利(千八百九十九年四千〇五十五萬九千人餘)ハ毎年千五百萬「フエストメートル」ノ木材ヲ輸入需用シ獨逸(千八百九十五年五千二百二十七萬九千人餘)ハ面積一千四百萬「ヘクタール」ノ森林ヲ有スルニモ拘ハラス尙毎年九百萬「フエストメートル」ノ木材ヲ輸入ス之ヲ以テ見レハ澳國ニ於テモ將

來大ニ木材輸出ノ増加ヲ企ツルノ餘地ナキモノト断定セサルヲ得ス、勿論澳國ノ工業ハ英獨等ニ比スヘキニアラサレハ木材需用ノ程度ハ現今ニ於テハ未タ英獨ノ如ク多カラスト雖モ輓近化學及器械的工業ノ發展モ着々其歩ヲ進メ、且人口ノ増加モ稍急速ナル部分ナルヲ以テ英獨ノ如キ位置ニ至ルモ蓋シ遠キ未來ノコトニアラサルヘシ、果シテ然ラハ澳匈兩國ノ爲メニ謀ルニ今日ニ於テ工業ノ原料若クハ使用料トシテ必要ナル木材ノ輸出ヲ制限シ森林ニ豐富ナル材積ヲ貯藏スルノ政策ヲ採ルハ他日歐洲ノ經濟界ニ大ニ驥足ヲ伸サントスルニ必要ナルコトナリトス、

抑モ澳國林業ノ現時ノ進展ヲ見ルニ至リタルハ素ヨリ社會經濟上ノ進步ノ促致セシハ勿論ナリト雖モ其社會ノ進轉ニ乘シ國狀ニ鑑ミ林業ヲ以テ國家經濟ノ大本ト定メ、林業上ニ關スル法令制度、其他百般ノ施設ヲ着々遂行シタルニ由ラスンハアラス、殊ニ林政方針ノ確定、人物ノ養成則チ森林教育、人物ノ取扱則チ森林官吏其他森林家ノ採用及待遇、町村林團體林并ニ私有林ノ監督等ノ點ニ於テ其施設及實行ノ宜シキヲ得タルハ余輩ノ認テ以テ最大ノ原因トナス所ナリ、讀者若シ下文ニ叙述スル所ニ就キ留意閱讀スル所アラハ又林業界ヲ裨補スルコトナシトセンヤ、

第一章 森林管理ノ機關

緒言

森林法ヲシテ健全ニ且圓滑ナル活動ヲ爲サシメントスルニハ秩序整然タル活動ヲ爲スヘキ林政機關ナルヘカラス、而シテ其機關ノ設備ニ關シテハ森林法ノ目的及林業ガ國家經濟上ニ對スルノ位置ニ鑑ミ且森林教育普及ノ程度、國ノ財政上ノ状態及林政上ノ歴史ヲ參酌シテ之ヲ定メサルヘカラス、澳國ガ現時ノ森林管理機關ヲ完成スルニ至リタルニハ彼ノ千八百七十三年ノ林政改革ニ基ケルモノニシテ今日ノ林業ノ發展ヲ見ルニ至リタルモ全ク此英斷ナル改革ノ賜ナリト謂フモ過當ノ言ニアラサルヘシ抑モ澳國林業ノ進歩ニ就テハ著シク區別スヘキ二期アリ、則チ第一ハ千八百四十八年乃至千八百七十三年ニシテ林政ノ改良ヲ促致センカ爲メ機關ノ動搖ヲ免カレサル所謂林政ノ革新時代ナリ、第二ハ千八百七十三年乃至千八百九十八年ニ於ケル林政ノ根柢ヲ確定シ着々歩ヲ進メタル所謂林政ノ秩序的進歩ノ時代ナリトス、

林政上ノ沿革ヲ案スルニ國有林及基本林ハ千八百四十八年迄ハ宮内官廳ノ主管ナリシカ同年宮内當該官廳ノ解カル、ヤ殖産上ノ事件ハ一般ニ農商務省ノ管理ニ歸セリ、然レトモ間モナク^{ウルブロンゴカチタン}粗産業ノ事件ヲ專管セシムル爲メ農商務省ヲ分離シテ農礦務省ヲ置キテ森林行政ヲモ此省ノ掌ル所トナレリ、然レトモ此省モ數年ナラスシテ千八百五十三年ニ至リ廢セラレタルヲ以テ林務ハ財務省ノ管理ニ移サレ

財務省ニ於テハ當初ハ農務省ノ方針ヲ襲踏シ或ハ中林區ヲ設ケ或ハ森林施業上ノ規程ヲ定ムル等致
 タトシテ國有林ノ管理上ニ改善擴張ヲ努メタリシト雖モ、時勢ノ變遷ニ從ヒ財務省ノ本色ヲ呈シ、或
 ハ一時財政ノ都合ニ依リ國有林ヲ賣却シ、或ハ林務ノ地方機關ヲ廢シ其事務ヲ地方財務署ニ移スカ如
 キ時運ニ向ヘリ、終ニ千八百六十七年ノ交ニ至リ彼ノ有名ナル維也納林ノ賣却論アリテ其森林ノ一部
 ハ已ニ維也納市ノ商人ノ手ニ歸セシカ、當時ノ農務大臣タルグラーフ、アルフレット、ポトキーノ熱心
 ナル反對ニ依リテ、賣却論ヲ中止シ或ハ賣却ノ契約ヲ取消テ維也納府ノ一大裝飾タルノミナラス地方
 ノ氣候衛生ニ大關係アル美良ナル森林ヲ今日ニ保存シタルハ實ニ澳國ノ爲メ幸福ナリト言フヘシ、斯
 ノ如キ失体アリシニ由ルヤ否ヤヲ知ラスト雖モ千八百七十二年一月二十日ノ勅令ヲ以テ林務ノ主管ヲ
 再ヒ農務省ニ移サレタリ、

第一節 森林ノ最高監督機關

一 農務省

農務省ハ森林、農業、牧畜、狩獵、礦業等殖産ノ發達ヲ圖ル爲メノ最高ノ監督府ニシテ其事務ヲ處理
 スル爲メ總務局及會計局ノ外ニ三部ヲ置キ尙之ヲ十二局ニ分チ（現今ノ農務省ノ部局組織ハ千八百九
 十四年一月一日ノ制定ニシテ千八百九十八年六月五日及同年十二月二十三日ノ改正ヲ經タルモノナ
 リ）部ニ部長、局ニ局長ヲ置キ、部局務ヲ掌ラシム、國有及基本林并ニ國有地ノ業務ハ主トシテ一ノ
 森林の技術局（第十局）ト一ノ法律的事務局（第十一局）トニ於テ取扱ヒ、又砂防技術ニ關シテハ特ニ砂
 防的技術局（第七局）ヲ置キ其業務ヲ專掌セシメ、其他ノ一般林業及林務ニ關シテハ數局ニ分配セラル、
 今直接森林ニ關スル部局ヲ列記スレハ左ノ如シ、

農務省

- 第十局 國有林等ノ技術ニ關スル管理
- 第十一局 A 國有林等ノ管理ニシテ法律及事務ニ關スルコト
- 第十一局 B 或地方ノ森林施業及保護者ノ人事上ノ件
- 森林勞力者ニ關スルコト
- 第一局 造林ノ獎勵
- 第二局 林業試驗所及林業試驗ニ關スルコト
- 第三局 森林教育ニ關スルコト
- 第四局 森林法、砂防法及狩獵法ノ違反處分及訴訟ノ決定
- 第七局 砂防ノ技術ニ關スルコト等

第五局 A 林業、狩獵ニ關スル法案ノ提出ニ關スルコト

第三部

全 B 林地分合及境界ノ整理

全 C 森林會及組合ニ關スルコト

全 D 農林業ノ統計及内外國勢調査ノコト

備考 森林事務ヲ專掌スルハ第十局第十一局及第七局ノ三局ニシテ他ノ各局ハ農礦業等ニシテ同一種類ノ事務ト併掌スルモノナリ、例ヘハ第一局ニテハ農林業殖産ノ獎勵、第二局ニテハ農林業ノ試験、第三局ニテハ農林學ノ教育ヲ掌ルカ如シ

十二局中直接森林ノ業務ニ關係ナキモノハ第六局第八局第九局第十二局ノ四局ノミニシテ他ノ八局ハ林務ニ多少ノ關係アラサルナシ、斯ノ如ク林務ヲ數局ニ分掌セシムルハ一見甚タ錯綜紛雜ノ嫌ナキニアラスト雖モ、實際ニ於テハ全ク想像ノ外ニシテ秩序整然トシテ毫モ紛雜ノ跡ヲ見サルノミナラス、却テ他ノ親類ノ事務、即チ農業、牧畜、狩獵、礦業等ノ業務ト左提右携シテ互ニ權衡ヲ得テ并立進歩セシムルノ得アルモノ、如シ、特ニ留意スヘキハ單ニ殖産獎勵ノ爲メ(第一局)農林業試験ノ爲メ(第二局)各別ノ一局ヲ設ケタル如キハ其事務ノ進歩的ニシテ澳國政府カ實業ニ對スル政策ヲ察スルニ難カラス、森林事務專掌ノ三局ノ外ハ一般租産ノ實業ノ或種類ノ事務ヲ處理スルモノナレハ職掌、職員等ニ就テ參考ニ資スルノ價值ナク、又森林事務專掌ノ局ト雖モ第十一局ノ如キ法律的事務局ハ法律家

ヲ以テ組織シ、其事務モ一般ノ法律事務ト異ナリ所ナケレハ亦茲ニ記述スルノ必要ヲ見ス、依テ十局及第七局ニ就キ其組織職掌等ヲ記述シテ參考ニ資セントス、

二 國有林ノ技術局

農務省第十局ハ國有林基本林并ニ國有地ノ技術的業務ニ對スル最高監督ノ機關ニシテ純然タル技術局ナリ、即チ此局ノ創設ハ千八百七十三年四月三日澳國法律第四十四號國有及基本林并ニ國有地管理網領ニ基クモノニシテ爾來大ナル變更アルヲ見ス、茲ニ國有及基本林ニ對スル管理ノ要綱ヲ知ルニ便セシカ爲メ左ニ該法律ノ全文ヲ掲ク

國有及基本林并ニ國有地管理ノ綱領

(但ブコヒナノ希臘東方宗教基本ノ財産ニハ之ヲ適用セス)

一 國有及基本林并ニ國有地ノ管理ハ左ノ機關ニ屬ス

イ 森林管理者及國有地管理者

ロ 森林及國有地監督局

ハ 農務省

二 森林及國有地管理者ハ一定ノ地域則チ施業ノ區域ヲ自己ノ責任ヲ以テ直接ニ管理シ獨立ニ施業ス

- 三 森林及國有地管理者ノ職務權限ハ認可ヲ經タル豫算案ニ依リ事業ヲ施シ木材其他林產物ノ賣却、造林、經理事業ノ協同勞働并ニ森林及狩獵ノ管理監督ヲ其事務章程ニ依リ施行ス
- 四 森林及國有地管理者ハ普通其管理區域内ニ於ケル不動産并ニ基本財産ヲ管理ス但國有林ノ面積廣大ニシテ且必要ナル場合ニ於テハ特ニ管理ノ方法ヲ設クルコトヲ得
- 五 森林及國有地管理者ハ金錢ノ取扱ハ原則トシテ之ヲ行フコトヲ得ス唯材料ヲ取扱フモノトス金錢ノ取扱ハ別ニ設ケタル機關ト殊ニ規定シタル章程ニ依リ之ヲ行フ
- 六 森林保護及森林技術上ノ補助ヲ爲サシメンカ爲森林及國有地管理署ニ必要ナル員數ノ監守ヲ置ク此者ハ養老扶助料ヲ受クル常任者ニシテ森林及國有地理管者ニ隸屬シ其任セラレタル職務ヲ行フ義務ヲ有ス
- 監守ハ其保護スヘキ國有及基本財産ノ犯罪并ニ各種ノ被害ニ對シ其責任ヲ以テ保護ス其權限ハ別ニ之ヲ規定ス
- 七 特種ノ土地ノ情態即チ土地ノ甚タシク分立スルコト、林盜ノ多キコト并ニ遠隔ニシテ小面積ノ森林存在スル場合ニ於テ一人ノ監守ヲ置ケハ割合ニ費用多キ場合ハ一定期間ノ間臨時監守ヲ置キ監守ノ職務ヲ取扱ハシム
- 八 管理者ハ其書類ノ謄寫、并ニ其他ノ業務ヲ補助セシムル爲メ一人ノ森林助手ヲ置クコトヲ得

此森林助手ハ常任トスルヲ得ス且其位置ハ森林保護吏ト同一タルヘシ

- 九 地方ニ於ケル事業ノ管理監督并ニ數多ノ森林及國有地管理者ヲ支配スル爲メ農務省ニ直隸シテ獨立ノ中間局ヲ置ク之ヲ森林及國有地監督局ト名ツク其局長ニハ高等森林參事官ヲ以テ之ニ充テ其下ニ一人又ハ數人ノ營林官并ニ必要數ノ森林技師(此ニハ土木事業ヲ解スルモノ一人アルヲ要ス)又必要ニ依リ法律ニ通スルモノ一人(秘書官)并ニ其他必要ノ補助人ヲ置クコトヲ得

監督局ニ於テ其事務并ニ實地ノ事業ヲ取扱ハシムル爲メ相當數ノ森林官試補并ニ森林見習生ヲ置ク森林見習生トナラント欲スル者ハ一ノ森林學校ニ於テ高等森林教育ヲ受ケタル證書ヲ有シ且森林官試補トナラント欲スルニハ好結果ヲ以テ及第シタル森林官國家試驗或ハ之ニ相當スル試驗ニ及第シタル證書ヲ有スルヲ要ス

- 十 森林及國有地監督局ハ次ノ場所ニ置ク

(參考 監督局ノ位置等ハ現今ノモノト多少異ナル所アルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス)

- 十一 森林及國有地監督局ノ主要務ハ其下ニ屬スル官署及官吏ヲ數々檢閲的ニ支配シ其森林及國有地ニ於ケル林業并ニ經濟ノ整理ニ關シ常ニ監督スルモノトス

監督局ニ於ケル事務ヲ總理シ及其局ノ支配下ニ屬スル官吏ノ監督ハ事務章程ニ依リ一人ノ高等

森林參事官之ニ任ス

監督局ノ權限ハ別ニ之ヲ定ム

十二 農務省ニ於テハ森林及國有地管理ノ最上監督ヲ爲ス本省ニ於テハ森林技術局ヲ置ク

局長トシテ省參事官ヲ置キ一人ノ森林高等參事官二人ノ森林參事官及必要數ノ森林技術教育ヲ受ケタル補助官吏ヲ置ク

本局ノ主要事務ハ左ノ如シ

- 一 森林經理案ノ決定、保持及檢閲
- 二 森林官吏ノ組織及其事務章程ノ起草
- 三 國有林及基本林ニ於ケル技術的施業ヲ絶ヘス監督スルコト、施業案及林產物價格表ノ期節的檢閲

四 木材ノ引渡、森林產物ノ乾燥及賣却讓與ヲ主トシ尙森林技術并ニ經濟上ノ立點ヲ參酌シテ勞力賃并ニ森林勞力者ニ關スル規定ヲナスコト

五 總テ其下ニ屬スル森林局ノ專門勞働ニ關シ監督スルコト、森林官吏ノ設備狀ノ檢閲及官吏ノ任命、昇任ノ推薦ヲナスコト此ハ局長ヨリ其省ノ委員ノ手許ニ差出スモノトス

十三 會計及其監督事務ハ監督局及農務省ニ於テ置カル、會計局ニ於テ特ニ設ケタル事務章程ニ依

リ之ヲ行フ

十四 省參事官、高等森林參事官ノ任命ハ天皇之ヲ勅裁ス

農務大臣ハ森林參事官、秘書官、書記官、森林及國有地ノ管理者、高等土木技師、土木技師、森林官試補及總テノ會計官ヲ任命ス

監督局ニ於テハ秘書の官吏、森林監守其他ノ人夫及見習生并ニ森林助手ハ監督局長之ヲ任命ス
第七ニ掲ケタル臨時保護吏ヲ置ク場合ノ決定ハ農務大臣之ヲ爲シ其決定ニ依リ保護吏ヲ任命スルハ監督局長之ヲ爲ス

十五 國有森林官吏ノ位置ハ左ノ如シ

(參考 官吏各官等現今ノモノト異ナル所アルヲ以テ茲ニ之ヲ省ク)

國有官吏ノ俸給ハ千八百七十三年四月十五日ノ現官吏ノ俸給規則ヲ適用ス

見習ハ手當ヲ得森林監守及人夫ハ俸給ヲ得即チ監守ハ四百、五百及六百「フロリン」ニシテ人夫ハ三百及四百「フロリン」臨時森林監守ハ日賃ナリ

(參考 「フロリン」ハ「グルデン」ノ異名ニシテ我約八十錢ニ當ル)

是ニ由テ之ヲ觀ルニ埃國ニ於テハ國有及基本林ノ管理ハ一般行政廳ニ之ヲ委セス、全ク林務ノ官衙ヲ特設シ所謂我國現今ノ林區制度ナルモノニ酷似スルヲ知ル、則チ綱領第一ニ依レハ國有及基本林ヲ直

接ニ管理スルモノハ森林管理者(我小林區署長ニ當ル)ニシテ其第一次ノ監督廳トシテハ森林及國有地監督局(我大林區署ニ當ル)之ニ當リ而シテ森林及國有地監督局ハ農務省ノ監督ノ下ニ立テリ、農務省第十局ノ職章ノ要領ハ網領(十二)ノ規定スル所而シテ其職員ハ

- 五等 省參事官 一人
- 六等 高等森林參事官 一人
- 七等 森林參事官 二人
- 八等 營林官 二人
- 九等 土木技師バウインゼニール 一人
- 九等 森林及國有地管理者 三人
- 十等 土木技手バウアブルク 一人
- 計 十一人

備考 土木技師ハ千八百九十年ニ土木技手ハ千八百九十七年ニ新タニ置カレタルモノナリニシテ事務ノ簡潔職員ノ僅少ナル一見奇異ノ感ナキニアラス、今其原由ヲ探クレハ左ノ三點ニ歸スルモノ、如シ、

一 下級官衙ヲ信認シテ業務ノ大部分ヲ委任シタルコト

二 法律的ノ事務及教育試驗及統計等ノ事務ヲ各其專門局ニテ取扱ハシムルコト

三 林業ノ創設的事業ハ略ホ完了シ秩序的ノ進歩時代ニアルコト
其他尙處務ノ實際ヲ觀ルニ局課長事務ノ主任トナリ自ラ筆ヲ耕シテ文案ヲ起草シ書類簿案ノ檢閱審査ヲナスニ熟達ニシテ敏活ナルコト實ニ感賞スヘキナリ、書記其他補助官ノ如キハ其名義ノ如ク只文章ノ謄寫或ハ局課長ノ指定スル一部分ノ事務ヲ補助スルニ過キス、事務所理ノ敏達ナルコトハ、已ニ久シク林政方針ノ確定シ其管理機關ニ動搖ナキニ由ルト雖モ又官吏ノ待遇宜キニ適ヒ官吏カ其職務ヲ以テ終世ノ事業トナシ永年忠實ニ且精勵ニ其職務ニ從事スルニアラスンハ何ソ斯ノ如クナルコトヲ得ンヤ、(官吏ノ待遇ニ就テハ第五章ニ詳述スル所アルヘシ)

第十局長ハ省參事官ヲ以テ之ニ充テラレ、而シテ第十局ハ純然タル技術局ナルヲ以テ此局ノ局長タルヘキ省參事官ハ老練熟達ナル技術官ヨリ擧ケラル、ヲ常トセリ、千八百七十三年ノ林政改革以來殆ント三十ヶ年間ニ局長ノ交迭ハ僅カニ二回ニシテ現任局長ルードウキツヒ、デミツ氏ハ千八百九十年ノ彼ノ有名ナル澳國林政改革家トシテ唱ヘラレタルクリスチアン、リッツベルト氏ノ滿期辭職(澳國官吏恩給法ニ依レハ四十ヶ年間勤績シタル官吏ニハ其望ミニ任セ職ヲ解キ恩給トシテ俸給ノ全額ヲ給ス)ノ後ヲ襲キ就職シ爾來其職務ニ奉仕セリ、其他高等森林參事官及森林參事官ノ如キ皆數十年間林業ニ從事シタル熟達ナル森林技術家ニアラサルハナシ、局務ノ擧リ林業ノ發展豈偶然ナランヤ、

三 砂防工ニ關スル技術局

砂防工ニ關スル技術的監督ハ農務省ノ第七局ノ掌ル所ニシテ千八百八十四年三月澳國法律第百十七號ヲ實施スルノ機關ナリトス、此法律ハ彼ノ千八百八十二年洪水ノ後間モナク制定サレタル所謂山間ノ水ヲ無害ニ他ニ導ク設備ニ關スル法律ニシテ、其要領ハ山間ノ水ヲ無害ニ他ニ排除スヘキ區域ヲ定メテ砂防區域トナシ、其區域内ニ於テハ土地ノ狀況ニ依リ谷底ナレハ底^{アウシヤン}張^{グランド}留^{ユウ}メ^{ウエレン}堰^{ウエレン}、横^{ルズベルン}堰、其他ノ部分ニハ排水工、芝付、棚等防水工事ヲ施行シ或ハ樹木ヲ新植シ、或ハ森林牧場地及其他ノ土地ノ利用并ニ產物ノ運搬等ニ就キ制限若クハ禁止シテ土地ノ保護ヲナシ、之カ爲メ土地ノ收用若クハ使用或ハ材料ノ讓與并ニ土地所有者ノ被ムリタル損害賠償ノコトヲ定メ、砂防施設ノ爲メ起ル種々ノ異議爭論ニ對シテハ先ツ評議委員會ナル特別機關ヲ設ケテ之ヲ調和若クハ裁定セシムル等ニシテ我國砂防法ニ伯仲シタルモノナリト雖モ法律ノ條文僅カニ二十有六ヶ條ニシテ甚タ簡畧ナリ然レトモ實際ノ活動ニ至リテハ全ク地ヲ換ヘ我ノ彼ニ及バサルコト遠シ、是法ニアラスシテ人ニ存スルノ故ナルカ、千八百九十五年二月廿七日ノ砂防章程ニ依レハ第七局ノ事務ハ(一)農務省ノ認定ニ依リ砂防工事ノ設計ヲナシ且之ガ實施ノ管理(二)農務省ノ命令又ハ地方廳ノ申立ニ依リ他ニ於テ設計シタル砂防案ノ檢査ナリトス即チ(一)ハ政府ノ直轄事業ニシテ工事起業者ガ國家ナル場合ナリ(二)ハ政府ノ監督事業ニシテ工事起業者カ州、郡、市町村又ハ個人ナル場合ナリトス、此局ノ職員ハ亦森林ノ技術家ヲ以テ組織セ

リ即チ

高等森林參事官(局長ノ職務ヲ行フ)

一人

森林參事官

一人

高等森林委員

一人

森林監督委員

一人

ニシテ砂防ノ技術的局ノ職員ニ森林ノ技術家ヲ以テ之ニ充ツルハ其名義上ニ於テ當ヲ得サル如クナレトモ、元來澳國ニ於テハ森林技術上ノ高等官吏トナルニハ規定ノ資格ヲ有シタルモノヲシテ農務省ニ於テ施行スル國家試験ヲ受ケシメ之ニ及第シタルモノナラサルヘカラス、而シテ規定ノ資格中ニハ左ノ一項アリ、

維也納府高等農林學校若クハ之ト同等位置ノ學校ニ於テ砂防工ノ講義ヲ聽了シ其受持教師ニ就キ良績ニテ試験科目ノ試験ニ及第シタルコト

故ニ澳國ノ森林官ニシテ砂防工ノ技術ニ通曉セサルモノナク、森林官ハ則チ森林及砂防工ノ技術家ノ資格ヲ有スルモノナリ、是澳國政府カ自國ノ地勢、地況ニ鑑ミ森林ノ利益ヲ増進センニハ須ク森林家ヲシテ第一着ニ國土ノ保安ニ傾心セシムルノ必要ナルヲ察シ森林ノ教育ニ、官吏ノ登用法ニ、改善ヲ加ヘタル所以ニシテ、其用意周到ナリト謂フヘシ、

附砂防工ニ關スル地方機關

農務省ハ砂防工ノ實行ヲ掌ラシメンカ爲メ砂防上必要ナル地方ヲ撰定シテ砂防支局ヲ設ケフチルスト、テヒ、コツケル森林技術官ヲ置キ其業務ニ當ラシム、而シテ上席ノ森林技術官ハ固有ノ業務ノ外尙支局長トナリ農商務大臣ニ指揮ヲ受ケテ局務ヲ理シ、其他ノ森林技術官ハ或ハ工事管理者或ハ局部工事實施者トナリ支局長ノ指揮ニ依リ章程ノ規定スル業務ヲ行フ、則チ工事管理者ノ主要ナル業務ハ設計案ノ檢査、當事者ニ對シ設計案ノ説明、工事實行ノ管理等ナリ、局部工事實施者ハ工事管理者ヲ補ケテ局部ノ業務實行ニ當レリ、支局ノ位置、管轄區域及森林技術官ノ定員ハ左ノ如シ、

第一支局	第二支局	第三支局	第四支局	第五支局	ブリキセン支局
ブルチエメツスル	ワインベルク	リンツ	ファイルラツハ	ツアラ	
管轄區域	ガルチエーン、ブコヒナ	ベーメン、メーレン、シユレジイーン	上埃國、下埃國、サルツブルク、スタ、エルマルク	ケルンテン、クライン、キユステンランド、チロール	チロール水理委員會ノ説明ヲ掌ル
定員	九	八	十三	四	六

(此定員ノ外ニ技術官助手及森林ノ試験員ヲ置ク所アリ)

第二節 森林ノ監督機關

森林監督ノ最高府ハ農務省ニシテ其第一次ノ監督ハ行政廳(地方廳及郡廳)ナリトス、地方廳ニテハ森林監督官、森林技師、及森林監守ヲ配置シテ直接ニ森林ノ監督、保護及林業獎勵ノ業務ニ當ラシメ森林監督官(林務ノ繁劇ナル地方ニハ森林技師及森林見習生ヲ補助官トシテ置ク)ハ地方廳内ニ、森林技師ハ郡衙内ニ、事務所ヲ設ケ獨立シテ事務ヲ執リ、森林監守ハ必要ナル位置ニ住所ヲ定メ森林保護ニ從事セリ、森林監督官及森林技師ハ事務上ニ於テハ行政廳ノ參與官トシテ或ハ顧問トシテ事務ニ與カリ、或ハ森林警察事件等ニ就テハ行政廳ノ一機關タリト雖モ、其任免、轉任、懲戒等其他人事上ノ事項ニ就テハ直チニ農務大臣ノ下ニ立テ行政廳ノ長官ト關係ナキモノ、如シ(但森林警察事務ニ關係アル森林技師ハ其身分上ニ付地方長官ノ監督ノ下ニ立ツ)今森林監督官及森林技師ノ職務ノ要概ヲ掲クレハ左ノ如シ、

森林監督官

- 一、地方廳ノ參與官トシテ地方廳ノ職權ニ屬スル森林事件ノ判定又ハ命令ニ關スルコト
- 例ヘハ施業案及事業案ノ審査判定、造林案及森林の土地改良事件ノ審査判定
- 二、政府ヨリ補助ヲ與ヘタル森林上ニ關スル事件

三、砂防工、森林試験、森林教育、森林國家試験、森林統計、森林臺帳、林産物ノ商業、林産物ノ

運搬及木材工業ニ關スルコト

四、森林技師及森林監守ノ人事上ノ件

五、地方廳ノ職權ニ屬スル森林ニ關スル立法上及事務上ノ問題ニ關シ顧問役トナルコト

六、森林ニ關スル訴訟及犯罪事件ニ付鑑定人トナルコト

七、森林警察上ニ付郡衙ノ監督ニ任スルコト

八、殖林奨勵ニ就テハ地方廳ノ機關トナリテ其事務ニ從事スルコト

九、森林技師及森林監守ノ業務ヲ監督スルコト

十、森林ニ關スル利害ノ關係アル者ヲシテ林業ヲ貴フ氣風ヲ起サシムルコト

十一、補助金ヲ與ヘアル播種園、苗圃及新植地ヲ監督スルコト

十二、其他法律命令上當然ノ職權ニ屬スル事件(狩獵及漁業等)

森林技師

一、森林技術及森林警察上ノ事件ニ付郡衙ノ職權ニ屬スル判定又ハ命令ニ關シ専門的ノ相談ヲ受ク

ルコト

故ニ訴訟或ハ犯罪事件ニ付特ニ専門上ノ智識ヲ要スル場合ノ如キハ其鑑定人トナルコト

二、森林警察上ニ付キ直接ニ監督ヲナシ林業ノ奨勵ニ關シ郡衙ノ機關トナルコト

三、其他森林監督官ノ部ニ掲ケタル十號十一號及十二號ノ件

其他森林技師ハ農務省ヨリ命令アルトキハ砂防支局ノ業務ニ屬スル砂防工ノ業務ヲ執リ、或ハ森林所有者ノ囑托ヲ受ケ市町村林、教會及其組合其他個人ノ森林ヲ管理施業(農務省ノ認可ヲ受ケタル上)スル等其職務ノ區域甚タ廣ク從テ技術上ノ知識ト事務上ニ敏活ノ技倆ヲ有スルトハ決シテ國有林ノ業務ニ從事スル官吏ニ讓ラス、故ニ政府ニ於テハ其登用ニハ亦意ヲ用ユルコト國有林ノ業務ニ從事スル官吏ノ登用ト差違アルヲ見ス、則チ

一、曾テ地方森林技術官(地方森林監督官及地方森林技師)ノ職ヲ奉シタルコトアル者

二、森林技術官(千八百九十三年七月六日法律第百十八號ニ依ル國家試験ヲ受ケ)ニ適當スル證明ヲ有スル者

三、國有林管理ノ技術官(千八百七十五年二月十三日法律第九號ニ依ル國家試験ヲ受ケ)ニ適當スル

證明ヲ有スル者

備考 二、三項ノ國家試験ノコトハ第四章ニ詳述スル所アルヘシ

ノ資格ヲ有スル者ヨリ適任者ヲ撰擇任用スルモノニシテ其待遇ニ至リテモ國有林ノ業務ニ從事スル官吏ト等シク千八百七十三年四月十五日法律第四十七號ニ依リ其官等ニ對スル俸給及在勤地ニ應スル勤

勞加俸ヲ受ケリ、

森林監守ノ任命ハ地方長官ノ職權ニ屬ス、然レトモ之ヲ任命スルニハ公平ナル方法ヲ以テ森林保護及
森林技術助手ニ適當ナル資格ヲ有スル者ヨリ募集撰擇シ、先ツ之ニ假リ任用ヲ命シ實務ニ從事セシメ、
二ケ年間ノ後其成績ニ依リ本任用ヲ命スル等慎重ナル取扱ヲ爲セリ、而シテ其待遇モ亦國有林ノ保護
ニ從事スル森林監守ト異ナルナシ左ニ掲クル地方森林技術官及森林監守ノ定員表ニヨレハ如何ニ澳國
政府カ熱心ニ森林監督ヲ勵行シ一般林業發達ニ傾心スルヲ察スルニ難カラス、

州名	森林監督官	森林技師	森林監守
下 澳 國	一	四	五
上 澳 國	一	四	五
サルツブルク	一	三	四
チロール及フラルアルベルク	二	五〇	一
スタイエルマルク	一	六	一
ケルンテン	一	四	一
クライン	一	五	一
キユステンランド	一	九	一

ダルマチエーン	一	八	九
ペーメン	一	八	三
メーレン	一	二	一
シユレジエーン	一	一	一
ガリチエーン	一	八	一
プロコピナ	一	三	五
合 計	一四	一〇六	七二

(メーレンノ森林監督官ヨリ兼務ス)

第三節 國有林ノ管理機關

一 森林及國有地監督局

森林及國有地監督局ノ性質ハ既ニ前ニ掲ケタル千八百七十三年四月ノ國有及基本林并ニ國有地管理ノ
網領ト稱スル法律(九及十一)ニ規定スル所ニ依リ明カナリ、則チ國有及基本林并ニ國有地ノ事業ノ管
理監督及配下ノ森林及國有地管理者ヲ指揮監督スルノ官衙ニシテ業務ノ種類ニ依リ或ハ直接ニ手ヲ下
スモノナキニアラスト雖モ主トシテ監督及検査、修正等ノ業務ヲ掌ル所ニシテ大体ノ性質ニ於テ監督
官應ト見ルヘキモノナリ、故ニ其位置及外形ニ於テハ我國ノ大林區署ニ伯仲シタルモノナレトモ其内
容及實體ハ稍差違アルモノト言ハサルヲ得ス、彼ハ森林及國有地管理者ヲ以テ國有及基本林并ニ國有

地ノ管理施業及利用ノ主管者トナシ、之ヨリ起ル林務ハ細大トナク管理者ノ責任ヲ以テ處理セシメ森林及國有地監督局ハ只監督、檢査ノコトヲ掌ルノミナレトモ、我ニアリテハ其外形ハ兎モ角モ實際ニ於テハ直接生産的ノ業務ニ當ル小林區署長ノ權限甚タ狭小ニシテ充分技術ヲ振フ余地ナキノ憾ミナキニアラス、是彼我國狀ヲ異ニシ未タ俄カニ彼ニ倣フヲ得サルノ事情ナキニアラスト雖モ、林業ノ進歩發達ニ尠ナカラサル關係ヲ有スル所ニシテ潛心苦慮ヲ要スル問題ナリト信ス、左ニ森林及國有地監督局ノ主要ナル業務ヲ抄記シテ其性質ヲ知了スルニ資セトンス、

一、森林(國有及基本)及國有財産ノ保存、收入ノ増進ヲ圖ルコト、

施業上理財上ノ結果ヲ良好ニ導クコト、但原料ヲ保存シ收入ノ永久ヲ目的トシ且施業費用ノ減

殺ヲ努ムルヲ要ス

二、森林ノ施業及林況調査ノ修正ヲ實行シ并ニ其事業ヲ行フ官吏ヲ監督スルコト

經理事業ノ結果ヲ檢閲スルコト

經理事業ノ結果ヲ施業簿及施業圖ニ記入スルコト

施業案ニ依リ實行スル管理者ノ業務ヲ監督スルコト

經理事業ノ經過ヲ監督スルコト

經理事業ノ實行ニ際シ實地監督ヲナスコト

三、規定ノ施業原則、施業案及木材賣渡讓與等ヲ規則ニ依リ監督スルコト

(以下重要ナラサルヲ以テ之ヲ略ス)

森林及國有地監督局ハ現今全國ニ八局ヲ置キ、其位置ハウイーン、グムンデン、サルツブルク、インスブルック、ゲエルツ、レムベルク(一)、レムベルク(二)、及クツエルーウイツツニシテ、其職員ノ定員ハ八局ヲ通シテ左ノ如シ、

高等森林參事官	ナム、フナスト、ライト	七	人	六	等
森林參事官	フアルスト、ライト	二十九	人	七	等
營林官	フアルト、アイマン	七	人	八	等
高等土木技師	チペル、フラインヂニール	一	人	八	等
森林及國有地管理者	フアルスト、ウイン、トネン、フエル、ワレデル	十五	人	九	等
土木技師	メロインヂニール	四	人	九	等
森林官試補	フアルスト、フリスカント	四十一	人	十	等
土木官試補	メロ、フエニク	三	人	十	等
森林官見習	フアルスト、フアルスト、エレン	三十六	人		
土木官見習	フアルスト、クレーウ、エン、フ	一	人		

合計

百五十一人

高等森林參事官ハ局長トナリ農務大臣ニ隸屬シテ局務ヲ總理シ、森林參事官ハ主トシテ監督官トナリ内ニアリテハ監督區ニ關スル事務ヲ處理シ、外ニ出テ、ハ實地ニ就キ監督ノ實務ヲ掌ルヲ例トス、營林官并ニ森林及國有地管理者ハ森林參事官ニ分屬シテ事務ヲ執ルコト我國ノ大林區署ノ組織ニ彷彿セリ、其他事務ノ取扱、官吏ノ監督法等ニ敢テ意ヲ留メタルモノナシト雖モ、只重要ナル事務殊ニ人事上ノ事件ニ就テハ合議制ニ依リ之ヲ評定シテ然ル後裁定權者ノ決定ヲ仰クヘキコト、又官吏ノ主任事務ガ自己又ハ親戚、後見人、養育者ノ利害ニ關スルトキハ其事務ヲ忌避スルコト及局長ト局員トノ間ニハ親族ノ關係アルコトヲ許サ、ルコト等ハ章程上ニ規定スル處ニシテ其實際ニ於テ嚴格ニ之ヲ履行シ居タルハ稍注意ヲ引キタル點ナリトス、

森林及國有地監督局ノ管轄面積、監督區、小林區保護ノ數并ニ其面積等ハ彼國ニアリテモ土地ノ狀況、施業ノ精粗等ニ依リ甚シキ差異アリト雖モ左表ニ依リテ其大体ヲ知ルヘシ、

監督局名	管轄面積	生産地面積	不生産地面積	監督區數	事業區數	木置場所	保護區數
ウイーン	一三四、 ^一 二八、 _全	六〇、 _全	四、 _全	三〇、 _全	二、 _全	一一六、 _全	
グムレデン	一五七、	一〇二、	五四、	三	一五	一	八五

サルツブルク	一八六、	一二七、	五九、	三	二五	一	七一
インスブルック	三三八、	一三九、	九九、	三	二九	一	一〇四
ゲエルツ	九七、	八三、	一四、	三	一七	一	九二
レムベルク(一)	一二七、	一二五、	二、	二	二五	一	一三四
レムベルク(二)	一九〇、	一八四、	六、	二	二三	一	一三〇
クツエルノウイツ	二七一、	二七〇、	一、	三	二二	一	一六一
計	一五〇〇、一、一六〇、	三四一、	二三	一八六	五	八九三	

備考

- (一) 生産地面積ニハ國有及基本林ノ外國有地則チ耕地、牧場地及雜種地ヲ含有ス
- (二) 面積千「ヘクタール」未滿ノ小數ハ之ヲ切捨ツ
- (三) 事業區數ハ小林區ノ數ニ等シ

是ニ由レハ一監督局ノ管轄面積ハ平均約二十萬「ヘクタール」ニシテ其最大ナルハインスブルックノ三十三萬八千「ヘクタール」最小ナルハゲエルツノ九萬七千「ヘクタール」ナリ、若シ又施業保護ニ最モ努ムヘキ生産地ニ就キ觀ルトキハ只クツエルノウイツ(クツエルノウイツ局ハ希臘東方宗教基本財産ノ管理ヲ掌ル所、且位置モ頗ル邊陲ニシテ大ニ趣ヲ異ニスル所アリ)ヲ除クノ外ハ大ナルモ十八萬

四千「ヘクタール」ヲ超ヘス小ナルモ八萬三千「ヘクタール」ヲ下ラスシテ他ハ十萬乃至十二萬「ヘクタール」ノ間ニアリテ大ナル差異アルヲ見ス、其他前表ニ依リ尙

一、監督區ハ一監督局管轄内ニ約三個其平均面積六萬五千「ヘクタール」ニシテ八個ノ管理署、三十個ノ保護區ヲ包有スルコト

二、一事業區(則チ管理署ノ區域)ハ一監督局管轄内ニ二十三個、一監督區ニ八個ヲ含ミ、其管轄平均面積八千「ヘクタール」ニシテ其下ニ四個ノ保護區ヲ容ル、コト及

三、一保護區ノ平均面積ハ約千七百「ヘクタール」ナルコトヲ知ルヘシ、然ルニ事業區及保護區ノ面積ハ實際ニ於テハ土地ノ狀況施業ノ精粗、交通ノ便否、收入ノ多寡、被害ノ多少等ニ依リテ其面積ニ大ナル差等アルコト左表ノ如シ、

監督局名

一事業區ノ面積

監督局名	最 大	最 小
ウイーン	一九、七三二 <small>「ヘクタール」</small>	五五九 <small>「ヘクタール」</small>
グムンデン	一五、七二九	四一八
サルツブルク	一七、二九八	三四四
インスブルック	四九、二六〇	四六七

ゲエルツ

二二、七二二

五七八

レムベルク(一)

一三、七九三

五二三

レムベルク(二)

二二、三〇七

二、五七九

クツェルノウイツツ

二五、九六二

一、五九九

備考 インスブルック局内ニ於テ事業區ノ最小ナルモノハ僅カ六十六「ヘクタール」ナルモノアレトモ之飛地ノ國有地ニシテ例外ニ屬ス

監督局名

一保護區ノ面積

監督局名	最 大	最 小
ウイーン	四、七二〇 <small>「ヘクタール」</small>	一一〇 <small>「ヘクタール」</small>
グムンデン	一一、四三七	一一三
サルツブルク	八、四七二	三四六
インスブルック	四五、二六四	四八
ゲエルツ	三、八一六	四三
レムベルク(一)	四、九六二	五九
レムベルク(二)	三、九〇八	七二

是ニ由テ觀レハ事業區及保護區ノ面積ニ殆ント標準トシテ見ルヘキモノナキカ如シ、

二 森林及國有地管理署

管理署ノ長タル森林及國有地管理者ハ一定ノ區域内ニ於テ森林及國有地ヲ自己ノ責任ヲ以テ直接ニ管理シ獨立シテ施業ヲ爲ス官吏タルコトハ既ニ前ニ記シタル國有及基本林并ニ國有地管理網領ニ(二乃至八参照スヘシ)規定スル所ニシテ、國有林事業ノ進歩發達ハ全ク此管理者ノ双肩ニ掛ルモノト謂フモ不當ノ言ニアラス、政府カ管理者其人ヲ撰擇スルニ意ヲ留ムルノ深キ所以實ニ茲ニアリ、元來澳國ノ有等官ノ森林官吏ヲ採用スルニハ森林ノ高等教育ヲ受ケタル者、即チ維也納府高等農林學校若クハ之ト國等ノ學校ニ於テ林學科ヲ卒業セシ者ヲ受験候補者トナシテ國家試験ヲ施行シ其及第者中ヨリ必要ニ從ヒ撰任スルニアリ、而シテ受験候補者ノ資格トシテ必要ナルハ學校卒業ノ要件ノ外尙實務演習(實務演習ニニアリ)ハ學校ニ入學前一ケ年間林業ニ從事スルモノニシテ之ヲ前期實習ト稱シ一ハ學校卒業後一ケ年森林技術的ノ業務ニ從事スルモノニシテ之ヲ後期實習ト云フ)ノ經歷アルヲ要シ而シテ其實務演習中執務ニ對スル自己ノ識認及觀察ノ事項ニ就キ記述シタル日記ヲ提出セサルヘカラス、此實習日記ハ其人ノ實用的ノ技術ヲ表章スルニ最モ必要ナル材料ニシテ政府ハ國家試験ノ及第者中ニ付實習日記ヲ審査シ其適任者ハ之ヲ森林官試補トシテ數年間森林及國有地管理者ニ試用シテ其技術及

品行等ヲ熟察シタル上始メテ管理者ニ撰任スルヲ例トスルモノ、如シ、管理者ノ人物夫レ此ノ如クナルヲ以テ重要多大ノ業務ヲ負フテ能ク之ニ耐ヘ快刀亂麻ヲ斷ツノ實際アルハ感賞スルニ耐ヘタリ、其事務ノ分量ト權限ノ如何ヲ觀ルニ期間伐木案ニ據リ毎年伐木案、期間利用案ニ據リ毎年副產物ノ採取案、施業案ニ據リ毎年ノ造林案及毎年ノ收入支出ノ金員豫算案ノ調製或ハ經費支拂ハ各目ニ付認可ノ豫算内ニ於テ金庫ニ仕拂ヲ命スル等ノ點ヨリスレハ殆ント我大小林區ノ業務ヲ兼テ行フモノ、如シ、權限ニ於テハ稍狹シト雖モ事務ノ種類及分量ニ於テハ伐木運搬ノ事業(主トシテ官業ナルニ依ル)農工ノ副施業(國有地ヲ管理スルニ依リ農耕牧畜ノ施業アリ、林產物ヲ加工製造スルニ依リ工業的施業アリ)并ニ狩獵及漁業等ニ關スル業務アリテ我林區署ニ比スレハ一層複雑ナリトス、

附 森林及國有地ノ保護機關

森林及國有地ヲ保護スル爲メ森林及國有地管理署ノ管轄區ヲ更ニ數個ニ區分シテ保護區ヲ設置シ、其各區ニ森林監守ヲ配置シテ其業務ニ當ラシムルコト我林區制度ト異ナル所ナシ、然レトモ森林監守ハ森林保護吏學校ヲ卒業シ滿三ケ年間實務演習ヲ爲シタル資格ヲ有スル者ニ就キ、森林保護吏及森林技術助手ノ登用試験ヲ行ヒ其及第者ヨリ採用スルニ依リ林務ノ初等教育ニ通シ且造林、測量、測樹等ノ實業ニ經驗ヲ有シ能ク林業上ノ趣味ヲ解スルモノ、如シ、(保護吏ニ對スル森林教育及採用ノ試驗法ニ就テハ尙三章及四章ニ詳述スル所アリ)現今森林及國有地管理署ノ總數ハ百八十六個保護區ノ總數ハ

八百九十三個ニシテ其職員ハ左ノ如シ、

營林官	五十六人	八等官
森林及國有地管理者	百三十人	九等官
森林監守	五百九十三人	等外
森林助手	百六十三人	全
臨時監手	三百四十一人	全

備考 營林官及森林及國有地管理者ハ管理署長ニ充ツルモノニシテ森林監守及臨時森林監守ハ
 森林ノ保護取締ニ從事シ森林助手ハ書類ノ謄寫并ニ業務ヲ補助スル爲メ管理署ニ置クモノナリ
 管理署職員ノ服務及懲戒ニ關シテハ、教育及道德ノ程度高キ彼國ト雖モ頗ル嚴格ナル取締ヲナセリ、是
 官衙ノ性質及各地ニ散在スル多數ノ吏員ヲ監督スルニハ止ヲ得サル所ナルヘシ、森林及國有地管理者
 及保護吏職務章程中官吏ノ威儀ヲ保ツニ必要ナル要件トシテ服務上ニ制止ヲ加ヘタル箇條左ノ如シ、

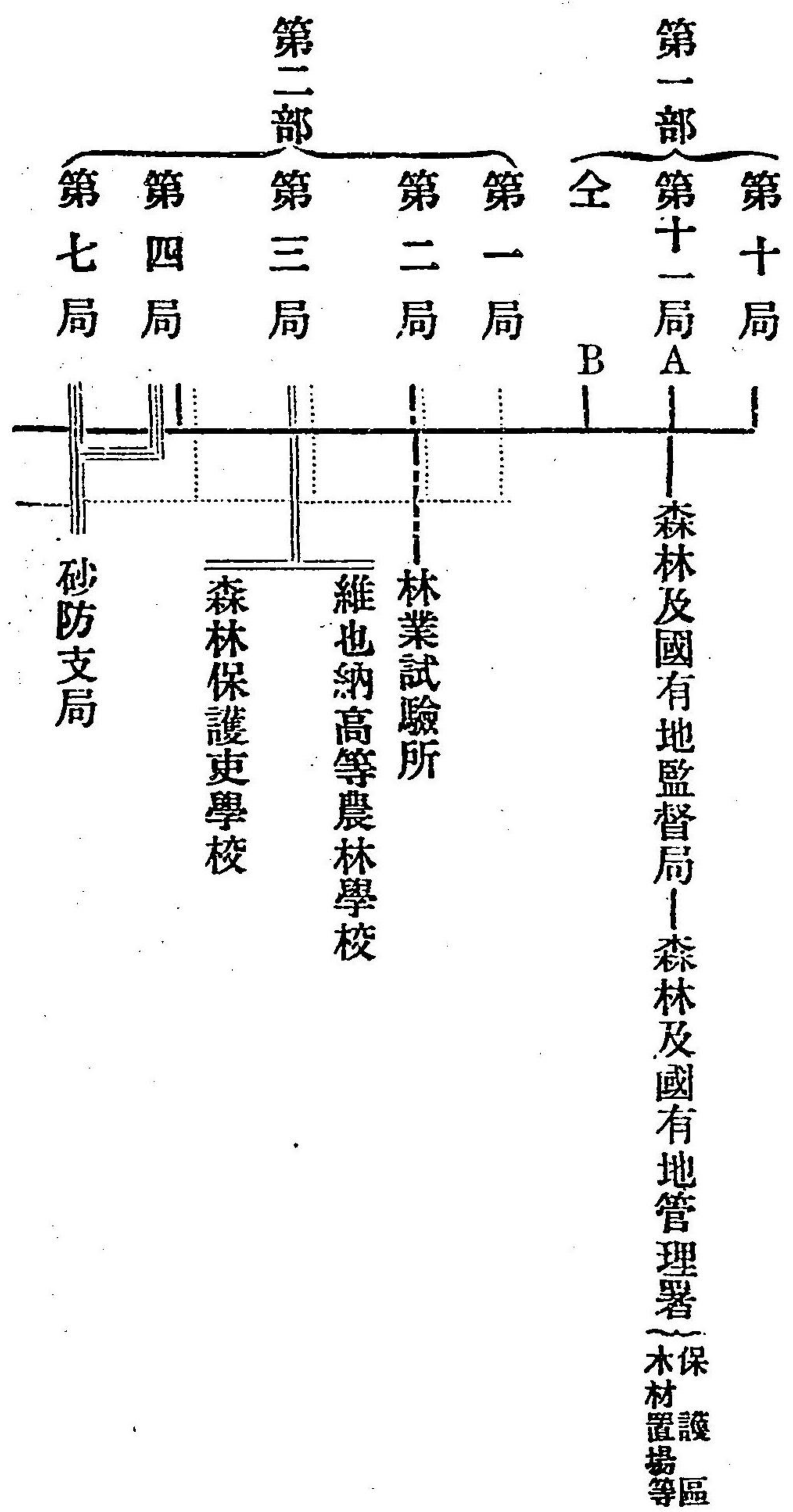
- 一、其位置ヲ保ツニ害アル副職業ヲナスコトヲ得ス
- 二、許可ヲ得スシテ個人ノ森林或ハ狩獵ヲ管理保護スルコトヲ得ス
- 三、農業ハ特ニ許可ヲ受ケ職務上害ナキ場合ノ外之ヲナスコトヲ得ス
- 四、一般ノ職業ヲ營ミ又ハ其一部分ニ加入スルコトヲ得ス

- 五、許可ヲ得スシテ區内ニ於テ土地、牧場、草場并ニ狩獵地ヲ購買シ若クハ借受クルコトヲ得ス
- 六、農林產物ニ付直接又ハ間接ニ商業ヲ營ムコト并ニ森林及國有林ノ事業ニ關シ勞力及運材ノ受負
 ヲナスコトハ妻及同居ノ親族ト雖モ之ヲナスコトヲ得ス
- 七、給與ヲ受ケタル木材ヲ賣買讓與又ハ交換スルコトヲ得ス
 但自己ノ節約ノ爲メ生シタル給與材ノ剩餘ハ之ヲ監督局ニ申立ツルトキハ監督局ハ特別ノ取
 扱ヲナスヘシ

懲戒ニ就テハ一般官吏懲戒令ノ外農務省ハ別ニ森林及國有地管理署職員懲戒規則ノ周密ナルモノヲ制
 定シ嚴格ニ實行セリ、今其要概ヲ摘記セハ職務上ノ違反ヲ其怠慢ノ程度、損害ノ多少、罪ノ有無等ニ依
 リ之ヲ大別シテ重違反、及輕違反トナシ、重違反ノ重キモノ例之ヘハ職務上ノ忠實ヲ損フタル者、職
 務上ノ秘密ヲ漏シタル爲メ著シキ損害ヲ起シタル者、贈物ヲ請求スルカ或ハ受ケタル者、林產物ヲ賣
 拂フニ際シ自分又ハ他人ノ利益ヲ謀ル行爲ヲナシタル者、職務上ノ文章ヲ作製スルニ際シ不正ノ記入
 記載等ヲナシタル者等ハ直チニ官ヲ免シ其他ハ之ヲ減俸轉任若クハ單ニ轉任セシメ、輕違反モ亦其情
 狀ニ依リ譴責、罰俸、年功昇等停止及轉任ノ處罰ヲ行フ、其他實際ニ於テ最モ効顯アルハ論旨
 及秩序ノ規定ナリト聞ク論旨トハ耽酒、博奕、負債其他ノ不品行ノ行爲アルカ或ハ懲戒
 的ノ違反ニハ當ラスト雖モ職務上ノ義務ヲ怠リタル者ニ對シ其上官ヨリ好意的ニ諭示訓戒スルコトヲ

言ヒ、若シ其論旨モ尙効力ナキトキハ之ヲ輕違反トシテ懲戒ニ付ス、秩序罰トハ會計其他提出期限ノアル文書ヲ正當ノ理由ナクシテ規定ノ期間ニ差出サ、ル爲メ損害ヲ生シタルトキハ其損害ヲ辨償セシメ、且一日ニ付「グレンデン」ノ割合ヲ以テ遅引シタル日數ニ對スル罰金ヲ課スルヲ言ヒ、此怠慢再度アルトキハ罰金ノ率ヲ二倍シ三回以上ハ職務違反トシテ懲戒ニ付スルノ規定ナリトス、森林管理ノ機關ト次章ニ記述スル所ノ森林教育ノ機關及林業上ノ諸設備トノ系統ヲ示セハ左表ノ如シ、

農務省



備考

(一) 農務省各局ノ林業ニ關スル業務ノ要概ハ次ノ如シ

- 第十局 國有林等ノ技術ニ關スル管理
- 第十一局 A 國有林等ノ管理ニシテ法律及事務ニ關スルコト
- 第十一局 B 或地方ノ森林施業及保護者ノ人事上ノ件森林勞力者ニ關スルコト
- 第一局 造林ノ獎勵
- 第二局 林業試驗所及林業試驗ニ關スルコト
- 第三局 森林教育ニ關スルコト
- 第四局 森林、砂防及狩獵法ノ違反處分及訟訴ノ決定
- 第七局 砂防ノ技術ニ關スルコト等
- 第五局 A 林業、狩獵ニ關スル法案ノ提出ニ關スルコト

- 全 B 林地分合及境界ノ整理
 - 全 C 森林會及組合ニ關スルコト
 - 全 D 農林業ノ統計及内外國務調査ノコト
- (二) 維也納高等農林學校ハ文部省ニ屬スト雖モ亦農務省ノ干涉ヲ受クル點アリ

第二章 國有林及基本林ノ施業及收支等

第一節 森林ノ施業

一 施業ノ綱領

澳國ニ於テ國有林及基本林ノ施業ノ基礎トナルヘキ規程ヲ制定シタルハ亦彼ノ林政改革ノ時則チ千八百七十三年ニシテ(既ニ千七百八十年宮内官廳ニ於テ發布シタル澳國施業法及千八百五十六年ノ頃ニ定メタル施業ニ關スル規則アリト雖モ今日參考トシテ記述スル程ノ價值ヲ有スルモノニアラス)爾來政府ハ國有林及基本林ノ施業案編製ニ營々トシテ之努メ今日ニ至リテハ殆ント全國有林ノ經理事業ヲ完了セントスルニ垂メトセリ、千八百九十三年ニ至リ時勢ノ變遷ニ從ヒ尙改善スヘキノ點アルヲ認メ(主トシテ檢閲上ノ必要ニ基ク)施業規則ノ改正アリ、是則チ現行ノ國有及基本林ノ施業規則ナリ、然レトモ其大綱ハ千八百七十三年ノ規程ニ基キタルモノニシテ、其綱領トスル所ヲ摘記スレハ、森林ノ施業方針ハ利用造林ノ場所及時期ヲ適實ナラシメ、同時ニ森林ニ關スル内外ノ關係ニ着眼シテ成ルヘク林地ノ保育、森林ノ整理及改善ヲ謀リ、且收獲ヲ増大ニシ收入ヲ増進セシムルニアリ、而シテ國有及基本森林ノ管理上施業ヲ整理スルニハ國民經濟ニ協ヒ且他ノ權利ニ對シテ侵害セサルコトニ終始注意スヘシト言フニアリ、是ニ由テ見レハ澳國ハ國有林施業ノ主義ハ理財的ニモアラス、得材的ニモアラスシテ、理財ト得材トノ主義ヲ調和協合セシモノト謂フヘキカ、亦施業案ニ於ケル期間伐採量ヲ定

喬林作業ノ保護林及禁制林	矮林作業		
	計	輪伐	齡
總計	六三三、四〇八	二六〇、一四七	八九三、五五五
計	二六、二一六	二、八四五	二九、〇六一
輪伐	八七〇	—	八七〇
齡	一、二一一	七五一	一、九六二
四十一年乃至五十年	二、一九一	一、〇七二	三、二六三
五、四三六	二、二六四	七、七〇〇	

五十四

備考 保護林及禁制林ハ輪伐齡ヲ有セス

是ニ由テ觀レハ國有林及基本林ニ於テ作業別面積ノ百分率ヲ求ムレハ、喬林作業ハ九八、九「プロチエント」中林作業ハ〇、三「プロチエント」矮林作業ハ〇、八「プロチエント」ニ當リ、又喬林作業ノ輪伐齡ニ依リテ區別スレハ八十年ハ一、二「プロチエント」百年ハ四六、五「プロチエント」百二十年ハ三六、二「プロチエント」百四十年ハ二、九「プロチエント」百五十年乃至百二十年ハ三、三「プロチエント」ニ當リ、百年及百二十年輪伐齡ニ依ルモノ最モ多クシテ全喬林ノ八割ヲ占ムルヲ知ルヘシ、矮林ニ於テハ輪伐齡三十年ノモノハ二、三「プロチエント」四十年ノモノハ四、三「プロチエント」ニシテ二十五年以下ノ輪伐齡ノモノハ之ヲ併算スルモ僅カニ三割ニ足ラサルヲ知ルナリ、

三 經理事業ノ成績

千八百七十三年ノ林政改革ノ當時ヨリ國有林及基本林ノ施業案編製ニ着手シ、爾來間斷ナク施行シ今ヤ殆ント完了ヲ告ケントセリ、千八百七十三年ヨリ千八百九十一年マテ十九ケ年間ノ成績ニ依レハ國有林及基本林ニ於テ確定施業案ヲ編製シタルモノ五十七萬三千「ヘクタール」餘 假定施業案ヲ組ミタルモノ二十八萬二千「ヘクタール」餘ニシテ之ヲ併算スレハ八十五萬六千「ヘクタール」ナリトス、故ニ施業案編製完了面積ハ森林全面積ニ對シ八割五分餘ニ當リ其未済ノモノハ僅カニ一割五分弱ニ過キス、而シテ施業案編製未済ノモノハ多クハ近年ノ買上ニ係ルモノトス、然レトモ尙彼國當局者ノ談スル所ニヨレハ千八百九十二年以後現今迄ニ約十五萬八千「ヘクタール」余ノ施業案ヲ調製セシヲ以テ今ヤ殆ント事業ヲ完結シ餘ルモノハ僅カニ數千「ヘクタール」ニ過キスト言ヘリ、測量及經理事業ニ要スル經費ノ割合ニ至リテハ左ニ掲クル成績ニ依リテ知ルヘシ、

自千八百七十三年至千八百九十一年成績

測量事業

國有林	測定修正		計	總費	
	測定	修正		類	用
六、〇六一、八五〇	五、三六二、五六三	一一、四二四、四一三	二〇、八五六、〇	一、クローゼツ	八三
第二章			五十五		

總計	基本林	總計	基本林
二〇七、七三三	八、三九一、九五	六、四九八、三五	二、八四一、三〇
七、七三二	二、八四一、三〇	二、八四一、三〇	二、八四一、三〇
五十六	二、八四一、三〇	二、八四一、三〇	二、八四一、三〇

備考 「クロエツエル」ハ百分二「グルデン」ニシテ我八厘余ニ當ル

經理事業

(一) 施業案

國有林	基本林	總計	全面積		確定施業案		假定施業案		計	全面積ニ對スル施業案ノ百分率	總額	費用
			「ヘクタール」	「ヘクタール」	「ヘクタール」	「ヘクタール」	「ヘクタール」	「ヘクタール」				
七、八九七、〇	三、三二四	一、〇三〇、九四	四、七六三、三	六、五二一、六六	六、九三〇、〇〇	八、七五	六、八九三、三五	九、九三	二、八四一、三〇	二、八四一、三〇	二、八四一、三〇	二、八四一、三〇
五、七三三、六	九、五三九、四	二、八二七、九三	二、八二七、九三	二、八二七、九三	二、八二七、九三	八、五〇六	二、八二七、九三	二、八二七、九三	二、八二七、九三	二、八二七、九三	二、八二七、九三	二、八二七、九三

(二) 檢閲

國有林	基本林	總計	面積	積	總額	費用
二二一、二五〇	四三、四八八	二五四、七三八	六四、四六八	一〇、五二八	七四、九九六	二九、四

右各表ニ依レハ平均費用ハ測量ハ距離一「メートル」ニ付二、〇三「クロエツエル」即チ一「キロメートル」ニ付二〇、「グルデン」余ナルヲ以テ我一里ニ付約六十四圓ヲ費シ、施業案編製費ハ一「ヘクタール」ニ付八六「クロエツエル」ナルヲ以テ我約一町步ニ付六十八錢八厘ニシテ施業ノ檢閲ハ一「ヘクタール」ニ付二九、四「クロエツエル」ナルヲ以テ我約一町步ニ付二十三錢三厘則チ施業案編製費ノ約三分ノ一ニ當レリ、

物價ノ高キコト我國ヨリ數倍ナル彼國ニシテ事業費ノ低キコト斯ノ如シ、是技術者ノ熟否ニモ依ルヘシト雖モ亦事業ノ精粗ノ程度ヲ察スルニ難カラサルヘシ、我國林業者タル者豈ニ留意スル所ナクシテ可ナランヤ、

四 造林事業

澳國ハ既ニ總論ニ概述シタル如ク、位置及海面上ノ高サノ異ナルニ從ヒ林況ノ甚タ區々ナル爲メ森林ノ更新法ハ亦種々ナリトス、然レトモ其目的トスル所ハ作業ヲ永久ニ保續シテ可成多大ノ天然物ヲ生産スルニアリ、併シ亦國家人民ノ安寧ヲ保維シ同時ニ最大ノ純收入ヲ得ルコトニ留意セサルヘカラストハ前ニ述ヘタル施業ノ綱領ニ依リテ明カナリ、此原則ニ依リ國有林及基本林ニアリテハ喬林作業ヲ主トシ且其樹種及作業法ノ撰定ニ深ク注意セリ、

(一) 天然ノ造林

天然更新法ニハ播種^{ブイムシユ}伐及皆伐ノ二法アリ、播種伐法ハ區劃擇伐作業又ハ擇伐作業ニ依リテ行ハレ、區劃擇伐作業ハ多ク高山地方ニ施行シ、平地及丘山ニ於テハ之ヲ見ルコト甚タ罕レナリ、而シテ之ヲ施行スル順序ハ普通左ノ如シ、

第一ニ豫備伐ヲ爲シ

第二ニ種子ノ結實年頃ニ下種^{ベギムシユスロリア}伐ヲ行ヒ

第三ニ種子ノ飛散後光線ヲ受ケサシムル爲メ光伐^{リヒトシユテリヤ}ヲ行ヒ

第四ニ最後ニ收穫ノ目的ニテ全林木ヲ伐採^{アブトリノスヘン}ス之ヲ主伐^{アブトリノスヘン}ト云フ

擇伐作業モ高山地方殊ニ保護林及禁制林^{バンジツリン}(澳國ニテハ保安林ニ保護林及禁制林ノ別アリ則チ保護林トハ其林地ヲ保護スルノ目的ニテ作業ヲ制限スル森林ヲ謂ヒ、禁制林トハ他ノ物件例ヘハ道路、鐵道、家屋等ノ安固ヲ維持スル上ニ於テ必要ナル性質ヲ有スル林ニシテ他ノ爲メニ作業ヲ禁止又ハ制限セラレタル林ヲ云フ)ニ於テ採用セラレ、アルペン及カルバーテン地方ニ於テ多ク之ヲ見ル、然レトモ此作業ハ亦小面積ノ森林ニテ各年級ヲ有シ連年收穫ヲ得ント欲スル場合ニモ用ヘラル、コトアリ、例ヘハ高山地方ノ殖民或ハ林役權利者ニ年々木材ヲ讓與スルノ必要アル場合ノ如キ是ナリ、アルペン及カルバーテン地方ニ於ケル擇伐作業林ノ面積及部合ハ左ノ如シ、

	アルペン及地方ノ森林全面積 カルバーテン	擇伐作業面積	全面積ニ對スル擇伐 作業面積ノ百分率
國有林	五九一、二六三 ^(ヘクキール)	一七五、〇五三 ^(ヘクキール)	二九、六 ^(アプロチエント)
基本林	二四三、〇四五	三二、〇〇二	一三、二
總計	八四三、三〇八	二〇七、〇五五	二四、八

是ニ由テ之ヲ觀レハ國有林ニアリテハ其全面積ノ二十九、六「プロチエント」基本林ニアリテハ其全面積ノ一二、二「プロチエント」ハ擇伐作業法ナリトス、是澳國ノ地勢上ニ於テ然ラサルヲ得サル所ナリト雖モ、亦政府カ國土ノ保安ト國家ノ公益ニ注意スルノ深キヲ察スルニ足レリ、

天然更新法ニテ皆伐作業ヲ爲ストキハ針葉樹林ニアリテハ帶狀ニ伐採シ天然更新ニテ不完全ナル場所ニハ人工植栽ヲ以テ補ヒ、中林及矮林作業ニアリテハ天然更新法又ハ人工更新法ニ依リ或ハ時トシテ其折衷法ヲ用ユルコトアリ、則チ萌芽林ニシテ尙年齢ノ幼キモノハ殆ント人工ヲ要セスト雖モ中林或ハ矮林ニシテ稍年齢ノ高キモノニアリテハ人工更新法ヲ以テ補フヲ例トス、

(二) 人工造林

人工造林ハ近來著シク擴張シ國有林及基本林ニテ全林ノ三十二、九「プロチエント」ハ人工造林ニ依ルノ森林ニシテ若シ之ニ天然更新ノ補植ヲ加フレハ一層其部合ヲ増加スヘシ、近來林業ノ進歩ニ從ヒ可成

造林費ヲ節減シテ森林ノ純收益ヲ増進セントノ希望ニ依リ獨乙各邦ニ於テハ勞ノ多クシテ費用ノ大ナル人工造林法ヲ避ケ勞ノ少クシテ費用ノ小ナル天然造林法ニ依ラントスルノ傾向アルニ際シ、獨リ比隣ノ澳國國有林ノ造林主義カ全ク反對ノ方向ニ趣クノ事實アルハ稍奇異ノ感ナキニアラス、然リト雖モ元來此人工造林ト天然造林トノ得失論ハ大体ノ方針問題トシテハ其關係スル所甚タ廣遠ニシテ容易ニ解決シ得ヘキコトニアラス、單ニ現時ノ經濟狀況ニ依リ數學上ヨリ判斷ヲ下セハ人工造林法ノ天然造林法ニ優ルコト萬々ナルヘシ、然レトモ只費用ヲ減殺スルノ意ニ制セラレ知ラス識ラス優等樹種ヲ以テ劣等樹種ニ代ヘ森林ヲ改良スルノ念ヲ抑制スルニ至リテハ天然造林主義ノ流行モ亦弊ナシトセス、何トナレハ林业ハ百年ノ事業ニシテ其ノ收穫ノ價ハ未來ノ經濟上ノ狀況ニ關係スルモノナレハ單ニ今日支出ノ減少ヲ是謀リ未來ノ收入ノ如何ニ注目セサルノ嫌アレハナリ、且實際的ノ問題トシテハ其國ノ事情殊ニ地勢、地質及林业進歩ノ程度、則チ林业上ノ舊國ナルヤ將タ新開國ナルヤヲ考察セサルヘカラス、既ニ森林ノ改良ヲ了ヘ良樹種ヲ以テ整理シタル森林ヲ有スル國ニアリテハ主トシテ天然造林法ニ依ラントスルハ理ノ當然ニシテ不可ナシト雖モ、尙林业上ノ新開國タルヲ免レサル殊ニ不良不整ノ天然林ヲ有スル如キ國柄ニ於テハ熟慮ヲ要スヘキ問題ナリトス、澳國カ近來却テ人工造林法ヲ擴張スルノ事實アルハ國ノ地勢地質上ノ狀況ト尙無立木地ヲ有スルニ由ルト雖モ、亦自己ノ國柄ニ鑑ミ林业ノ將來ニ察シ着々森林ノ改良ヲ謀リ今日大ニ散シテ他日大ニ得ントスルノ企圖アルモノ、如シ、左

ニ天然造林地ト人工造林地トノ面積及部合ヲ示サン、

	天然造林地	人工造林地	計
國有林	三六〇、二一九	二七三、一八九	六三三、四〇八
基本林	二三九、二三九	二〇、九〇八	二六〇、一四七
計	五九九、四五八	二九四、〇九七	八九三、五五五
百分率	六七、一	三三、九	一〇〇、

備考 國有林ニアリテハ天然造林地五六、九「プロチエント」人工造林地四三、二「プロチエント」ニシテ基本林ニ於テハ天然造林地九一、九「プロチエント」人工造林地八、二「プロチエント」ニ該ル

造林費ハ既往十年間ノ平均ニ依レハ一「ヘクタール」ニ付播種ハ平均八「グルデン」餘ニシテ植栽ハ十四「グルデン」許ナリ、然レトモ位置、土壤及勞力關係ノ狀況ニ依リ差等アルヲ見ルコト左表ノ如シ、

國有林	播種		植栽	
	最少額	最多額	平均	平均
「グルデン」	一、二九	五六、〇〇	九、五七	二、五四
「ヘクタール」	二、五七	三、五七	一、五〇	一、五〇

基本林	〇、七六	四九、三二	五、一〇	一、二七	五九、二九	一〇、五〇
國有林及基本林	〇、七六	五六、〇〇	八、四〇	一、二七	五九、二九	一四、二二

六十二

植栽ニ要スル樹苗ハ之ヲ官設苗圃ニテ養成セリ、現今ノ毎年ノ人工造林面積ハ凡四千「ヘクタール」ニシテ内一千「ヘクタール」余ハ播種三千「ヘクタール」許ハ植栽ナリトス、之ニ對スル苗圃ノ面積ハ三十二「ヘクタール」余ニシテ毎年ノ經費ハ二萬二千「グルデン」ナリトス、故ニ苗圃ノ面積ハ森林面積一千「ヘクタール」ニ付〇、〇三五七「ヘクタール」ニシテ人工造林面積一千「ヘクタール」ニ對シ〇、一〇八七「ヘクタール」則チ我一千町歩餘ニ付一反二十六歩ニ該レリ、

第二節 森林ノ收支

一 事業ノ收入

林業ハ單純ニ言ヘハ一ノ粗産の營業ナリ、故ニ其事業ノ進否ハ利益ノ如何ニ關係スルヤ言ヲ俟タス、澳國政府亦國有林及基本林ノ事業ノ利益ノ増進ニ就テハ熱心計劃スルコト實ニ尋常ナラス、千八百六十八年以來國有林及基本林ノ收支ニ付之ヲ公ケニシタルコト一再ニ止マラス、今最近千八百九十五年ノ調査報告ニ依リ千八百七十四年ヨリ千八百九十三年ニ至ル二十年間ノ國有林及基本林ノ收入ノ狀況ヲ掲クレハ左ノ如シ、

	國有及基本林地ノ面積	收入	支出	差引收入殘高	面積一「ヘクタール」ニ付テノ純收入
自一八七四至一八七八平均	一、〇七、七二五	五、四五、八九八	四、〇〇、七二八	一、三五、一八〇	一、三六
自一八七九至一八八三平均	一、〇七、六〇四	四、七九、二四九	三、五九、七四〇	一、一九、五〇九	一、八三
自一八八四至一八八八平均	一、〇六、九八四	五、三九、二九	三、九三、〇六八	一、四五、二二一	一、四三
自一八八九至一八九三平均	一、一三、〇四二	六、二五、七五七	四、七八、六三〇	一、四七、一二七	一、三一
總平均	一、〇八、一九〇	五、四九、七八一	四、〇八、〇三九	一、三九、七四二	一、三一

備考

- (一) 小官有物件ト稱スル農務省ニ於テ豫算ヲ編成シ地方ノ財務官廳ニ於テ取扱フモノ面積一萬四千五百五十三「ヘクタール」其純收入三萬五千八百二十九「グルデン」(二十年間平均ニテ)則チ一「ヘクタール」ニ付二、四六「グルデン」ハ全ク算外ニ置ク
- (二) 中央局費則チ國有林及基本林等監督ノ爲メ農務省森林技術官ノ旅行ニ要スル旅費并ニ森林保護吏學校ノ經費ヲ算外ニ置ク
- (三) 地方監督局ノ經費ハ支出トシテ減却セス之ニ反シ林役權利者ニ與フル林產物ニ對スル價及牧場使用料ハ收入トシテ加算セス

(四) 金員收入ニ對スル材積收穫ハ調査ノ年度ヲ異ニスト雖モ左表ニ依リ金員收入ト材積收穫トノ大体ノ關係ヲ知ルヘシ

年 度	主伐收穫	間伐收穫	合 計
自一八七三年 至一八八二年 平均	二、六八七、五八四	一九四、九九七	二、八八二、五八一
一八八三年	二、六八四、三八八	一六二、二四四	二、八四六、六三二
一八八四年	二、六九一、〇八九	一七四、九七九	二、八六六、〇六八
一八八五年	二、六六二、五三四	一八七、〇六四	二、八四九、五九八
一八九七年豫算	二、四三八、九八〇	二九九、七〇五	二、七三八、六八五

施業案ニ依リ調査シタル國有林及基本林ノ現實ノ貯積材量ハ一億八千八百八十二萬五千三百八十「フエストメートル」ナリ

此表ノ備考(一)及(二)ハ收支ノ算外ニ置クモ可ナリト雖モ(三)ノ地方監督局ノ經費ハ支出ノ一部分トシテ計算スルヲ至當ト信スルニ依リ、其千八百七十四年乃至千八百九十三年ノ平均額三十七萬六千七百七十九「グレン」ヲ差引收入殘高百三十六萬九千七百四十二「グレン」ヨリ減スルトキハ其差額ハ九十九萬九千六百三十三「グレン」ナリ、是即チ純收入ト稱シ得ヘキモノニシテ其「ヘクター」當リハ〇、九五「グレン」則チ我約一町歩ニ付七十六錢餘ナリトス、之ヲ左表ニ示ス所ノ

各國國有林純收入表

年 度	國 名	一町歩ノ純收入
千八百九十一年	サクソン王國	二二、三五二
全 全	ウユルテンベルク	一五、四一六
千八百九十一年ノ平均	巴 丁	一四、七二〇
千八百九十一年ノ平均及	エルサース、ロトリュゲン	九、八八八
千八百九十三年	巴 威 里	七、三〇四
千八百九十三年	同 國 高 山 地 方	〇、二二四
千八百九十三年ノ平均及	回 國 平 坦 地 方	八、九七六
千八百九十三年	クロフチーン及ストラボニン	六、五六〇
千八百九十三年ノ平均	普 魯 西	六、一三六
千八百九十三年	匈 牙 利	一、二六四

各國純收入ニ比ストキハ實ニ澳國ハ其最下ノ位置ニアリ、是世人カ同國國有林ノ收利ノ擧ラサルヲ唱ヒ其管理施業ノ不行届ヲ難スル所以ナリトス、然レトモ是同國ノ林業ヲ觀察セサル輩ノ皮層ノ見タ

ルヲ免レヌ、元來此國國有林ノ收利ノ僅少ナルニハ種々ノ原因アリト雖モ其主ナルモノハ森林ノ位置及運搬ノ不便、林役權承役ノ義務ヲ負フコト、并ニ國有林ニ對シ地租及公課ノ賦課ヲ受クルコト是ナリ今其理由ヲ左ニ記述スヘシ、

〔森林ノ位置高山地方ニアリテ且運搬ノ不便ナルコト〕澳國ノ地勢ノ概況ハ既ニ屢々述ヘタル所、殊ニ國有林及基本林ノ位置ハ最高山地方ヲ占メ且峻嶮ノ場所多クシテ生産力ノ微弱ナルハ姑ク之ヲ問ハサルモ國土ノ保安上(假令保護林トナラサルモ)自由ナル作業ヲ爲スコト能ハサルノミナラス林產物搬出ノ不便ナルコトハ多言ヲ要セス、國有林及基本林ノ高度ニ於ケル位置ノ分配ヲ見ルニ左ノ如シ、

高サノ區別	面積	百分率
三百「メートル」以下	二六、三三〇 <small>〔ヘクタール〕</small>	二、六 <small>〔プロチセント〕</small>
三百「メートル」乃至六百「メートル」	一四四、四三〇	一四、一
六百「メートル」乃至一千「メートル」	二八四、〇八〇	二七、七
一千「メートル」乃至一千五百「メートル」	四三一、二八〇	四二、四
一千五百「メートル」以上	一三四、七九二	一三、二
計	一〇二〇、九一二	一〇〇、〇

森林ノ收入ニ多寡ヲ生スル原因ノ最モ顯著ナルモノハ林地ノ高サニ於ケル位置ノ如何ニアリ、巴威里

ノ如キモ全國有林ノ平均純收入ハ一「ヘクタール」ニ付七圓三十錢余ナレドモ若シ其高山地方ノモノ、ミヲ以テ計算スルトキハ其純收入ハ降テ一「ヘクタール」ニ付僅カニ二十二錢四厘ニ當レリ、又一搬運搬機關ノ完否モ森林ノ收入ニ及ホス影響少ナシトセス、而シテ運搬機關ノ發達ト否トハ交通的行政ノ如何ニ由ルナシトセサレトモ、其遠因ハ天然ノ地形如何ニ存スルコト論ヲ俟タス、今運搬機關ノ重ナル鐵道ニ付澳國各洲別(千八百九十一年ノ調査)及獨逸國中重ナル國々ノ(千八百九十三年、四年調査)土地ノ面積ト延長トノ關係ヲ見ルニ左ノ如シ、

州名	國ノ面積	鐵道ノ延長	一平方「キロメートル」ニ付鐵道ノ延長
下澳國	一九、八二三 <small>〔平方「キロメートル」〕</small>	一、七四九 <small>〔キロメートル〕</small>	八八、二
上澳國	一一、九八五、四一	八五九、七四〇	七一、八
サルツブルク	七、二五二、一九	二五五、五二九	三五、七
チロール及フチルアルベルク	二九、二八八、三三	七九七、二四四	二七、二
スタイエルマルク	二二、四二七、七七	一、二三九、七九三	五五、三
ケルレテン	一〇、三二七、七一	四二三、五五二	四一、〇
クライン	九、九五五、八四	二九四、四四九	二九、六
キユステンランド	七、九六六、〇四	三一四、一九七	三九、四

ダルマチイン	一二、八三二、五七	一二七、六九三	一〇、〇
ベーメン	五一、九四八、一七	五、一五九、五六七	九九、四
メーレン	二二、二二一、九〇	一、七八九、八三七	八〇、五
シユレジイン	五、一四六、八五	四九四、六一九	九六、一
ガリチイン	七八、四九六、九九	二、七五〇、二七五	三五、〇
プロビナ	一〇、四五一、六一	三二六、七七〇	三一、三
計	三〇〇、〇二四、三八	一六、五八二、四九七	五五、三
聯邦名	國ノ面積	鐵道ノ延長	一平方「キロメートル」ニ付鐵道ノ延長
サクセン王國	一四、九九二、九四 <small>〔平方キロメートル〕</small>	二、六一八、二七 <small>〔キロメートル〕</small>	一七四、六 <small>〔メートル〕</small>
エルサスロートリンゲン	一四、二〇九、四六	一、六二二、七八	一一一、八
巴 丁	一五、〇八一、一三	一、六七七、六二	一一一、二
ウユルテンベルク	一九、五〇三、二九	一、五八一、〇一	八一、一
巴 威 里	七五、八六四、六五	五、八八一、五七	七七、五
普 魯 士	三四八、四三七、二七	二六、五〇六、七九	七六、一

是ニ由テ觀レハ澳國ハ鐵道ノ延長ニ於テ獨逸國中重ナル國ニ及サルコト遠シ今更ニ茲ニ揭クル各國ノ

森林收入ト鐵道延長トノ關係ヲ見ルニ

サクセン	一七四、六 <small>〔メートル〕</small>	二二三、三五二 <small>〔ヘクタール〕ニ付國有林ノ純收入</small>
ウユルテンベルク	八一、一	一五、四一六
巴 丁	一一一、二	一四、七二〇
エルサスロートリンゲン	一一一、八	九、八八八
巴 威 里	七七、五	七、三〇四
普 魯 士	七六、一	六、一三六

ノ如ク只ウユルテンベルクヲ除クノ外ハ鐵道ノ延長ト森林ノ純收入トハ其間ニ稍比例ヲ保ツモノ、如シ、澳國ハ其全國ノ平均ニ於テ一平方「キロメートル」ニ付五十五、三「メートル」ノ鐵道ヲ有スト雖モ國有林ノ最モ夥多ナルサルツブルク、チロール及フラルアルベルクノ各州ニ於テハ一平方「キロメートル」ニ付二十七乃至三十五「メートル」ノ鐵道ヲ有スルニ過キス、之ニ反シ一平方「キロメートル」ニ付九十九「メートル」餘ノ鐵道ヲ有スルベーメン州ハ澳國中最も森林事業ノ旺盛ナル地方ニシテ林業ノ利益モ他ノ州ニ卓絶スルモノ、如シ、現ニ政府ニテ管理スルホリツク養老寄附基本林ノ如キハ既往二十ヶ年間平均ニ於ケル毎年ノ純收入ハ二「ヘクタール」ニ付十四圓許ニシテ殆ント巴丁及ウユルテンベル

クト比肩セリ、森林収入ニ多少アルハ固ヨリ森林ノ位置及地勢ニ由ルト雖モ亦交通機關ノ進否ニ關係スルコト尠カラサルヲ知ルヘキナリ、

「林役權承役ノ義務ヲ負フコト」澳國國有林ノ林役權承役ノ義務ノ多大ナルハ各國ニ比テ見サルハ普ク世人ノ知ル所ナリ、政府ハ千八百五十三年ノ法律ヲ以テ一部ハ其權利ヲ解除シ一部ハ其權利ヲ制限シタリト雖モ、尙アルベン地方ノ森林ノ如キハ所有權ハ國家ニ屬スレトモ利用權ハ全ク人民ニ存スルヲ常トセリ、故ニ林役權ノ承役ハ亦國有林ノ利益ヲ減殺スル著シキ原因ノ一タリ、然レトモ林役權ノ價ヲ計算シテ之ヲ以テ林役權ノ爲メ減殺セラレタル收入ナリト云フハ未タ其當ヲ得タルモノニアラス、元來林役權ナルモノハ要役者カ承役者ノ森林ニ於テ木材及落葉下草ノ採集并ニ放牧ヲナスノ權利アルヲ以テ要役者ハ木材ノ採集ニ就テハ可成運搬ノ至便ナル場所ヨリ木材ヲ伐採シ適意ノ場所ニ於テ造材スルヲ以テ承役者ハ規則正シキ施業ヲ爲スコトヲ得サルノミナラス材種ノ如キモ今日ハ軟柔ナル材質ノ燃料ハ市場ニ於テ善良ナル製紙用材トシテ賣買セラル、ニ拘ハラス、往昔ノ不完全ナル契約ニ依リ要役者ハ燃料ノ名義ノ下ニ之等ノ好良ノ樹木ヲ選擇採集セリ、其他落葉下草ノ採收ノ如キハ其產物ノ價格ハ大ナラサルモ森林ニ及ホス損害ノ大ニシテ生産力ノ増進ヲ阻止スルコトハ世人ノ熟知スル所ナリ、然レトモ之等損害ノ高ハ數字ヲ以テ表示シ得ヘキモノニアラス、故ニ今假リニ林役權ノ價格ノミニ因リ森林収入ニ如何ナル關係ヲ及ホスカヲ計算センニ

自一八七四年
至一八九三年 平均收入

五、四四九、七八一「グレン」

全平均林役權ノ價格

七一六、八八〇、

計

六、一六六、六六一、

ニシテ此粗收入額ヨリ亦同年間平均ノ年管理費

四、四五三、七一八、

ヲ減スルトキハ純收入ハ

一、七一二、九四三、

ニシテ「ヘクター」ノ純收入ハ一、六三三「グレン」則チ約我一圓三十錢四厘ナリ、匈牙利ハ森林上全般ノ關係澳國ニ能ク彷彿シタル國ナリ、而シテ其國有林ノ純收入ハ前ニ示ス如クニ町歩ニ付一圓二十六錢四厘ニシテ今計算シタル澳國國有林及基本林ノ純收入ト伯仲セリ、是ニ由テ見レハ澳國ニ於ケル國有林ノ林役權ノ承役ハ其純收入ヲ減殺スルコト尠カラサルコト及同時ニ亦澳國政府カ森林管理ノ不手際ナラサルコトヲ證シテ餘アリ、

「地租及公課ノ負擔アルコト」澳國ニ於テハ國有林及國有地ニハ地租ヲ賦課セリ、是各國ニ於テ見サル所ノ制度ナリトス、國有ノ森林及土地ニ國稅ヲ課スルノコトハ政府ノ財政上ヨリスレハ右手ニ失フテ左手ニ得ルモノニシテ却テ賦課徵收ニ關スル費用丈ハ國ノ損失ニ歸シ徒勞ノ譏ヲ免レサルヘシ、然レトモ森林事業ヲ以テ一ノ營業トシ國有林經濟ノ獨立ト云フ點ヨリ見レハ稍平衡ヲ得ル制度ト謂フヘキカ、殊ニ地租ハ州稅及市町村稅等賦課ノ目安トナルヘキモノナレハ澳國ノ如キ各州其人種、言語及

宗教ヲ異ニシ、從テ風俗習慣ニ異別アリテ地方的感情ノ強大ナル國ニアリテハ、地方經濟ノ點ヨリスルモ國有ノ土地森林ニ地租ヲ課シテ各州經濟ノ平衡ヲ保ツコトモ蓋シ止ヲ得サルノ事情ニ出テシナルシ、地租率ハ純收ノ百分ノ二十三餘ニ過キサレトモ州稅及市町村稅ヲ加ヘルトキハ國有及基本林并ニ國有地ノ負擔スル公課ノ總額ハ左ノ如シ、

公課總額	生産地 負擔額
自一八七四年平均	「ヘクタール」ニ付テノ
自一八七八年平均	〇、五三
自一八七九年平均	〇、五七
自一八八三年平均	〇、六八
自一八八四年平均	〇、六六
自一八八八年平均	〇、六八
自一八八九年平均	〇、六六
自一八九三年平均	〇、六一
總平均	〇、六一

是ニ由レハ澳國ノ國有林及基本林ハ平均二「ヘクタール」ニ付〇、六二「クロエツエル」則チ約我一町步ニ付四十八錢八厘餘ノ公課ヲ負ヒ尙其負擔額ハ漸ク増進セントスルノ勢ヲ示セリ、是亦澳國國有林ノ收入ヲ減殺スルノ一原因タルコト明カニシテ且將來國有林經營ノ困難ナルヲ察スヘキナリ、

二 事業ノ經費

澳國國有林及基本ノ總支出ハ已ニ本節ノ第一ニ掲ケタル收入及支出表ニ依レハ千八百七十四年乃至千

八百九十三年ノ二十ヶ年間ノ平均額ハ四百八萬三千二十九「グルデン」ニシテ殆ント總收入ノ五分ノ四弱ニ當リ尙詳シク打算スレハ其總收入ト總支出トノ割合ハ五十四ト四十六ノ比ナリ、今各國ノ收支ノ關係ヲ調査シ之ニ比較スルハ左ノ如シ、

年	國名	總收入	總支出	總收入ト總支出ノ割合
一八九三年	巴威里	八八三、六〇〇	四六九、七五九	五
一八九二年平均	普魯士	三、四九三、〇〇〇	一、七四三、四九九	六
一八九一年	サクセン王國	五、七三三、六六一	一、七九七、五三八	六
全	ウユルテンベルク	五、一七五、四八一	二、一六、五〇六	七
全	巴丁	二、四七九、七七八	一、一三四、九四九	六
一八九〇年平均	エルサスロートリンゲン	二、八三六、七九〇	一、四二二、一三三	六
一八九二年平均	匈牙利	四、五〇三、〇四九	三、二四八、一八二	六
一八九三年	クロアチン及スラボニン	二、〇二六、五七一	三、五、一四七	八

最モ良好ノ成績ヲ呈スルモノハクロアチン及スラボニンナリトス、然レトモ是該國ノ林業上ニ於ケル天然ノ賜トモ言フヘキ樺林ヲ國有林ニ多ク貯フルニ由レリ、樺ノ價格ハ針葉樹又ハ山毛櫸ノ價ニ

比スレハ普通三倍乃至四倍ノ間ニアリテ收入ノ非常ニ大ナルニ拘ハラス、之レカ管理施業ノ費用ハ其割合ニ多キヲ要セサルニ由ルナリ、更ニ澳國ヲ以テ其他ノ各國ト比スルニ只匈牙利ニハ伯仲スルノミニテ他ノ獨逸各國ニハ及ハサルコト遠シ、是澳國ニアリテハ總支出ノ中ニハ他國ニ見サル所ノ地租其他ノ公課(地租其他ノ公課ヲ差引キ總收入ト總支出ノ部合ヲ計算スルモ尙六十一ト三十九ノ比ナリ)ヲ含ムニ由ルト雖モ亦地勢上ノ關係ヨリシテ管理施業ノ費用殊ニ林產物ノ運搬ニハ獨逸各國ニ於テ多ク見サル特別ノ運搬裝置ヲ設ケ或ハ木材ノ貯藏ニ木材置場ヲ設ル等ノ設備ヲ要スル爲メニモ由ルナカラシカ、

尙經費支出ノ適否ヲ知ラントセハ事業費則チ直接生産上ニ働ク處ノ費用ト管理費即チ官廳的ノ業務ニ要スル費用トノ關係ヲ考察スルノ要アリ、澳國ニ於テハ千八百七十四年乃至千八百九十三年ノ二十年間ノ平均ニテ一町歩ニ對スル總收入ハ三圓四十錢餘ニ當リ、尙之ヲ細別スレハ管理費一圓十錢地租其他ノ公課四十八錢八厘、事業費一圓八十一錢ニシテ管理費ト事業費トノ割合ハ三十八ト六十二ノ比ナリトス、而シテ比隣各國ノ成績ヲ調査スルニ左ノ如シ、

年	國	一町歩ニ付テノ總收入	管理費	事業費	事業費ト管理費ノ割合
一八九三年	巴威里	八、三三	二、八二	五、五〇	三四
一八九二年平均	普魯士	六、六六	二、七一	三、九五	四一

年	國	一町歩ニ付テノ總收入	管理費	事業費	事業費ト管理費ノ割合
一八九一年	サクセン王國	一〇、六六	三、八二	六、八四	三六
全	ウエルデンベルク	一一、九七	三、四六	八、五一	二九
全	巴丁	一二、四二	二、七〇	九、七二	二二
一八九〇年平均	エルサス、ロートリンゲン	九、九三	三、九二	六、〇一	三九
一八九一年平均	匈牙利	三、二六	〇、七八	二、四四	二四
一八九三年	クロアチエ、スラボニア及	一、四六	〇、九四	〇、五二	六四

備考

(一) 爰ニ事業費ト稱スルモノハ木材ノ採得及運搬費、造林保護及育林費、副產物製造費、作業上ノ建築ニ關スル費用其他作業上ニ關スル費用ヲ云フ

(二) 管理費ト稱スルモノハ官吏ノ俸給、廳費、官廳ノ建築及保存費其他管理ニ關スル費用ヲ云フ是ニ由テ見レハ澳國ハクロアチエ及スラボランノ特別ノ事情アルモノヲ除ケハ、只普魯士及エルサス、ロートリンゲンニ優ルノミニシテ他ノ各國ニ及ハサルモノト云ハサルヲ得ス、是蓋シ澳國ニアリテハ施業ヲ行ヒ得ヘキ部分ニ於テハ多額ノ生産費ヲ投シ居ルコトハ事實ナレトモアルペン如キカルパターン如キ事業ヲ施コスコト能ハサルモ管理保護ノ必要アル爲メ管理費ノミヲ費ヤシ居ル場所少ナシトセサルニ由ルナラン、

左ニ掲クル千九百年ノ森林及國有地ノ收入及經費豫算ニ依リ收支ノ狀況ヲ知ルヘシ、

千九百年ノ豫算

經常收入

第二十八款 第九項 森林及國有地

一二、八四三、九二〇

第一目 森林及國有地監督局

九、一〇〇

一 家屋賃料

七〇〇

二 官設裝置物使用料

六、四〇〇

三 雜收入

—

四 補償金

—

五 監督旅費ヲ基本林所有者ヨリ納ムル額

二、〇〇〇

第二目 國有林及國有地

一二、八三三、三六〇

第一 林業

一 燃林

四、九七九、八二〇

二 建築細工及造作材(用材)

六、〇〇五、六〇〇

三 木炭

一〇七、三二〇

四 副產物收入

一三六、〇四〇

五 雜收入

八二、七〇〇

計

一一、三一一、四八〇

第二 農業

六 農業用物件ノ賃貸料及施業收入

一九六、一八〇

七 雜收入

一五、八八〇

計

二二二、〇六〇

第三 副業

八 工業建築物ノ賃貸料及施業收入

九八三、八四〇

九 其他ノ物件ノ賃貸料及施業收入

一六六、三六〇

十 地役權收入

九、九六〇

十一 狩獵及養魚並ニ捕魚

一〇九、二〇〇

十二 器械及材料置場收入

一一、九六〇

計

一、二八一、三二〇

十三 經常費ヨリ補充

二八、五〇〇

第二章

七十七

第三目 學校收入

七十八

臨時收入

三六〇

十四 雜收入

四〇

十五 臨時經費ヨリ補充

一、〇六〇

臨時收入合計

一、一〇〇

備考 「クローチー」ハ二分ノ「グルデン」ニシテ我凡四十錢ニ當ル

經常費

第二十八款 第八項 森林及國有地

一〇、二四五、四二〇

第一目 森林及國有地監督局

一、〇〇五、五二〇

一 俸給

六二九、二八〇

二 勤勞加俸

一一八、七八〇

三 手當

二〇、一八〇

四 賃金

五、九六〇

五 筆寫及計算ノ年額

五四、八〇〇

六 俸給外ノ支給金

三、五四〇

七 借家料

一九、八四〇

八 雜給(勞力者ノ賃金ヲ除ク)

一三、八六〇

九 年額旅費及其他ノ旅費

六四、五〇〇

十 家屋保存費

九、三二〇

十一 廳費

四〇、〇二〇

十二 經理事業ニ關スル廳費

二〇、九四〇

十三 雜費

五〇〇

十四 補償金

一、六〇〇

十五 高等農林學校ニテ行フ砂防工術講義ノ謝金及教授費

二、四〇〇

十六 澳國國有及基本財産年報第四卷ノ費用

九、一九六、〇〇〇

第二目 國有林及國有地

第一 林業

九、一九六、〇〇〇

一 木材採得及運搬費

三、八四五、七二〇

二 木材及木炭買入代

二〇、四八〇

三 製炭費

四五、一四〇

第二章

七十九

四	作業上ノ建設物及其保存費	八十
五	副産物ニ關スル費用	四八七、一二〇
六	造林、保護及育林費	一二、五八〇
七	檢閲費	四七四、三二〇
八	其他ノ作業費	七二、二八〇
計		一三八、一六〇
第二 農業		五、〇九五、八〇〇
九	施業及建設物保存費	六三、三八〇
第三 副業		
十	工業建設物ニ關スル費用	六九四、五八〇
十一	其他ノ物件ニ關スル費用	五二、七二〇
十二	地役權ノ費用	一、一〇〇
十三	狩獵及養魚并ニ捕魚	四七、九八〇
十四	器械及材料置場費	五〇、一八〇
計		八四六、五六〇

第四 管理費		
十五	俸給及俸給外ノ支給金	一、六四七、八六〇
十六	廳費	二〇〇、三四〇
十七	管理署建築物ノ保存費	一五八、二二〇
十八	雜給	四五、三〇〇
十九	其他ノ管理費	三五、五八〇
計		二、〇八七、三〇〇
第五 <small>エンメントラツヒミツスアン</small> 公ノ負擔金		
二十	地租及公課	一、〇二四、六六〇
廿一	宗教及慈善事件ニ關スル費用	七七、三六〇
計		一、一〇二、〇二〇
廿二	經常收入ヨリ補充	九四〇
第八目 造林學校費		四三、九〇〇
臨時費		
第三目 新築及土地買上費		三二八、二二〇
第二章		八十一

第四目 測量及經理事業費

第五目 林役權解除及整理費

第六目 其他ノ臨時費

臨時費ノ計

八十二

五九、四四〇

一八、七〇〇

五二、七四〇

四四八、一〇〇

第三節 林業勞力者

林業ハ農業又ハ工業ニ比スレハ勞力ニ賴ルコト少ナキ事業ナリト雖モ、熟々各國ニ於ケル林業ノ狀況ヲ觀ルニ我國現時ノ狀況ト大ニ趣ヲ異ニスル所アリ、我國ノ森林所有者ナルモノハ或ルニ三林業ノ旺盛ナル地方ヲ除クノ外ハ產出シタル木材ハ山元ニテ立木ノ儘之ヲ賣却スルヲ常トセリト雖モ、獨、佛、澳等ニアリテハ伐木運搬及造材迄ヲ林業ノ範圍トナシ、特ニ澳國ニテハ一般ニ地勢峻嶮ニシテ運輸不便ナル爲メ運材上ニ種々ノ運搬裝置ヲ設ケ或ハ鋸工場、剝皮及割材工場ヲ始メトシテ林產物ニ種々ノ加工製造ヲ施コス等林產ノ販路ニ力ヲ盡スコトハ獨、佛等ニ多ク見ザル所ナリ、故ニ澳國ノ林業ニハ勞力ヲ要スルコトノ多キハ豫想ノ外ニシテ國有林ノ如キモ森林經費ノ六十二「プロヂエント」ハ事業費ニシテ管理及保護費ハ僅カニ三十八「プロヂエント」ニ過キス、之ヲ我國今日ノ林業ノ狀況ニ比セハ日ヲ同フシテ談スヘカラサルモノアリ、

林業ノ狀況夫レ斯ノ如シ、勞力者ヲ養成シ之ヲ保護スルノ必要ヲ生スル亦自然ノ結果ナリトス、國有

林ノ事業ニ従事スル勞力者ノ如キハ常雇ノ者尠シトセス、固ヨリ森林及地方ノ狀況ニ依リ管理署ニ常雇勞力者ヲ置ク所ト否ラサル所トアリ、又勞力者ヲ常雇スル所ニアリテモ員數ノ如キハ固ヨリ一定セス、往々一管理署ノ管轄内ニ數百人ヲ置キ國有林内ニ住家ヲ貸與シ家族ト俱ニ居住セシメ恰モ小殖民地ノ如キ觀アル所アリ、而シテ其勞力者ノ採用、取締、取扱、扶助ノ方法等ハ地方ノ狀況ニ依リ異ナル所アリト雖モ今其要領ヲ摘記スレハ左ノ如シ、

〔勞力者ノ種類及採用等〕勞力者ハ普通之ヲ區別シテ總頭、小頭、及人夫トシ、而シテ總頭ハ各專門ノ業務ニ就キ一人宛、小頭ハ其下ニ屬スル人夫ノ數ニ依リ數人アリ、故ニ總頭ト言フモ一管理署ニ伐木事業總頭、運材事業總頭及仕成シ事業總頭等數人ノ總頭ヲ置ク處アリ、總頭及小頭ノ職分ハ主トシテ人夫ヲ監督シ且俱ニ勞働ヲ爲スニアリ、故ニ此者等ハ人夫中ニ於テ技術拔群、品行方正ニシテ衆人ノ模範タルヘキモノヲ擢用セリ、人夫ニハ亦左ノ區別アリ、

一 常雇人夫

二 試用入夫

三 臨時人夫

四 プロビシヨニスト

常雇人夫トハ人夫中ノ優等ナルモノニシテ常時管理署ニ雇使スル者、試用入夫トハ勞力者ノ技術品行

等ヲ試ミンカ爲メ假リニ使用スル者ニシテ好成績ノモノハ須要ニ從ヒ常雇人夫又ハ臨時人夫ニ採用セラル、者、臨時人夫ハ一時或ハ一定期間事業上ノ都合ニ依リ雇使スル者、プロビジョニストトハ勞力者負傷等ノ爲メ身体不具トナリ通常ノ仕事ニ從事スルコト能ハサルモノニ對シ夫々適當ナル仕事ヲ與ヘ勞働セシムル人夫ヲ云フ、凡ノ勞力者ニ採用スルニハ年齢十八年以上身體強健林業上必要ナル勞力ノ熟練アリテ且品行上ニ非難ナキ者ヲ撰擇シ先ツ試用入夫トシテ雇入レ然ル後其成績ニ依リテ常用又ハ臨時人夫ニ採用スルヤ否ヤヲ定ムルモノトス、

〔勞力者ノ權利、恩典并ニ義務〕勞力者カ勞働ノ報酬トシテ受クヘキ賃金ハ總頭ハ月額賃金ニシテ小頭及人夫ハ日賃ナリトス、而シテ受負事業ニアリテハ受負人ト管理者トノ間ニ結ヒタル契約ニ依リ受負金額ヲ受負人ニ仕拂フト雖モ受負人ヨリ勞力者ニ仕拂フ賃金ノ高ニ付テハ管理者ノ定メタル額ヨリ低キコトヲ許サス、彼國ニアリテハ事業受負人ノ使用スル勞力者ト雖モ管理署ノ勞力者ヲ使用スルカ或ハ場合ニ依リ受負人自ラ勞力者ヲ雇ヒ之ヲ補助勞力者トシテ使用セントスルトキハ管理署ニテ勞力者タルコトヲ認定シタルモノナラサルヘカラス、加之管理署ハ勞力者ノ賃金并ニ受負人ト勞力者トノ間ニ結フ契約事項ニ就テモ必要ナル干渉ヲナシテ勞力者ヲ保護セリ、是勞力者ノ利益ノミナラス事業上ノ利益ニシテ受負事業ト雖モ官行ノ自營事業ト其成績ニ於テ大ニ劣ル所アルヲ見サル所以ナランカ、又政府カ勞力者ニ與フル所ノ恩典ノ重ナルモノハ

一 畑地、菜園及住家ヲ低價ナル借料ニテ貸與ス

二 自用ニ必要ナル林中放牧ハ林產物價表ノ低價ニテ之ヲ許ス

三 自用ニ必要ナル薪炭杖及落葉ハ林產物價表ノ低價ニテ之ヲ賣拂フ

是ナリ、其他勞力者ノ取扱ニ最モ注意セルコトハ政府ニテ常用雇人夫ヲ解雇セントスルトキハ半ケ年以前ニ其事由ヲ内命シ、試用入夫ト雖モ之ヲ解雇セントセハ二週間以前ニ申渡ヲナサ、ルヘカラス、是勞力者ニ取リテハ異常ノ便宜ニシテ彼等カ心ヲ安シテ専心就業スル所以是ニ存スルナリ、若シ又勞力者自己ノ都合ニ依リ退役セントスルトキハ總頭ハ三ケ月以前小頭以下人夫ハ二週間前ニ管理署ニ申立ツルノ義務アリ、是不意ニ勞力者ニ缺員ヲ生スルトキハ事業ノ進捗ヲ阻止スルノ恐レアレハナリ、

常雇人夫及試用入夫ハ勞力者疾病扶助會ニ加入シ其會則ニ依リ會費ヲ納ムルノ義務アリ之後ニ述フル所ノ勞力者及其家族ノ疾病ノ際給與ヲ受クル疾病扶助金其他疾病治療上必要ナル費用ノ一部分ニ供セラルヘキモノナリ、勞力者カ會費トシテ出金スヘキ金額ハ時ト所トニ依リ一定セスト雖モ左ニ現今維也納森林及國有地監督局管轄内ウエルツツーストク外十個事業區ニ適用セラル、モノヲ掲ケテ參考ニ供ス、

等級

賃

金

每月ノ會費

- 第一級 月賃五十「グルデン」以上 一「グルデン」三十二「クロエツエル」
- 第二級 全 四十乃至五十「グルデン」未滿 一「グルデン」十「クロエツエル」
- 第三級 全 三十五乃至四十「グルデン」未滿 九十九「クロエツエル」
- 第四級 全 三十五「グルデン」未滿 八十九「クロエツエル」
- 第五級 日賃二「グルデン」二十「クロエツエル」以下 一「グルデン」六十一「クロエツエル」
- 第六級 全 一「グルデン」二十「クロエツエル」以上 九十九「クロエツエル」
- 第七級 全 一「グルデン」二十「クロエツエル」未滿 八十九「クロエツエル」
- 第八級 全 九十乃至九十九「クロエツエル」 七十九「クロエツエル」
- 第九級 全 八十九「クロエツエル」以下 六十九「クロエツエル」

〔勞力者疾病扶助〕勞力者疾病ニ罹リタルトキハ勞力者疾病扶助會ニ於テ夫々扶助ノ手續ヲ爲ス、固ヨリ疾病ノ原因ハ故意、放蕩、亂暴等ノ不正當ナラサル場合ニ限ルハ勿論ナリ、疾病扶助ノ方法ハ左ノ如シ、

- 一 現役中ノ勞力者ニハ疾病扶助金ヲ給與ス
但總頭ハ月額賃金ニシテ疾病中ト雖モ賃金ヲ受クルヲ以テ疾病扶助金ヲ給セス
- 二 管理署所屬ノ林醫ヲシテ無料ニテ治療セシメ且治療上必要ナル物品ヲ支給ス

三 勞力者ノ妻ハ管理署所屬ノ產婆ヲシテ看護セシメ或ハ監督局ノ命令ニ依リ一定ノ補助金ヲ給與ス
四 勞力者死亡シタルトキハ其遺族ニ葬式費ヲ給與ス

此(一)ノ疾病扶助金ヲ受クルハ常用人夫プロビチヨニスト及試用入夫ノミニシテ(二)ノ無料治療ハ勞力者一般及其妻并ニ十四才以下ノ子ニモ及フモノナリ、若シ自家ニテ治療シ難キ事情アルカ又ハ病狀重体ニシテ普通病院ニ入院治療セシムルノ必要アルトキハ患者ヲ扶助會ノ費用ヲ以テ入院セシム、此場合ニ於テモ疾病扶助金ハ給與スルハ勿論ナリ、但勞力者家族ヲ有シ法律上其家族ヲ扶助スルノ義務ヲ有スルトキハ其金額ノ半額ハ之ヲ家族ニ給スルモノトセリ、疾病扶助金ノ額モ時ト所ニヨリテ一様ナラス亦維也納森林及國有地監督局ノ制定ニ係ル現行ノモノヲ掲クレハ左ノ如シ

- 等 級(扶助會會費ノ等級ニ於ケル) 扶助金ノ日額
- 第五級 七十「クロエツエル」
- 第六級 六十五「クロエツエル」
- 第七級 六十「クロエツエル」
- 第八級 五十五「クロエツエル」
- 第九級 五十「クロエツエル」

此疾病扶助金ノ給與ノ期限ハ二ヶ月間ニシテ若シ二ヶ月ヲ超ユルトキハ扶助金ノ金額ヲ半減シ、三ヶ月

月ヲ超ユルトキハ全ク之ヲ給セス、然レトモ勞力者ノ疾病其他ノ不幸ニシテ事情ノ憫諒スヘキモノアルトキハ扶助會ノ扶助ノ外、政府ハ特ニ國庫ノ費用(國有及基本財産ノ經費豫算ニ慈善事業ニ關スル費用アリ)ヲ以テ保護金ヲ給與スルコトアリ、又扶助會ニ於テ特ニ養老扶助財産ナルモノヲ設ケテ老朽勞力者ヲ扶助シテ彼等ノ終リヲ全フセシムルノ方法アリ、

〔勞力者ノ處罰〕勞力者ヲ保護扶助スルノ厚キコト斯ノ如シ、然レトモ之カ不良不正ノ行爲又ハ犯罪等ニ對シテハ行政上之ヲ處罰スルノ方法甚タ周密ナリトス、勞力者ノ處罰モ亦諭示、譴責、秩序罰及懲戒罰ノ區別アリ、諭示トハ飲酒ニ耽リ博奕ヲ好ミ債ヲ負フ等其他不品行ノ所爲アルトキ、或ハ仕事ヲ怠リ或ハ同輩ノ交際圓滑ナラスシテ指折セラル、カ、或ハ家政治マラサルカ或ハ不満足若クハ不平ノ行狀アル等ノ場合ニ於テ管理署長ハ懇ロニ之ヲ訓シ其悛心ヲ促スニアリ、譴責トハ諭示ヲ試ミタルモ悛心ノ實ナキ勞力者ニ對シ管理署長ハ森林保護吏及多數ノ同輩ノ面前ニ於テ公ケニ之ヲ譴責シ尙悛心セサルトキハ懲戒罪ニ付スルコトヲ告ケ人名帳ト稱スル帳簿ニ其事由ヲ記入スルニアリ、秩序罰トハ怠惰、疎懈、不平等ヨリ起ル輕易ノ違反、例令ハ規定ニ違ヒ樹木ヲ高ク伐リ或ハ器具ニ小損害ヲ與ヘタルトキ或ハ後生樹及新植樹ヲ故意ニアラスシテ損害シタル場合等ニ於テ其損害ヲ賠償セシメ且罰金ヲ課スルモノナリ、若シ其被害者不分明ナルトキハ其組合一同ニ損害賠償及罰金ノ責ヲ負ハシメ且此場合ニ於テ受負事業ナルトキハ受負人ヲシテ其責ヲ負ハシムルモノナリ、而シテ其罰金ハ政府又

ハ基本財産若クハ其利子ニ物質的ノ損害ヲ與ヘタル場合ノ外ハ之ヲ勞力者扶助會ノ資金ニ編入スル懲戒罰ハ譴責ヲ受クルモ尙悛心セス或ハ秩序罰ヲ再三受ケテ尙懲リサル者或ハ業務上ノ重違反ヲ犯シタル者ヲ罰スルニアリ其方法ニ左ノ三別アリ、

- 一 他ノ監督局管轄ヘ轉勤セシムルコト
- 二 一時又ハ臨時ニ賃金ヲ低下スルコト
- 三 放逐スルコト

此(三)ノ放逐ハ利慾若クハ風俗ヲ害スル犯罪ヲ犯シタル者及犯罪ニ依リテ三ヶ月以上ノ監視ニ付セラレタル場合ノ外之ヲ行フコトナシ、(一)及(二)ハ違反ノ輕重ト情狀ニ依リテ之ヲ定ムルモノトス、〔勞力者扶助會ノ性質及經濟〕此會ハ政府監督ノ許ニ立ツ勞力者ノ組合ニシテ勞力者相互ニ疾病其他ノ不幸ヲ救濟シ及勞力者養老ノ補助ヲナスニアリ、此會ノ收入ハ勞力者ノ會費及政府ノ慈善的保護金ヨリ成リ、其會費ノ總額ト保護金トハ大約同額ナルヲ目途トス、故ニ疾病扶助費ト會費トノ權衡ヲ得サルトキハ會費又ハ疾病扶助金ヲ變更増減ス、則チ會費ノ總額カ疾病扶助ノ爲メニ使用シタル費用ノ半額ニ達セサルコト三ヶ年續クトキハ會費ヲ比例的ニ増加シテ其費用ノ半額ニ達セシメ、之ニ反シ若シ會費ノ總額カ費用ノ半額ニ超過スルコト三ヶ年連續スルトキハ勞力者ノ會費ヲ比例的ニ減スルカ或ハ疾病扶助金ヲ増加スルカ若クハ剩餘金ヲ養老扶助ノ特別基金ニ編入スルカハ其時宜ニ依リテ之ヲ定メ政

府ノ認可ヲ得テ實行スルモノトス、又此扶助會ハ慈善的事業ニ屬スルモノナレハ世ノ慈善家ノ寄附金ヲモ受クルコトヲ禁セス、若シ寄附金ノアル場合ニハ成ヘク寄附者ノ意志ニ從ヒ之ヲ使用スルハ勿論ノコトナリトス、

林業勞力者ニ常雇ノモノヲ置クノ可否ハ澳國及匈牙利國ニ於テモ一時森林界ノ一問題トナリシコトアリシモ、理論ハ兎ニ角實際ノ經驗上常雇人夫ヲ使用スルニアラサレハ林業上損失多キノミナラス到底實着ナル林業ヲ營ムコト能ハサルコトヲ證明シ、今ヤ殆ント其可否ヲ議スルモノナキニ至レリト云ヘリ、

我國ニ於テモ譬ヒ澳國ノ如ク林業ノ範圍ヲ林産加工又ハ製造ニ至ル迄之ヲ擴メサルモ、伐木及運搬(山出シ)ハ林業ノ一部分トシ森林家ノ施設ニ賴ラシムルノ方針ニ導カスンバ森林ノ改良ハ言フ迄モナク林業ノ進歩ハ甚タ覺東ナキコトタルハ、恐クハ林業ニ從事スル者ノ皆認ムル所ナルヘシ、果シテ然ラハ森林所有者タル者カ熟練ナル林業勞力者ヲ養成シ且之ヲ保護スルノ必要ナルコトハ論ヲ俟タサル所ニシテ其設備方法ハ未タ俄カニ彼レニ倣フノ困難ナル事情モアルヘシト雖モ、我國ノ舊制特ニ木會青森、秋田地方ノ林業勞力者ノ取扱方法ト現時ノ狀況トニ鑑ミ適當ノ方法ヲ案出スルコトハ、蓋シ我林業ノ進歩發達上緊急ノ要務ナリト信スルナリ、

第四節 森林收入ノ徵收ニ郵便貯金局ノ交通手形ヲ利用スルコト

國有及基本林ノ會計ニ關スル事務上ニ一大便宜ヲ與ヘタルハ、此郵便貯金局ノ交通手形ヲ森林收入ノ徵收ニ用ヘタルコト是ナリ、官制及職務章程ニ依レハ澳國ニ於テモ現金ノ取扱ハ特別ニ置カレタル金庫并ニ官署(收稅署製鹽金庫等)ニ於テ之ヲ取扱フト雖モ一般ノ收入事務ハ森林及國有地管理署ノ掌ル所ニシテ我國現今ノ制度ト稍々似タリ、此制度ハ當事者ニ種々ナル困難ヲ與ヘ殊ニ當事者ノ住所ト金庫ノ所在地ト遠隔スル場合ニアリテハ頗ル不便ヲ極メ、此當事者ノ不利不便ハ間接ニ賣拂產物ノ價格ニ影響シ森林ノ收入ヲ減殺シ居ルコトハ彼國ニ於テモ少シク林務ニ從事スル者ノ皆認ムル所、之ヲ小ニシテハ森林ノ收入ヲ減シ、之ヲ大ニシテハ林業ノ進歩發達ヲ阻止セラレシコト尠シトセサル所ナリ、澳國ニテハ百万方此制度ニ付改善ヲ企圖セシハ已ニ久シキ以前ヨリノコトナリトス、然レトモ好成績ヲ呈シタルハ此森林收入ニ郵便貯金局ノ交通手形ヲ利用シタルコトナリトス、茲ニ少シク其沿革ヲ叙述セン此方法ハ千八百八十七年グムンデン森林及國有地監督局ヨリノ建議ニ基ツキ關係官廳ノ同意ヲ得テ千八百九十一年一月一日ヨリグムンデン森林及國有地監督局ノ管轄内ナルサルツカムメルグートノ國有林及上澳國ノ宗教基本林ニ就キ實施ヲ試ミタリ、素ヨリ此新法ハ從來ノ制度ト並ヒ行ハシメ其採擇ハ一ニ當事者ノ意ニ任セタリキ、然ルニ其新法ニ依リ納入シタル森林收入ノ金額ハ次ノ如ク

サルツカンメルグート國有林

上澳國宗教基本林

一八九一年

一八九〇五八

一一〇六二

一八九二年	二四三、四七三、	一一、〇九八、
一八九三年	三〇九、七二二、	一五、九七八、
一八九四年	三三七、九九一、	一九、〇六二、
一八九五年	四四六、三八二、	二八、四二〇、

追年増加シ、新法ハ森林收入徴收法改善ノ目的ニ適スルコトヲ證明シタリ、茲ニ於テ千八百九十六年一月一日ヨリ此制度ヲ全國ニ施行セシニ果シテ各州トモ新法ニ依リ續々納金シ其第一年ニ於テ已ニ全收入金ノ過半額ハ交通手形ニテ納金シ殊ニインスブルク監督局管轄内ノ如キハ全收入金ノ八十八「プロチエント」ハ交通手形ニ依ルニ至レリ、而シテ千八百九十七年以來モ追年新法ニ依ル納金ヲ増加シ今ヤ殆ント從來ノ金庫ニ納入スルノ制度ハ事實上ニ於テ廢止セラレタル如キ觀アリ、今此新法ノ要領ヲ左ニ摘記シテ參考ニ資セントス、

〔交通手形ノ説明〕交通手形ハエムフアングシャイン、エルラークシャイン及クーポイントヨリ成リエムフアングシャインハ當事者カ郵便貯金局ヘ納金シタル受領書トナリ又同時ニ管理署長カ當事者ニ賣拂物件ノ引渡スコトノ命令トナルモノナリ、依テ之ヲ受取切手ト譯シ、エルラークシャインハ郵便貯金局ヘ納金濟ノ上郵便貯金局ヨリ之ヲ森林及國有地監督局ニ送付シ、監督局ハ之ニ依リテ收入上ノ勘定ヲ爲ス用ニ供ス、依テ之ヲ假リニ勘定切手ト譯シ、又クーポイントハ受取切手ノ左方ニ付着スル狭小ノ紙

片ニシテ管理署長カ受取切手及勘定切手ヲ當事者ニ交付スル際ニクーポイント之ヲ切離シテ必要ナル記事ヲナシテ自己ノ手許ニ保存シ備忘ニ供フルモノナリ、依テ之ヲ備忘切手ト譯セリ、讀者ノ了解ヲ容易ナラシメンカ爲メ交通切手ノ略圖ヲ左ニ示ス、

交通切手 表 面

備忘切手 材種何材且金何程	受取切手 金參百圓 則 300Yen	勘定切手 300Yen
買受人姓名	郵便印	郵便印
年月日	番號 1	番號 1

<p>載ス 賣拂物件引渡ノ命令ヲ記 署印理 森林及國有地管理局長 官 氏 名 年 月 日</p>	<p>特賣、競買又ハ封替競買 收入ノ項目 林產物買受人ノ 官 氏 名</p>
--	--

〔交通手形ノ使用手續〕交通手形ハ郵便貯金局ニテ之ヲ製シ森林及國有地監督局ニ送付シ、監督局ハ必要ニ應シ更ニ之ヲ各管理署ニ分配送付ス、管理署ニテ此交通手形ヲ使用スルニハ先ツ各切手ノ一端ニ番號及年月日ヲ記入シ且受取切手ノ裏面ニハ管理者ノ官氏名ヲ記シテ官署印ヲ押捺ス、森林產物ヲ特賣シタル場合ニ此交通手形ヲ使用スルハ左ノ順序ニ依ル、

森林及國有地管理署長ハ

- 一 受取切手ノ表面ニハ其賣拂代金ヲ數字ト文字トヲ以テ記シ其裏面ニハ印刷欄ヲ利用シテ材量引渡ノ命令ヲ記入ス故ニ此場合ハ一般ノ規程ニ從ヒ材量引渡命令書ヲ調製スルノ必要ナシ
- 二 勘定切手ノ表面ニハ只數字ノミヲ以テ賣渡代價ヲ記シ其裏面ニハ買受人ノ姓名、特賣ト云フコト及收入ノ項目ヲ記入ス
- 三 切離シテ殘リタル備忘切手ニハ金員、買受人ノ姓名及物件ノ名稱等ヲ記入シテ管理署ニ保存ス
- 四 以上ノ手續ヲ終ヘテ受取切手及勘定切手ヲ接續シタル儘之ヲ林產物買受人ニ交付ス

林產物買受人ハ

- 五 管理署長ヨリ受取リタル交通手形ニ現金ヲ添ヘテ之ヲ指定ノ期間ニ郵便貯金局ニ差出シテ納金ス
- 六 納金ヲ領收シ受取及勘定ノ両切手ニ郵便印ヲ押捺シ受取切手ハ直チニ納金ノ證トシテ納金人則チ林產物買受人ニ交付ス
- 七 勘定切手ハ之ヲ取纏メ規定ノ時期毎ニ森林及國有地監督局ニ送付ス

林產物買受人ハ

八 郵便貯金局ヨリ交付ヲ受ケタル受取切手ヲ森林監守ニ示シ此切手ト引換ニ買受林産物ノ引渡ヲ受ク

森林監守ハ

九 林産物ヲ引渡シタルトキハ材料引渡ノ證トシテ受取切手ヲ管理署長ニ差出ス
管理署長ハ

十 此受取切手ニ依リ代金納済ト材量引渡トヲ了知シ必要ナル記帳ヲナシテ之ヲ保存ス

封書競賣及競賣ニ依リ多量ノ林産物ヲ賣拂ヒタル場合ニ於テモ大体ノ手續ハ特賣ノ場合ト同一ナレトモ其異ナル所ハ次ノ掲クル諸點ナリトス、

一 受取切手及勘定切手ノ表面ニ金額ヲ記入スルコトハ林産物ノ買受人ニ任シ且受取切手ノ裏面ニ印刷シアル材量引受命令欄ヲ消抹シ之ヲ買受人ニ交付ス尤モ勘定切手ノ裏面ニ買受人ノ姓名競賣又ハ封書競賣ト云フコト并ニ收入ノ項目ヲ記スルコトハ特賣ノ場合ト異ナラス

二 郵便貯金局ヨリ納金人ニ交付シタル受取切手ハ直チニ之ヲ管理署ニ返納セシムルナリ

三 賣渡物件ノ引渡命令及引渡ハ一般ノ規程ニ依リ之ヲ行フ
是彼國ニ於テハ競賣ノ林産物ハ普通多額ノ代金ナルヲ以テ之ヲ一時ニ皆納スル場合少ナク、而シテ賣拂物件ノ引渡ハ代金皆納ヲ俟ツテ之ヲ施行スル規定ナルニ依リ前記ノ如ク交通手形ノ使用法ニ多少ノ

特例ヲ設ケサルヲ得サルニ至リシナリ、故ニ若シ買受人ニシテ代金ヲ皆納スルカ若クハ擔保品ヲ提供スルトキハ特賣ノ場合ト同一ノ手續ヲ履行シテ毫モ障碍アルヲ見ス、

〔森林收入ヲ金庫ニ納入スルコト〕郵便貯金局ニテ徵收シタル森林收入ヲ政府ノ金庫ニ納ムルニハ森林及國有地監督局ハ毎月ノ終ニ豫テ郵便貯金局ヨリ受取リアル切手簿（郵便貯金局ニテ一定ノ式ニ印刷シタル切手用紙ノ帳簿ナリ）ヨリ一葉ノ切手ヲ取去リ之ニ郵便貯金局ヨリ借トナルヘキ金額（則チ郵便貯金局ノ手数料）ヲ引去リ殘額ヲ記入シ其裏面ニ郵便貯金局ノ名及監督局長官氏名ヲ手記シテ之ヲ本金庫ニ送付ス、

〔郵便貯金局ノ手数料及徵收金ノ利子〕森林收入ヲ徵收スルニ郵便交通手形ヲ使用スルニ付郵便貯金局ヘ仕拂フヘキ手数料ニハ左ノ二種アリ、

- 一 各勘定取扱ニ對シニ「クロエツエル」宛ノ手数料、則チ之ヲ取扱手数料ト名ク
- 二 勘定の借則チ徵收シタル森林收入ニシテ郵便貯金局カ國庫ニ對シ勘定上借リトナル金ナリ）ニ對シテハ三千「グルデン」未滿ハ千「グルデン」ニ付四分ノ一「グルデン」、三千「グルデン」以上ハ千「グルデン」ニ付八分ノ一「グルデン」ノ手数料、此手数料ヲ比例手数料ト名ク

此二種ノ手数料ハ郵便貯金局ノ收入トナルヘキモノナレトモ取扱手数料ハ森林及國有地ノ經費豫算ニ組ミ森林事業ノ支出トナルヘキモノニシテ、比例手数料ハ郵便貯金局カ金庫ニ代テ徵收ノ手續ヲナシ

タルモノナルニ由リ金庫ノ支出トナルヘキモノナリ、收入金ノ利子ハ森林及國有地監督局ニ於テ之ヲ計算シテ金庫ニ通知ス此利子ハ金庫ノ收入トナルヘキモノニシテ郵便貯金局ノ^{ラフストシユウ}勘定の借ニ組込マレ、モノナリ。

第三章 森林教育ノ機關

緒言

澳國ニテハ森林教育ノ發達シタルハ實ニ近代ノコトニシテ彼ノ有名ナル維也納府高^{ハツホシユニ}等^ニ農^ニ林^ニ學^ニ校^ニニ林學科ヲ創設セシハ、今ヲ去ルコト二十六年前即チ千八百七十五年ニシテ彼ノ千八百七十三年ノ林政改革ノ當時ノコトナリ、然レトモ森林教育ノ方針ハ既ニ千八百四十年ノ交ニ於テ確立シ、爾來其方針ニ據リ着々トシテ進ミ來リ今日アルニ至レリ、政府ハ千八百七十九年六月九日農礦務省令第二百七十四號ヲ以テ林業教育ニ關シ綱領ヲ發表セリ、之ニ依レハ森林ノ事業ト直接ノ關係ヲ有スル森林教育ノ機關ハ之ヲ農礦務省(當時ノ農礦務省ハ現今ノ農務省ナリ)ノ管轄トナシ、唯教育上ノ統一ニ關スル二三ノ事項ニ就キ文部省ト協定スルノミ、而シテ若シ大學若クハ工業學校ニ於テ森林教育ヲ爲ス場合ハ文部省ハ豫メ農礦務省ト協定スルヲ要スト定メタリ、是澳國政府カ森林ノ教育ヲシテ成ルヘク實際的ナラシメ、主トシテ有用ノ實業家ヲ養成セントスルノ意ニ出テタル所ニシテ澳國森林教育界ノ現狀ヲ觀察スルニ、高トナク卑トナク將タ細トナク大トナク此方針ニ據ラサルハナシ、元來林學ハ所謂應用學ニ屬スルモノナレハ、其教育ハ亦宜シク實際的ナラサルヘカラサルハ言フ俟タサル所ニシテ獨佛伊等各國亦其方針ヲ採レルコトハ揆ヲ一ニスルモノ、如シ、然リト雖モ其實際ノ狀況ヲ觀ルニ其程度ニ於テ多少ノ差アルヲ免カレス、而シテ其程度ノ如何ハ各國ノ林學進步ノ程度、森林家需用ノ緩急及

林業ノ現状等ニ鑑ミ之ヲ定メサルヘカラス、故ニ各國森林教育ノ現状ヲ觀テ之ヲ直チニ可否スルハ容易ノコトニアラス、然レトモ軌近澳國林業ノ進歩ノ顯著ナルヲ以テ見レハ其教育ノ制度ハ新開國（林業上ヨリ言フ）ニ於テハ倣フヘキ所ナシトセンヤ、澳國ノ森林學校ハ其教育ノ程度及人物養成ノ目的ニ應ジ、之ヲ區別シテ、高等教育、中等教育及下等教育ノ三トナスヲ得ヘシ、而シテ之ニ屬スル各森林學校ノ名稱ハ左ノ如シ、

森林教育ノ機關

一 高等教育ノ學校（官立學校）

維也納府高等農林學校

下澳國

二 中等教育ノ學校（私立學校）

ワイツスキルヘン高等森林學校

メーレン州

ワイツスワツツセル高等森林學校

ベーメン州

レンムベルク地方森林學校

ガリチエン州

ブルツク、アドムール森林學校

スタイエルマルク州

三 下等教育ノ學校

(一) 私立學校

アツクスバツハ造林學校

下澳國

ハール造林學校

チロール州

グツスウエルク造林學校

スタイエルマルク州

イドリヤ造林學校

クライン州

ボレチヨ一造林學校

ガリチエン州

ピセツク造林學校

ベーメン州

ワイツスワツツセル造林學校

ベーメン州

(二) 官立學校

ハール、森林保護吏學校

チロール州

グツスウエルク森林保護吏學校

スタイエルマルク州

イドリヤ森林保護吏學校

クライン州

ボレチヨ一森林保護吏學校

ガリチエン州

四 其他林學ヲ講スル學校

維也納府高等工業學校

下澳國

フラーク高等工業學校

ベーメン州

第一節 高等教育ノ學校

維也納府高等農林學校ハ、奧國ニ於ケル唯一ノ森林ニ關スル高等教育ノ機關ナリトス、此學校ハ千八百七十二年ニ設立セラレ、専ラ農學ヲ教授セシカ、千八百七十五年ニ至リマリヤブルン森林專門學校ヲ廢シテ此學校ニ林學科ヲ開設セリ、是奧國ニテ林學高等教育ノ機關ヲ設置シタル嚆矢ナリトス、維也納府高等農林學校ハ官立ニシテ（千八百七十七年迄ハ農務省ノ所屬ナリシカ同年ニ至リ其所管ヲ文部省ニ移セリ、然レドモ組織ノ變更、教授ノ任命及其位置ノ變更ニ就テハ農務省ニ豫メ協定スルヲ要ス）其教育上ノ目的トスル所ハ

- 一 大ナル土地及國有地ヲ管理施業スル爲メニ要スル教育ヲ爲スコト、
 - 二 農學及林學ノ範圍内ニ於ケル學理ノ研究ヲナスコト、
 - 三 政治學及法律學ヲ研究スル學生ニ農林業ニ關シ必要ナル知識ヲ得セシムルコト、
- 是ナリ、學生ニハ正員及員外生ノ別アリ、正員タラントスル者ハ奧國ノ中學校又ハ高等實科學校ノ卒業生ナルカ若クハ之ト同等ノ專門學校ノ卒業生ナラサルヘカラス、若シ又他日高等農林學校卒業ノ後奧國ノ森林官タラント欲スルモノハ入學ノ前必ス一ケ年間林業ノ實務ニ從事セサルヘカラス、員外生ハ別ニ資格アルヲ要セス高等教育ノ講義ヲ理解スルノ學力アルヲ以テ足レリトス、學科ヲ分ツテ農學科、

林學科及拓殖科ハ、拓殖科トハ農業、水理、森林、農林的工業器械等ニ關スル學術ヲ教ユル學科ヲ云フ、ノ三トシ、學年ハ何レモ三ケ年ニシテ之ヲ六學期ニ分ツ、林學科ノ學科表ハ左ノ如シ、

學科	學期					
	第一學期	第二學期	第三學期	第四學期	第五學期	第六學期
△數學×	四					
△物理及器械工學×	四	四				
△無機及有機化學×	四	四				
△植物解剖及生理學×	三	二				
植物外良及組織學	三					
森林植物學	三	二				
普通及特別動物學	三	三				
△礦物及地質學×	三	三				
有用礦物及岩石學ノ記載法及區別法	二	一				
應用地質學	二					
折解幾何學初步	三					

狩獵學	木材識別法	樹病學	寫真測量
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○

實習及實檢

學科	學期	第一期	第二期	第三期	第四期	第五期	第六期
數學復習	○	○	○	○	○	○	○
化學實習	○	○	○	○	○	○	○
植物解剖及生理實檢	○	○	○	○	○	○	○
植物外貌及組織實檢	○	○	○	○	○	○	○
測量實習	○	○	○	○	○	○	○
折解幾何實習	○	○	○	○	○	○	○
△製圖	○	○	○	○	○	○	○
森林土木實習	○	○	○	○	○	○	○

造林及利用實習	○	○	○	○	○	○	○
造林實檢	○	○	○	○	○	○	○
保護實習	○	○	○	○	○	○	○
測樹實習	○	○	○	○	○	○	○
經理實習	○	○	○	○	○	○	○
林價算法及較利實習	○	○	○	○	○	○	○
木材試檢ニ顯微鏡用法	○	○	○	○	○	○	○
測量器械使用法	○	○	○	○	○	○	○
事務取扱實習	○	○	○	○	○	○	○
氣象實習	○	○	○	○	○	○	○
經濟學實習	○	○	○	○	○	○	○

備考

- (一) △ノ記號ヲ付シアルモノハ嚴正試験ヲ爲シ、×ノ記號アルハ森林學術的國家試験ヲナス學科ナリ
- (二) ○ノ記號アル學件ハ政府ノ森林官吏トナラント欲スル者ハ特ニ試験ヲ受ケ且良好ノ成績ヲ

以テ及第スルヲ要ス

(三) ○ノ記號ハ實習又ハ實檢ヲ行フ學期ナリ

試驗ニニアリ一ハ此學校ニテ學生ノ受クヘキモノニテ之ヲ嚴正試驗ト稱シ、一ハ高等農林學校又ハ之ト同程度ノ學校ニ於テ教育ヲ受ケタル者ニ就キ農林業上ノ學術的智識ヲ有スルコトヲ證明スルモノニシテ之ヲ森林學術的國家試驗(森林官ノ國家試驗ハ別ニ農務省ニ於テ行ヒ森林家ノ國家試驗ハ別ニ地方廳ニ於テ行フ、次章ニ詳記スル所アリ)ト言フ、此森林學術的國家試驗ハ公開ニシテ其試驗委員ハ官吏及教授ヨリ組織シ文部大臣ノ任命スル處ナリ、嚴重試驗ト國家試驗トハ全ク性質ヲ異ニシテ甲ハ所謂學校的試驗ナレトモ乙ハ國家ガ森林家タルコトヲ證明スルノ試驗ナリトス、然レトモ嚴正試驗ノ及第者ニ對シテハ當分ノ間、國家試驗ヲ行ハサルコトヲ制定セリ、

熟々觀察スルニ高等農林學校ニテ養生シタル森林技術者ハ此學校ガ第一ノ目的トスル大ナル土地及國有地ヲ管理施業スル農林事業ニ從事スル者最モ多ク、特ニ町村林、教會林、教會組合林及一般ノ私有林ノ業務ニ從事スル者其多數ヲ占メ政府ノ森林官タルモノハ其一小部分ニ過キス、是澳國現時ノ林業ノ趨勢上自然ノ數ナルカ如シト雖モ又高等農林學校ガ主トシテ實際的有用ノ人物ヲ養生スルニ營々トシテ是努メタルノ結果ナリト言ハサルヲ得ス、殊ニ拓殖科ノ如キハ農業、水理、森林及農林の工業等ニ關スル技術ニ兼テ通セシムルノ學科ナルヲ以テ多數各種ノ技術者ヲ雇使スルコト能ハサル森林所有

者及其他ノ事業者ノ爲メニ便宜ヲ與ヘ頗ル好結果ヲ得タルモノ、如シ、森林教育家ノ用意ノ周到ナルハ感實スヘキナリ、

第二節 中等教育ノ學校

森林ノ中等教育ノ機關ニ屬スル學校ハ政府ニ於テ創設シタルモノニアラス、森林會又ハ一私人ノ設立ニ係リ其目的ハ主トシテ民間ノ林業ニ從事スルニ適當ナル森林技術者ヲ養生スルニアリ、然レトモ農務省ハ一般林業發達ノ爲メ此種ノ學校ヲ保護監督シ且種々ノ特典ヲ與ヘリ、今其重ナルモノヲ列記スレハ左ノ如シ、

- 一 卒業生ハ森林保護吏及森林助手ニ無試驗ニテ採用スルコト
 - 二 卒業生年齢二十二年ニ達シ且三ケ年間實業ニ從事シタル者ハ森林家國家試驗ヲ受クルコトヲ得
 - 三 秀逸ナル成績ヲ以テ卒業シタル者ニシテ中學校若クハ實科學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ農務省ノ特別ノ依囑ニ依リ森林家國家試驗ヲ受ルコトヲ得
 - 四 此學校ヘ入學前一ケ年間、卒業後二ケ年間實業ニ從事シ森林家國家試驗ヲ受ケ及第(特ニ砂防工術ノ試驗ニ好結果ヲ得テ)シタル者ハ農務省ニ於テ施行スル森林官國家試驗ヲ受クルコトヲ得
 - 五 之等學校ノ學生ハ兵役法第二十一條ニ依リ一年志願兵及之ニ附隨スル特典ヲ受ク
- 是ニ由テ之ヲ觀レハ之等學校ノ卒業生ト雖モ自己ノ志望ト技倆ノ如何ニ由テハ、或ハ森林家國家試驗

ヲ受ケテ獨立シタル森林家ノ資格ヲ得、或ハ森林官國家試驗ヲ受ケテ澳國ノ森林官トナリ得ルコト、
 維也納高等農林學校ノ卒業生ト異ナル所ナシ、
 此種ニ屬スル學校ハ四個アリテ(其名稱等ハ已ニ前ニ掲ケタリ)其各校ノ來歴、入學資格、學科程度、
 及學期等ハ大同小異ナルヲ以テ茲ニワイツスキルヘシノ高等森林學校ニ就キ其要概ヲ記セントス、
 ワイツスキルヘシノ高等森林學校ハ千八百五十二年メーレン及シユレジイーンノ森林會ニテメーラウ
 スレーニテ創立シ千八百六十七年ライレンブルクニ移シ千八百九十六年ニ至リ再ヒ今ノワイツスキル
 ヘシニ移轉シ高等學校ノ組織トナシ其規則ハ農務省ノ認可ヲ受ケタリ、此學校ヘ入學セントスル者ハ
 左ノ各項ノ資格アルヲ要ス、

- 一 年齡十六年以上ニ達シタル者
 - 二 區醫ヨリ身體健康ノ證明アル者
 - 三 中學校、實科學校或ハ實科中學校ニ於テ第四級ヲ卒業シ上級ニ昇ル資格アル者
 - 四 好良ノ森林家ノ下ニ於テ一ケ年間實業ニ從事シタル者
 - 五 指拆スヘキ行爲ナキ者
 - 六 父或ハ後見人入學ニ同意シ且在學中學資ヲ得ル證明ヲ有スル者
- 學年ハ三ケ年ニシテ之ヲ六學期ニ分チ、學科及週間授業時間ハ左ノ如シ、

第一 普通學課

學 科	第一學期	第二學期	第三學期	第四學期	第五學期	第六學期	總 計
信 仰 及 倫 理	一	一	一	一	一	一	六
獨乙語、獨乙文學、及公用文	二	一	二	一	一	一	八
ベ ー メ ン 語	二	二	二	一	一	一	七
歴 史、地 理、及 統 計	二	二	二	一	一	一	六

第二 基 本 學 課

學 科	第一學期	第二學期	第三學期	第四學期	第五學期	第六學期	總 計
數 學	五	四	二	一	一	一	一
幾 何 及 習 字	三	三	三	三	三	三	三
物 理、工 學 及 氣 象 學	三	二	一	一	一	一	五
無 機 及 有 機 化 學	三	三	一	一	一	一	六
礦 物 學 及 地 質 學	三	二	一	一	一	一	五
森 林 立 地 學	一	二	一	一	一	一	二

四 造林學(葉樹ノ接木法ヲ含ム)

造林ノ各施業法、疎伐、播種、植樹、必要ナル森林植物ノ記載并ニ地中及空中ニ於テ植物生長ノ理由ヲ説明

五 森林利用學

森林利用ハ伐木、造材、林種區分及積立、運搬、副産物ノ採收

六 狩獵術

狩獵ハ獵獸ノ性狀、狩獵用語、野獸撫育、狩獵術及野獸利用等

七 獵乙及拉丁通用文ノ習得

八 建築案、林圖及雛形寫取等ノ圖畫

九 森林保護及技術補助業務ニ關スル文章ノ習得

農務省ハ一般ニ之等ノ造林學校ヲ監督スト雖モ其程度ハ一ナラス、下澳國ノアツクスバツハ造林學校及ベトナム州ノビセツク造林學校ノ如キハ教官及校則ハ農務省ノ認可スル所ニシテ、卒業生ニハ森林保護吏及技術助手ノ國學試驗ヲ受ケ得ルノ資格ヲ與ヘリ、然レトモ他ノ造林學校ハ未タ其程度ニ進マサルモノ、如シ、

二 森林保護吏學校

森林保護吏學校ハ直接ニハ森林及國有地管理者ノ管理スル所ニシテ森林及國有地監督局之ヲ監督シ農務省之カ最高監督ヲ爲セリ、此學校ハ四個トモ近來(一千八百八十一年以來)ノ創立ニ係ルト雖モ頗ル好成绩ヲ得國有林事業ノ進歩ヲ促セシ直接ナル原因ト言フモ不可ナラス、現今國有及基本林并ニ國有地ノ保護ニ従事スル保護吏ノ總數ハ九百三十四人ニシテ内七百四十七人ハ(内五百四十四人ハ森林官又ハ森林勞力者ノ子弟ニシテ政府ヨリ學資ノ補助ヲ受ケタルモノ)森林保護吏學校ヨリ出テタルモノナルヲ以テ保護吏全員ノ八十「プロチエン」ハ此學校ノ卒業生ナリトス、故ニ數年ヲ出テスシテ教育ヲ受ケサル保護吏ハ殆ント其跡ヲ絶ツニ至ルヘシ、

森林保護學校へ入學セントスルモノハ年齡十七年以上身體健康(殊ニ視力及聽力)ナル者ニシテ好成绩ヲ以テ公民學校或ハ中學校ノ第三學年或ハ下等實科學校ヲ卒業シ少クモ一ヶ年間ノ林業及副工業ノ勞働ニ従事シタル資格ヲ有セサルヘカラス、

又此學校ノ修業年限ハ十一ヶ月ニシテ十月一日ニ始マリ八月末日ニ終リ、學科ノ程度モ亦造林學校ト伯仲ノ間ニアリ、則チ其科目左ノ如シ、

習得及實習科目

一 算術、整數及小數計算

森林及狩獵上ニ生スル單簡ノ計算

- 二 幾何學
平面立体ノ單簡ナル學理、尤モ林業上ニ起ルヘキ面積、長さ、表面、容積及幾何的測定實習
- 三 木材、物体及森林ノ測定
- 四 習字
獨逸及拉丁文章ノ習得及寫字
- 五 圖書及回議文ノ實習
- 六 博物學
- 七 造林學
施業及更新法、栽植、播種及苗圃ノ取扱、普通用ユル造林用器械ノ使用法
- 八 森林利用學
伐木、造材、材種分類、運材、木材ニ番號ヲ付スル方法、木材ノ受渡、樹實及樹皮ノ採收及貯藏法、落葉採集、林牧、林草採集、製炭、鋸取扱法、及林產物ノ賣却法
- 九 森林保護學
人爲ノ害、獸害、植物ノ害及天然ノ害ノ豫防法
- 十 狩獵及養魚及捕魚法

十一 法學

森林法、狩獵法、捕魚及鳥害保護ニ關スル當該州ノ特別ニ出シタル州法及命令、林役權解除及制限法及個人ノ權利ヲ保護スル法律等ノ説明

十二 建築工事ノ説明及實習

(砂流ノ豫防法ヲモ含ム)

其他負傷者ノ即時手當法ヲ習得セシム

是ニ由テ觀レハ學科ノ撰定ト講義説明ノ程度ニ深ク意ヲ用ヘタルヲ知ルヘシ、是短期ノ條業年限ニモ拘ハラズ實業上ニ適當ノ人物ヲ出シタル所以ナラシカ、

森林保護吏學校ノ卒業生モ亦森林保護吏及技術助手ノ國家試験ヲ受ケ得ル資格ヲ有ス、

第四章 森林官吏ノ登用及森林家ノ國家試験

第一節 森林官吏ノ登用

澳國ニテハ森林官吏ニハ官等ヲ有スル者ト之ヲ有セサルモノトノ別アリ、有官等ノモノヲ總稱シテ森林官ト言ヒ、無官等ノモノハ森林保護吏及森林助手等ナリトス、而シテ森林官ト森林保護吏以下トハ其職務上ニ要スル見識及學術ノ程度ヲ異ニスルヲ以テ其位置ニ劃然タル區別アルコト恰モ將校ト下士以下ノ關係ニ於ケル如シ、故ニ之カ登用ノ法モ全ク異ナリトス、

又森林官ニハ森林技術官、森林事務官及森林會計官ノ別アリ、森林事務官ハ森林技術官國家試験ニ及第シ且法律學及國家學ヲ修メ一般事務上ノ智識アル者ヨリ採用シ、森林會計官ハ一般ノ官吏登用規則ニ依リ採用セラルヘキモノナレハ、茲ニハ只森林技術官ノ登用ニ付説述セントス、

一 森林技術官

森林官ノ任用ニ國家試験ヲ行フノ制ハ已ニ今ヲ去ル五十年前以前ニ始マレリ、今其沿革ノ概要ヲ記サンカ、

一千八百五十年一月農礦務省ハ省令ヲ以テ將來澳國ノ森林技術官タラント欲スルモノハ國家試験ヲ受ケサルヘカラサルコトヲ制定シ、而シテ國家試験ノ受験ニ要スル資格ヲ定ムルコト左ノ如シ、

一 年齢二十二年以上且品行方正ニシテ

二 公立森林學校ヲ卒業シ二ケ年以上林業ノ内務及外業ニ從事シタル者或ハ
 三 獨學者ト雖モ五ケ年間必要ナル森林上ノ知識ヲ得ル爲メ修業シタル者
 當時受験資格ノ單簡ナルコト斯ノ如シ、其試験科目及其程度ハ知ルニ由ナシト雖モ、蓋シ極メテ簡易
 ナリシコト推知スヘキナリ、一千八百七十三年ノ林政改革ノ後間モナク則チ千八百七十五年二月ニ至
 リ政府ハ森林技術官國家試験規則ヲ改正セリ、之ニ依レハ國家試験受験ノ資格モ稍高尚トナリタリ、
 則チ左ノ各號ニ掲クル條件ヲ有スルヲ要ストセリ、

- 一 中學校ヲ卒業シタル者
- 二 高等農林學校或ハ他ノ森林官史豫備學校ニ於テ正員トシテ卒業シタル者
- 三 専門學卒業後二ケ年間實業ニ從事シタルモノ

但森林實業ニ付テハ實習日記ノ提出ヲ要ス

此試験規則ノ改正ハ頓ニ森林教育界ノ狀勢ヲ一變シ大ニ森林教育ノ進歩ヲ促致シタル者ノ如シ、然レ
 トモ尙此森林官國家試験ト高等農林學校ノ學術的國家試験トノ連結ヲ謀ルト、澳國森林官吏ニ特ニ必
 要ナルコトヲ充タサンカ爲メ千八百八十三年及千八百八十四年ノ兩度ニ於テ受験條件ニ少ナクモ一ケ
 年以上學校入學前ニ實務ニ從事シタルコト、高等農林學校ニ於テ學術的國家試験ニ及第シタルコト及
 砂防工術ノ講義ヲ聽了シ良成績ヲ以テ及第シタルコト、トヲ追加シ、千八百九十三年ニ至リ森林官ニ

ハ一般ニ法律的志想ノ必要アル等ニ依リ試験科目及試験委員等ノ條項并ニ受験資格中ノ實習年期等ニ
 付此試験規則ヲ改正シタリ、是則チ現行ノ森林技術官國家試験規則ナリトス、今其要點ヲ摘記セハ此
 規則ハ國有及基本財産ヲ管理スル官廳ノ森林技術官及地方廳ノ森林技術官ニ登用セラレントスル者ニ
 適用セラル、モノニシテ受験者ハ左ニ掲クル資格ヲ有スルヲ要ストセリ、

- 一 二以下ニ掲クル學校ニ入學ノ以前二ケ年間國有林又ハ修業ニ適スル私有林ニ於テ實習シタル者
- 二 維也納高等農林學校或ハ之ト同等ノ學校ニ於テ學術的國家試験ヲ受ケ及第シタル者
- 三 維也納府高等農林學校或ハ之ト同等ノ學校ニ於テ砂防工術ノ講義ヲ聽了シ當該教官ヨリ試験ヲ
 受ケ好成绩ヲ以テ及第シタル者
- 四 二ニ掲ケタル學校卒業ノ後一ケ年間國有林又ハ修業ニ適スル私有林又ハ地方廳ノ森林技術的業
 務ニ從事シタル者

但學校卒業後ノ實習ニ就テハ其執リタル業務并ニ之ニ就キ自己ノ觀察ヲ記シタル日記ヲ提出
 スルヲ要ス

試験ハ農務省内ニ於テ施行シ、試験委員ハ委員長及三名ノ委員ヨリ成リ、委員長ハ農務省ノ第七局長
 若クハ森林及國有地監督局長ニ之ヲ命ジ、委員ノ中二名ハ在官者或ハ私有林ノ森林技術者、他ノ一名
 ハ農務省ノ法律事務官ヲ以テ之ニ充テリ、尤モ農務省ハ豫テ在官若クハ私有林ノ森林技術者中ヨリ十

名、農務省ノ法律事務官ヨリ五名ノ委員ヲ五ケ年ノ年期ヲ以テ命シ置キ、其中ニテ委員長ハ毎回前記ノ數ノ委員ヲ撰定スルモノナリトス、試験法ハ口頭及筆記トシ口頭試験ハ林中及室内ニ於テ之ヲ爲シ、室内口頭試験ハ公開ナリ、試験科目ハ左ノ如シ、

第一 生産學

- 一、造林
- 二、保護
- 三、利用
- 四、狩獵

第二 施業學

- 一、測量
- 二、經理
- 三、林價算法

第三 管理學

行政廳、司法廳及自治機關ニ關スル緊要ノ法令等

第四 副用學

- 一、森林建築學(勞力者ノ事業場又ハ住家)
- 二、砂防工術
- 三、畑、牧場菜園等ヲ管理スルニ必要ナル農業

外國ニ於テ受ケタル試験ヲ以テ此國家試験ト同様ニ見做スヤ否ヤハ、農務省ニ於テ其都度之ヲ調査シテ裁定セリ、

二 森林保護吏及技術助手

森林保護吏及技術助手ヲ登用スルニハ亦其國家試験ヲ行ヒ其及第者ニ就キ必要ニ從ヒ撰任ス、政府ハ千八百八十九年二月ニ於テ森林家及森林保護吏并ニ技術助手ノ國家試験規則ヲ制定セリ、今其森林保護吏及技術助手ニ關スル規定ヲ摘記センニ、試験ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ有スルヲ必要トス

一 年齢十八年以上ノ者

- (一) ハール、グスウエルク、ボレチヨノ森林保護吏學校又ハアックスバツハ、ビセツクノ造林學校ヲ好成绩ヲ以テ及第シタル者

- (二) 小學校、公民學校、下等中學校或ハ下等實業學校ヲ卒業シタル者

- 三 試験ヲ受ケタル森林家ノ下ニ於テ三ケ年間實地ニ從事シタル者但(一)ニ掲ケタル學校ノ在學時期ハ此三ケ年中ニ算入ス

試験ハ地方廳ニ於テ施行シ、試験委員長ハ地方森林監督官、或ハ地方廳ニ於テ毎年命スル處ノ地方森林技師ノ一人ヲ以テ之ニ充テ、試験委員ハ二人ノ森林技術者ニ地方廳ヨリ命シ各試験委員ハ分類シタル試験科目ニ付試験ヲ分擔ス、試験法ハ口頭及筆記ニシテ口頭試験ハ公開セラレ、試験科目ト其分類ハ左ノ如シ、

- 第一類 (一) 造林 (二) 利用 (三) 測量及測定

第二類 (四) 保護 (五) 狩獵

次ニ記述スル森林家國家試驗ヲ受クヘキ資格中一、二、三、ニ該當スル者ハ此試驗ヲ受ケスシテ森林保護吏又ハ森林助手ニ登用セラル、ノ資格ヲ有スト認メリ、

第二節 森林家ノ國家試驗

愛ニ森林家ト稱スルハ國家カ森林家タル資格ヲ認定シタル森林技術者ヲ指スモノナリ、澳國森林法(第二十二條ニ曰ク森林ノ施業ニ關スル法律ヲ十分ニ遵守シ得ル爲メニハ一定大ノ森林面積ヲ有スルモノハ政府ニ於テ其技術アルコトヲ認メタル專門施業家ヲ雇フヘシ)ニ依レハ市町村、團体林及私有林ニシテ一定大ノ森林面積ヲ有スルモノハ政府ノ認定シタル森林家ヲ雇フテ其管理施業ニ當ラシメサルヘカラス、此森林家ノ國家試驗ハ所謂政府ガ森林家タルヲ認定スルノ方法ナリトス、

森林家國家試驗ニ關スル規定ハ千八百八十九年二月森林官及森林保護吏并ニ森林助手國家試驗規則トシテ制定セラレタル規則ノ一部分ナリトス、今要領ヲ記セハ、受験者ハ左ノ資格アルヲ要ス、

- 一 (一) 維也納府高等農林學校ニ於テ學術的國家試驗ニ及第シタル者
- (二) 維也納府高等農林學校ニ於テ正員或ハ員外聽講生トシテ林學ヲ修メ且十分ノ成績ヲ以テ學術國家試驗ノ各科目ノ卒業試驗ニ及第シタル者
- (三) 中學校、實科學校又ハ實科中學校ノ四學級ヲ卒業シタル者ニシテワイツスワツセル、ワイツ

スキルヘン又ハレンムベルクノ森林學校ヲ卒業シ且其年齡二十二年以上ノ者

(四) 高等中學校又ハ高等實科學校ヲ卒業シタル者

二 前號(一)ノ場合ニハ二ケ年、(二)(三)ノ場合ニハ三ケ年、(四)ノ場合ニハ五ケ年ノ間國有又ハ修業ニ適當ナル私有林ニ就キ實業ニ從事シ若クハ官廳ノ森林技術的業務ヲ執リタル者

但實業ニ從事シタル間ハ森林専門上ノ件ニ付自己ノ觀察ヲ記シタル日記ヲ調製シテ提出スルヲ要ス

試驗ハ地方廳ニ於テ行ヒ、試験委員ハ委員長及三人ノ森林技術者ヨリ組織シ、委員長ハ農務省ヨリ特ニ命スル場合ノ外ハ地方森林監督官之ニ當リ、委員ハ農務省ヨリ毎年之ヲ命シ、試験科目ハ之ヲ區別シテ三類トナシ三名ノ委員其試験ヲ分擔ス、試験法ハ口頭及筆記ニシテ口頭試験ニ於テハ林中又ハ室内ニ於テ主トシテ施業ニ從事スル森林家ニ對シ必要ナル實地問題ヲ出ス、筆記試験問題ハ農務省ヨリ嚴封シテ送り試験ノ當日受験者ノ目前ニ於テ開封ス、試験科目及其分類ハ次ノ如シ、

第一類

(一) 造林

博物學原則ニ關聯セシメ且各々實地應用ニ就キ

(二) 森林利用

第四章

(三) 產物ノ採收、產物ノ造作、產物ノ變成(森林工藝)產物運搬法、貯蓄法及其取扱
 施業者或ハ保護者ノ日用業務規定ノ要領并ニ森林勞力者ノ日用業務規定ノ要領

第二類

- (四) 林地ノ測量及製圖
- (五) 測樹
- (六) 經理及林價算法
- (七) 普通施業殊ニ利用上必要ナル森林工事ノ設計及實施

第三類

- (八) 施業上并ニ警察上ノ森林保護及狩獵保護受驗者ノ居住スル地方ノ森林、狩獵、森林保護ニ關スル法規、所有物又ハ所有地ノ保持ニ關シ數々起ル所ノ個人權問題
- (九) 野獸撫育及保護并ニ狩獵

森林官國家試驗ニ及第シタル者ハ此國家試驗ヲ受ケサルモ森林家タルノ認定ヲ得ルヲ得ヘシ、
 一千八百九十五年ノ終ニ於ケル森林家及森林保護吏(國有基本林并ニ地方廳ニ屬スル森林保護吏ヲ除ク)ノ員數ヲ舉クレハ左ノ如シ、

州	名	森林家國家試驗ヲ經テ林業ニ従事スル森林家	森林保護吏及技術助手ノ國家試驗ヲ經テ市町村ノ團體林及私有林ノ保護ニ従事スルモノ	未タ國家試驗ヲ受ケスシテ市町村林團體林及私有林ノ保護ニ従事スルモノ
下	澳國	二二三	六八二	七七四
上	澳國	八七	三三一	一四五
	サルツブルク	三九	一三九	二八
	チロール及フアルアルベルク	一〇〇	一一一	一、〇三九
	スタイエルマルク	一一八	二〇一	三九五
	ケルンテ	三七	一〇四	一四八
	クライ	二九	五九	五五〇
	キユステンランド	一一	四八	七五一
	ダルマチ	一三	一五	五七七
	ベ	四八八	二、〇九七	六、一六〇
	メ	二四五	一、〇二四	二、四七一
	シユレジ	一〇六	一八五	六〇二
	ガル	二五四	六〇〇	九、一〇〇
	ブ	四五	八五	七〇〇
合	計	一、七八五	五、六七三	二、三、四三一

是ニ由テ觀レハ町村林、團體林及私有林ノ管理施業ニ從事スル森林家ハ國家試驗ヲ經サルモノナク
 (尤モ小面積ノ森林施業ハ此範圍外ナリトス)保護吏ト雖モ國家試驗ヲ經タルモノ已ニ五千六百餘人ヲ
 出スニ至レリ特ニ注意スヘキハペーメン、メーレン、ガルチン等ノ民間林業ノ進歩セル地方ニ於テ
 ハ多數ノ森林家及森林保護吏(森林保護吏ノ員數多キハ主トシテ森林家ヲ助ケテ造林育林及利用ノ業
 務ヲ爲スニ由ル敢テ森林犯罪ノ多キ故ニアラス)ヲ使用シ居レルコト是ナリ、澳國民林事業ノ進歩發
 達セル偶然ナラサルヲ察スルニ足ルヘシ、
 此章ニ叙述シタル所ノ森林官吏ノ登用及森林家國家試驗ト森林教育機關トノ連絡關係ヲ一覽ニ便セン
 爲メ左表ヲ掲ク、

森林官	森林官國家試驗	(一) 高等農林學校ヲ卒業シ學術的國家試驗ヲ經且前 期(一ケ年)及後期實習(一ケ年)ヲ爲シタル者 (二) 高等農林學校ト同一程度ノ學校ヲ卒業シ學術的國家試驗 ヲ經且前期(一ケ年)後期(一ケ年)ノ實習ヲナシタル者 (三) 中等ノ森林學校ヲ卒業シ前期(一ケ年)後期(一ケ年) ノ實習ヲ爲シ且森林家國家試驗ニ及第シタル者 外國ニテ國家試驗ヲ受ケタル者 但是ハ農務省ニテ調査ノ上認否ス
	森林官國家試驗	(一) 高等農林學校ヲ卒業シ學術的國家試驗 ヲ經後期實習(一ケ年)ヲ爲シタル者 (二) 高等農林學校ニテ正員又ハ員外生ニテ林業ヲ修メ十分ノ成績ヲ 以テ學術的國家試驗ニ及第シ後期實習(三ケ年)ヲ爲シタル者
森林家	森林家國家試驗	(一) 中等森林學校ヲ卒業シ後期實習(三 ケ年)ヲ爲シ年齢二十二年以上ノ者 (二) 高等中學校又ハ高等實科學校ヲ卒業 シ後期實習(五ケ年)ヲ爲シタル者 (三) 中等森林學校ヲ秀逸ノ成績ヲ以テ卒業シタル者ニ シテ中學校又ハ實業學校ノ卒業證書ヲ有スル者 但農務省ノ請求アル場合ニ限ル
	森林家國家試驗	(一) 森林保護吏學校ヲ卒業シタル者 (二) アツクスマツハ及ビセツク造林學校ヲ好成績ニテ卒業シタル者 (三) 小學校、公民學校、下等中學校或 ハ下等實科學校ヲ卒業シタル者 (四) 高等農林學校ヲ卒業シ學術的國家試驗 ヲ經後期實習(一ケ年)ヲ爲シタル者 (五) 高等農林學校ニテ正員又ハ員外生ニテ林業ヲ修メ十分ノ成績ヲ 以テ學術的國家試驗ニ及第シ後期實習(三ケ年)ヲ爲シタル者 (六) 中等森林學校ヲ卒業シ後期實習(三 ケ年)ヲ爲シ年齢二十二年以上ノ者

森林保護吏 及技術助手	森林保護吏	(一) 年齡十八年以上學 校卒業後三ケ年實 習ヲ爲シタル者 (二) 高等農林學校ヲ卒業シ學術的國家試驗 ヲ經後期實習(一ケ年)ヲ爲シタル者 (三) 高等農林學校ニテ正員又ハ員外生ニテ林業ヲ修メ十分ノ成績ヲ 以テ學術的國家試驗ニ及第シ後期實習(三ケ年)ヲ爲シタル者 (四) 中等森林學校ヲ卒業シ後期實習(三 ケ年)ヲ爲シ年齢二十二年以上ノ者
	技術助手	(一) 年齡十八年以上學 校卒業後三ケ年實 習ヲ爲シタル者 (二) 高等農林學校ヲ卒業シ學術的國家試驗 ヲ經後期實習(一ケ年)ヲ爲シタル者 (三) 高等農林學校ニテ正員又ハ員外生ニテ林業ヲ修メ十分ノ成績ヲ 以テ學術的國家試驗ニ及第シ後期實習(三ケ年)ヲ爲シタル者 (四) 中等森林學校ヲ卒業シ後期實習(三 ケ年)ヲ爲シ年齢二十二年以上ノ者

第五章 森林官吏ノ待遇

緒言

森林官吏ヲシテ業務ヲ誠實ニ且敏活ニ執行セシメントセハ官吏其人ヲ得テ之ヲ待遇スルノ道篤カラサルヘカラス、其技術餘リアリト雖モ國家ニ對シ忠實ナル觀念ヲ以テ誠心誠意事ニ從フニアラサレハ、其學識經驗竟ニ何ノ用ヲカ是爲サンヤ、殊ニ林業ノ如キハ良モスレハ弊害汚瀆ヲ生シ易キハ皆人ノ知ル所ニシテ、且其管理保護ノ官吏ハ個々山間僻輒ノ地方ニ在住セルヲ以テ其監督ノ方法亦最モ困難トスルニ於テヲヤ、是各國カ特ニ森林官吏ヲ優待シ以テ彼等ノ心意ヲ高尚ナラシメ敢テ形式上ノ監督法ニ重キヲ置カサル所以ナリトス、

澳國ニテハ森林官ノ俸給及恩給法等ハ他ノ一般官吏ト異ナル所ナシト雖モ、官舎ヲ貸與シテ職務及生活上ノ便宜ヲ與ヘ、自用地ヲ貸與シテ鳥獸魚ノ食肉、鶏卵、野菜及獸乳等生活原料品ヲ得セシメ、若クハ自用ノ燃材ヲ給與シテ之ヲ他ニ仰クヲ要セシメス、職服ヲ官給シテ官吏ノ威嚴ヲ保タシムルト同時ニ職服及付屬品ノ資ヲ補クル等ノコトハ他ニ多ク其類例ヲ見サル所ニシテ、森林官ニ對スル獨特ノ待遇ト言フモ不可ナラス、殊ニ自用地ノ貸與及自用燃材ノ給與ノ如キハ官ニ費ヤス所少ナクシテ之ヲ受クルモノ、生活上ノ便宜極メテ多ク、往々金錢ヲ以テ價評スヘカラサルノ場合アリ、請フ序ヲ追ヒ待遇上ノ諸件ヲ左ニ叙述セン、

第一節 俸給、旅費及賞與手當

澳國政府官吏ノ官等ハ一等乃至十一等ノ十一階級ニシテ其任命ノ式及手續ハ官ノ高卑ニ依リ異ナル所アリト雖モ我國ノ如キ親任、勅任、判任等ノ名義アルナシ、則チ六等官以上ハ勅命ニシテ七等官以下ハ主務大臣ノ任命スル所ナリ、而シテ一等官ハ總理大臣、二等官ハ各省大臣、大審院長、會計検査院長及行政裁判所長ナルヲ以テ我國ノ親任官ニ相當シ、三等官乃至六等官ハ勅任官、七等官以下ハ委任官ニ當レリ、森林官ノ官等ハ五等乃至十等ニシテ其俸給ハ一般官吏ノ俸給制ニ依リテ給與セラル、其官等及俸給ハ左表ノ如シ、

官名	官等	俸給等級	年俸額
省參事官(森林技術局長)	五等	一級	六、〇〇〇 <small>「グルデン」</small>
高等森林參事官	六等	一級	四、〇〇〇
		二級	三、六〇〇
		三級	三、二〇〇
森林參事官	七等	一級	三、〇〇〇
事務參事官		二級	二、七〇〇

官名	官等	俸給等級	年俸額
營林官、書記官、高等土木技師	八等	三級	二、四〇〇
		二級	二、〇〇〇
		三級	一、八〇〇
森林及國有地管理者、土木技師、事務官助手	九等	一級	一、六〇〇
		二級	一、五〇〇
		三級	一、四〇〇
森林官試補及土木官試補	十等	一級	一、三〇〇
		二級	一、二〇〇
		三級	一、一〇〇

其他森林官見習、土木官見習等ニシテ高等教育ヲ受ケタル者及森林監守ニハ一ケ年五百乃至六百「グルデン」ノ手當ヲ給セラレ、森林助手ハ一ケ月四十「グルデン」ノ手當ヲ受ケ臨時監守ハ一「グルデン」ノ日給ヲ受ク、

官等ノ昇叙ニハ一定ノ年限ナシ然レトモ昇給ハ八等官以上ハ五ケ年毎ニ、九等官以下ハ四ケ年毎ニ一級ヲ進ムル制ナリトス、官吏ニハ俸給ノ外ニ職務加俸或ハ勤勞加俸ヲ給セラル、職務加俸トハ其

職務ノ性質ニ依リ四等官以上ニ給セラル、モノヲ言ヒ、勤勞加俸トハ在勤地市町村住民ノ多寡ニ依リ五等官以下ニ給スルモノヲ謂フ、其勤勞加俸ノ年額ハ左ノ如シ、

勤勞加俸等級

	一級	二級	三級	四級
五等官	一、〇〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇
六等官	八〇〇	四八〇	四〇〇	三二〇
七等官	七〇〇	四二〇	三五〇	二八〇
八等官	六〇〇	三六〇	三〇〇	二四〇
九等官	五〇〇	三〇〇	二五〇	二〇〇
十等官	四〇〇	二四〇	二〇〇	一六〇
十一等官	三〇〇	一八〇	一五〇	一二〇

備考

- (一) 勤勞加俸ノ一級ハ維也納府ニ、二級ハ人口五萬以上ノ場所及維也納警察區ノ各地ニ、三級ハ人口二萬以上五萬未滿ノ所及溫泉場バーデン、フランツェンスバード、カールスバード、マリエンバード、テブリッツニ、四級ハ人口一萬以下ノ各地ニ在勤スル者ニ給ス

ルモノトス

(二) 地方ノ狀況ニ依リ三級ヲ二級ニ四級ヲ三級ニ代用スルコトアリ
 官等ヲ有セサル官吏ハ勤勞加俸トシテ一般ニ年給、手當又ハ日給年額四分ノ一ヲ給シ、維也納又ハトリ
 エストニ在勤スル者ニハ宿所料ニ當ル金額ヲ尙勤勞加俸トシテ増給ス、
 公務旅行ニハ日當車馬賃及汽車賃ヲ給シ、日當ハ左表ニ依リ官等ニ應シテ之ヲ受ケ、車馬賃ハ一等官
 乃至四等官ハ四頭引馬車、其他ノ官吏及試補ハ二頭引馬車ノ費用ヲ受ク、又流車賃ハ一等乃至七等官
 ハ一等流車賃、其他ノ官吏及試補ハ二等ノ流車賃ヲ受クルモノトス、

日當

一〇、フルゲン

五等官	八
六等官	六
七等官	五
八等官	四
九等官	三
十等官	三
十一等官	三

備考 試補ニハ十一等官ノ日當ヲ給ス

營林官并ニ森林及國有地管理者ニシテ森林及國有地管理署長ノ職ニ在ルモノハ其管内旅行ノ費用トシテ年額百五十「グルデン」ヲ受ク、森林監守ハ年額旅費ヲ受ケス、是澳國ニアリテハ保護區ノ區域狹小ニシテ旅行ノ費用ヲ要スルコトナケレハナリ、
官吏及等外官吏ニシテ煩劇ノ職務ニ在リテ特ニ勉勵シタルモノニハ賞與金ヲ與ヘ、又ハ普通職務外ノ事務ヲ執リタルモノニハ手當金ヲ支給セリ、殊ニ森林官吏ニハ植樹ノ成績良好ナル場合ノ如キハ賞與金ヲ與ヘテ之ヲ嘉スヲ常例トセリ、其金額等ニ標準トスヘキモノアルニアラス、然レトモ居常官吏ノ勤怠ヲ監察スルニ留意スルコト甚タ慎重ニシテ賞與金ノ給與ノ如キハ能ク賞與ノ目的ヲ達シテ第二ノ俸給然タル流弊ニ陥ラサルモノ、如シ、

第二節 官舎及自用地ノ貸與、并ニ自用燃材及制服ノ給與

國有及基本林ノ施業ニ關スル官吏（森林及國有地管理署長ノ職ニアル營林官又ハ森林及國有地管理者并ニ森林助手、木材置場及其他官設諸工場ノ官吏等）及森林保護吏ニハ官舎及自用地ヲ貸與シ又自用地ノ燃材ヲ給與セリ、官舎ニ住居スルモノハ勤勞加俸ノ半額ヲ受ケ、森林保護吏ニシテ官舎ニ住居スルコトヲ得サル場合ハ宿泊料トシテ俸給ノ十分ノ一ノ給與ヲ受ク、然レトモ政府ハ千八百七十三年以來官舎建築費トシテ毎年大約十萬「グルデン」ヲ支出シ漸次官舎ヲ新築シ、今ヤ殆ント例外ノ場合ヲ除ク

ノ外ハ官舎ヲ見サル所ナシトス

自用地トハ森林官吏ノ生活ニ必要ナル野菜、菓實等ヲ得セシメ又ハ乳牛ヲ飼養センカ爲メ森林官吏カ自用スル所ノ土地ニシテ從來ヨリ之ヲ貸與スルノ慣例ナリシカ、農務省ハ千八百九十六年ニ至リ自用地貸與ニ付訓令ヲ發セリ、其要項ヲ摘メハ左ノ如シ、

- 一 自用地貸與ノ面積ハ施業官吏ニハ六「ヘクタール」保護吏ニハ四「ヘクタール」以内ナリトス、
- 二 自用地ハ自家生計上ニ必要ナル野菜菓實ヲ作り又ハ乳ヲ得シカ爲メ乳牛ヲ飼養スルニ使用スルモノニシテ他人ヲシテ使用セシムルコトヲ許サス
- 三 自用地ノ等級ハ之ヲ十一級ニ分チ其等級ニ依リ貸地料ヲ納メシム

但貸地料ハ普通相場ノ半額トス

- 四 貸地料ハ毎年四回ニ勤勞加俸ノ内ヨリ引去リ之ヲ分納セシム

自用燃材トハ森林官吏ノ日常生活ニ要スル燃料ニシテ普通施業官吏又ハ保護吏ハ其給與ヲ受クト雖モ、住所ト國有林ノ位置トノ關係ニ依リテハ給與ヲ受クルコト能ハサル場合モナキニアラス、又其給與ヲ受クルモノト雖モ積積ノ數量ハ氣候ノ如何、家族ノ數等ニ依リ一定セサルモノ、如シ、然レトモ普通施業官吏ニハ下等ノ割代ニテ四十「ラウムメートル」保護吏ニハ二十五「ラウムメートル」ヲ支給シ其製材及運搬ハ被給與者ノ自費ヲ以テ支辨セシメリ、自用燃材ニ關シテハ特ニ規程ノ設ケナシ、只森林

及國有地管理者并ニ森林保護吏ノ職務章程中ニ給與シタル木材ヲ賣却讓與又ハ交換スルコトヲ禁シ、若シ自己ノ節儉ニ由リ剩餘ヲ生スルトキハ之ヲ監督局ニ申立ツレハ監督局ハ相當ノ代價ヲ下付スルノ規定アリ、

澳國ニテハ千八百七十三年ノ各省令第百十五號ニ依リ制服ヲ着用スヘキ官吏ニハ一般ニ之ヲ官給セリ、森林官ニハ特ニ職服ノ制定アリ、今參考ノ爲メ其要概ヲ記述セハ、上衣ハ淡灰色ノ狩獵服ニシテ衣縁ハ綠色絨ヲ以テ飾レリ、襟ハ立襟ニシテ低ク、釦ハ鹿角製ニシテ二列ナリ、徽章ハ襟ノ前面ニ金色又ハ銀色ノ糸ヲ以テ樺樹ノ實及葉ヲ繡シ、之ヲ以テ官等ノ位置ヲ表示セリ、帽ハ普通ノ無縁帽ヲ用ヘ、釦ハ長クシテ黑色革製ノ鞘ヲ有シ、柄ハ象牙製ニシテ鏤ニ飾アリ、釦帶ハ黑色革製ニシテ上衣ノ上ニ之ヲ帶ヒ、外套ハ褐色羅紗製ニシテ飾裝ヲ用ヘス極テ質素ナリ、

森林保護吏ノ職服モ大体ニ於テハ森林官ノ職服ト相似タリ、上衣ニテ異ナルハ只徽章ナリトス、即チ森林監守ハ白色金屬製ノ樺實ヲ包含スル一葉ノ樺葉、臨時森林監守及森林助手ハ單ニ一葉ノ樺樹ノ葉ヲ以テ章トシ之ヲ襟ノ前面ニ付スルコト森林官ノ如シ、帽ハ灰褐色ノ有縁軟帽ニシテ綠色ノ紐ヲ繞ラシ、其左側ニハ樺葉ノ上ニ皇帝ノ名ヲ記シタル冠形ヲ有スル白色金屬製ノ帽章ヲ付ス、釦ハ所謂林刀ニシテ短クシテ廣ク黑色ニ裝フタル鞘ヲ有シ、釦帶ハ黒クシテ上衣ノ下ニ帶フ、袴ハ氣候ト土地ノ狀況ニ依リ適宜ニ之ヲ調製セシメ一定ノ制式ヲ定メス、

第三節 官吏ノ恩給ニ關スル方法

國家カ官吏ニ恩給ヲ與フルハ官吏ガ永年國家ノ業務ニ盡力シタルヲ褒賞セントノ意モアルヘシト雖モ其主タル理由ノ第一ハ官吏カ專心職務ニ後事シ之ガ爲メ他ノ利益アル業務ニ從事シテ財産ヲ貯ヘ生涯安心ナル生計ヲナシ得ルノ機會ヲ失ハシメタルヲ以テ、其報酬トシテ老後身分相應ノ生活ヲ得サシメントシ、第二ハ官吏ニシテ生存セハ遺族ハ安全ニ生活シ得ヘキニ一朝死亡シタルトキハ爲メニ妻子ハ俄カニ生活ノ途ヲ失フニ由リ、之ヲ扶ケテ其虞ヲ除カントスルニアリ、而シテ此理由ハ國家百般ノ業務ノ舉否ニ重大ナル關係ヲ有スルコトハ言ヲ俟タサル所ニシテ、是文明各國ニ於テ官吏及公職ニ從事スル者ニ對シ優渥ナル恩給法ノ制定アル所以ナリトス、澳國ニテハ此目的ヲ達スル上ニ完備ヲ期センカ爲メ千八百七十六年ニ於テ官吏恩給ニ關スル從來ノ規則ヲ改正セリ、名ケテ文官(學技教官ヲ含ム)等外吏并ニ之等ノ寡婦及孤見恩給法ト謂フ、此法律ハ素ヨリ森林官及森林保護吏ニモ適用セラル、モノナルニ由リ、左ニ其要概ヲ述ヘ、且我國ノ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ要點トヲ彼是比較シテ參考ニ供スヘシ、是官吏ノ待遇上最モ注意ヲ要スヘキ點ナレハナリ、

一 恩給ノ種類

恩給ニハ官吏退隱料、寡婦恩給、孤兒恩給、子女養育料及子女養育料附加額、一時賜金及死亡賜金ノ區別アリ、

官吏退隱料トハ官吏カ或期間國家ノ業務ニ從事シタル爲メ、又ハ公務ニ依ル瘡痍負傷ノ如キ特殊ノ條件ニ依リテ退官ノ後終身其本人ニ給與セラル、金額ニシテ即チ我國ノ官吏恩給金ニ同シ、寡婦恩給トハ其夫タル官吏ノ死亡カ或ル條件ニ係ル場合ニ其遺族タル妻ノ生活ヲ扶助センカ爲メ終身給セラル、所ノ金額ニシテ、即チ我國ノ寡婦扶助料ニ相當スルモノナリ、

孤兒恩給トハ其父タル官吏ノ死亡カ或ル條件ニ係ル場合ニシテ其母ガナキカ或ハ母ガナキト見做シ得ヘキ場合ニ孤兒ノ生活ヲ扶助センカ爲メ孤兒ノ或年齢ニ達スル迄各孤兒ニ給セラル、金額ニシテ我國孤兒扶助料ニ類ス、然レトモ我國ニアリテハ只一人ノ孤兒ニ給セラル、ノミナレトモ彼ニアリテハ各孤兒ニ分給セラル、ナリ、

子女養育料トハ其父タル官吏ノ死亡カ或ル條件ニ依ル場合ニ其遺族タル子女ノ養育ヲ扶ケンカ爲メ其母ノ生存ト否トニ拘ラス、子女ノ數ニ應シテ各子女ガ或年齢ニ達スル迄給セラル、金額ニシテ、我國ノ扶助法ニハ全ク之ニ類スルモノナシ、

子女養育料付加額トハ其父タル官吏ガ死亡シ且母ナキトキ或ハ母ガナキト見做シ得ヘキ場合ハ其孤兒ノ養育ハ一層困難ニシテ多クノ養育料ヲ要スル理由アルヲ以テ、子女養育料ニ尙付加シテ給スル金額ヲ謂フ、之亦我國ニハ全ク類ヲ見サルモノナリ、

一時賜金トハ官吏ガ或ル短キ期間國家ノ業務ニ從事シ自己ノ意思又ハ懲戒處分等ニアラスシテ退官セ

シメタルモ、恩給ヲ與フル程ノ理由ナキ場合ニ與フル金額ニシテ恩給トハ稍其性質ヲ異ニセリ、則チ我國ノ明治二十三年勅令第九十八號ノ一時賜金ト性質ヲ同フス、

死亡賜金トハ在職中又ハ恩給ヲ受ケ居ル官吏カ死亡シタルトキ、該官吏ガ生存中曾テ國家ノ業務ニ從事シタルコトヲ褒賞シ且葬祭ノ料ヲ助ケン爲メ他ノ法律上ノ扶助ニ關係スルコトナク給セラル、金額ニシテ我國ノ死亡賜金ト異ナル所ナシ、

二 官吏退隱料

官吏(文官及教官以下做之)又ハ等外吏(無官等ノ官吏ヲ假リニ等外吏ト譯ス)ニシテ年俸ヲ受クル者十一年以上勤績シ自己ノ意思ニアラスシテ退官シタルモノハ退官後退隱料ヲ受クヘキ權利アリ、其年額ハ勤績十年ハ最後ノ年俸ノ(職務加俸若クハ勤勞加俸ハ恩給ニ關係セス)十分ノ四、十年以上ハ一年毎ニ百分ノ二ヲ増加シ四十年ニ至テ止ム、故ニ四十年勤績シタル者ハ年俸ノ全額ト等シキ恩給ヲ受ク、而シテ退隱料ノ最少額ハ官吏ニアリテハ四百「グルデン」等外吏ニアリテハ二百「グルデン」ナリトス、又官吏ニシテ四十年以上ヲ勤績シ恩給ノ滿額ヲ得ル資格アル者及等外吏ニシテ三十五年以上勤績シ且年齢六十年ヲ超ヘタル者ハ本人ノ意思ニ從ヒ何時ニテモ退官セシメ退隱料ヲ給與セラレ、國務大臣ハ退官カ自己ノ意思ニ出ツルト否トヲ問ハス且在官年限ニ關セス退隱料年額四千「グルデン」ヲ受ケ、若シ此規則ニ依リ計算シタル恩給額カ四千「グルデン」ヨリ多キトキハ其規則ニ依リ計算シタル額ヲ受クル

權利アリ(千八百六十八年七月大臣恩給ニ關スル法律)、官吏及等外吏ニシテ疾病又ハ故意ニアラスシテ退官シタル者ハ在官勤続年限五ヶ年ヲ超ユレハ十年勤続シタル者ト見做シ恩給ヲ給與セラレ、若シ精神病又ハ眼病等ニ罹リ職ニ耐ヘスシテ退官シタルトキハ在官勤続年數十年ニ至ラサルモ退隱料トシテ年俸額ノ四分ノ一ヲ給與シ、若シ又之等ノ原因カ公務ニ依ルトキハ特ニ恩典ニ浴セシムルノ特令アリ(千八百八十一年三月恩給ノ標準ニ關スル法律)、其他官吏ノ試補又ハ助手ニシテ有等官ノモノハ此規則ニ依リ官吏ト見做サ、ルハ無論ナリトス、

總テ在官者ハ扶助ヲ受クル爲メ年俸百分ノ三ニ當ル金額ヲ月割ヲ以テ年俸ノ月割額ノ内ヨリ政府ニ納金スルノ義務ヲ有セリ、此納金ハ一般ノ官吏扶助ニ要スル費用ノ一部分ニ充ツヘキ性質ヲ有スルモノニシテ單ニ官吏退隱料ノミニ對スルモノニアラサルナリ、
今試ミニ此官吏退隱料ニ關スル規定ト我國ノ官吏恩給法トノ主要ナル點ヲ對比スルニ左ノ如シ、

澳 國	イ 十年以上ノ勤続ニシテ自己ノ意思ニアラスシテ退官シタルトキ退隱料ヲ受ク	我 國	い 滿十五年以上ノ在官ニシテ年齢六十年ヲ超ヘ退官ヲ許シタルトキ又ハ政府ノ都合ニ依リ退官セシメタルトキハ恩給ヲ受ク
--------	--------------------------------------	--------	--

ロ 疾病又ハ傷疾ノ爲メ職ニ耐ヘスシテ退官シタルトキハ五年以上ノ勤続ヲ以テ十年ノ勤続ト見做ス	ろ	此場合ニ於テモ滿十五年以上ノ在官ナルヲ要ス
ハ 精神病又ハ眼病等ヲ起シ職ニ耐ヘスシテ退官シタルトキハ勤続年數十年ニ滿タサルモ年限ニ關セス退隱料ヲ給ス	は	
ニ 官吏ハ四十年以上ノ勤続、等外吏ハ三十五年以上ノ勤続ニシテ年齢六十年以上ノモノハ自己ノ意思ニ依リ退官スルモ恩給ヲ受ク	に	此項ニ該當スルノ規程ナシ
ホ 國務大臣ハ其退官カ自己ノ意思ニ出ツルト否トヲ問ハス且在官年數ニ關セス恩給ヲ受ク	は	國務大臣ハ在官滿五年ナレハ(イ)ノ條件ヲ必要トセス恩給ヲ受ク
ヘ (ロ)及(ハ)ノ疾病カ公務ニ原因スルトキハ特ニ恩典ニ浴セシム	へ	公務ニ因リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキモノ并ニ公務ニ因リ健

康ニ有害ナル感動ヲ受クルコトヲ願ミスシ
テ勤務ニ従事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上
ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキモノニシテ
其職務ニ耐ヘス退官シタルトキハ在官十五
年ニ滿タサルモ最上金額ノ十分ノ七迄ノ増
加恩給ヲ受ク

ト 恩給年額

十年 年俸ノ十分ノ四
十年以上一年毎ニ年俸ノ百分ノ二
四十年 年俸ト同額
國務大臣 最少額四千「グレン」トシ以上
ハ一般ノ規定ニ依ル
官吏恩給ノ最少額ハ 四百「グレン」
等外吏恩給ノ最少額ハ 二百「グレン」
特別ノ恩給 (ハ)ノ場合年俸ノ四分ノ一
全 (ヘ)ノ場合ハ法律上金額ヲ定メス

ト 恩給年額

十五年 年俸ノ十分ノ二、五
十五年以上一年毎ニ年俸ノ二百四十分ノ一
四十年 年俸ノ十分ノ三、五
國務大臣 別ニ最少額ヲ定メス
一般ノ規定ニ依ル
特ニ恩給ノ最少額ヲ定メス
(ハ)ノ場合ハ一般ノ規定ニ依ル特典ナシ
(ヘ)ノ場合恩給ハ最上金額ノ十分ノ七迄ヲ増加ス

チ 在官者ハ在官中年俸ノ百分ノ三ヲ國庫ニ納

金スルノ義務アリ但此納金ハ一般ノ扶助ニ
對スルモノニシテ獨リ官吏退隱料ニ對スル
モノニアラス

リ 有官等ノ試補助手トシテ勤務シタル年限ハ
在官年數ヲ計算ス

チ 納金ノ義務ナシ

リ 試補見習ノ勤務年限ハ在官年數ヨリ除算ス

是ニ由テ之ヲ觀レハ恩給ヲ受クルノ條件上ニ於テハ彼ハ我ヨリ遙カニ寛大ナルノミナラス恩給ノ年額
ニ非常ノ差違アリ、則チ彼ニアリテハ最大額俸給ト等シキ額ニ迄達シ得ヘシト雖モ我ニアリテハ俸給
ノ十分ノ三割五分則チ三分ノ一強ニ過キス、最少額ハ彼レハ四百「グレン」則チ約我三百二十圓許ナ
ルニ我ハ別ニ最少額ヲ定メスト雖モ最下級ノ判任官ノ俸給ニ依リ計算スレハ其最少額ハ僅々三十六圓
ニ過キサリナリ、其他彼ノ國務大臣ノ恩給資格ノ條件ニハ年限ヲ問ハサル如キ、試補見習ノ勤務期間
ヲ在官年數ニ計算スル如キ蓋シ當ヲ得タル規定ナリト信ス、只恩給資格ノ一條件タル年數ヲ計算スル
ニ我ハ在官年數ヲ採レリト雖モ彼ハ勤続年數ヲ用ユルノ點ハ我ニ寛ニシテ彼ニ酷ナリト云フヘキカ、
然レトモ恩給法ノ目的ヲ達スル上ニ於ケル此規定ノ可否論トシテハ我國ノ現制モ缺點アルヲ免レサル

コトハ皆人ノ知ル所ナリ、又官吏ヲシテ納金ノ義務ヲ負ハシムルコトハ我國ニアリテハ遺族扶助法ニ規定スル所ニシテ官吏ノ恩給ニハ關係セサルモノ、如ク且其納金モ僅カニ俸給ノ百分ノ一ニシテ單ニ此點ニ於テ極メテ寛大ナルモノ、如シ、然レトモ是亦恩給年額トノ關係ヲ考ヘ且恩給法ノ目的ヲ達スル點ヨリ言フトキハ、敢テ寛大ト言フニ足ラサルノミナラス或ハ却テ完全ヲ缺キタルヤノ疑ヒナキニ非ラサルナリ、

三 寡婦恩給及孤兒恩給

退職料ヲ受クヘキ權アル官吏ノ寡婦ハ終身恩給ヲ受クルノ權利アリ、其年額ハ亡夫ノ官等ニ依リテ差等アリ則チ左ノ如シ、

亡夫ノ官等	寡婦恩給年額
一等	三千「グルデン」
二等	三千「グルデン」
三等	三千「グルデン」
四等	二千「グルデン」
五等	千五百「グルデン」
六等	千二百「グルデン」

七等	九百「グルデン」
八等	七百「グルデン」
九等	六百「グルデン」
十等	五百「グルデン」
十一等	四百「グルデン」

退職料ヲ受クヘキ權利アル等外吏ノ寡婦ハ亡夫ノ退職料ノ三分ノ一ニ當ル金額ヲ寡婦恩給トシテ受クルノ權利アリ、其最少額ハ二百「グルデン」ヲ下ルコトヲ得ス、若シ官吏又ハ等外吏其勤務年數十年未滿ニシテ死シタルトキハ殊ニ其寡婦ニハ亡夫ノ年俸ノ四分ノ一ヲ寡婦恩給トシテ與フルノ特典アリ（千七百九十一年四月及千八百九十一年ノ勅令ニ依リ）、又國務大臣ノ寡婦ニハ何等ノ條件モナク一千「グルデン」ノ金額ヲ寡婦恩給トシテ給與セラル、ノ規定アリ、

官吏及等外吏ノ孤兒或ハ孤兒ト認メ得ヘキモノハ（母カ再婚スルカ或ハ犯罪事件等ニ依リ恩給ヲ受クルコト能ハサル場合）其年齡二十四年ニ達スル迄ハ孤兒恩給ヲ受クルノ權利アリ、其恩給ノ年額ハ母タル寡婦カ受ケタル若クハ受クヘキ寡婦恩給額ノ半額トシ孤兒數人アルトキハ之ヲ等分ニ分與ス、此寡婦及孤兒恩給ノ規定ニ關スル我國ノ官吏遺族扶助法トノ主要ナル點ヲ對比スレハ左ノ如キ差違アリ、

澳 國	我 國
<p>イ 退隱料ヲ受ケタル若クハ受クヘキ資格アル官吏ノ寡婦ハ恩給ヲ受ク、其年額ハ亡夫ノ官等ニ依リ四百「グルデン」乃至二千「グルデン」ナリ</p>	<p>い 在官十五年以上ノ者在官中死亡シタルトキ及恩給ヲ受クル者死去シタルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受ク其年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス</p>
<p>ロ 官吏勤続年數十年未滿ニシテ死亡シタルトキハ其寡婦ハ亡夫ノ年俸ノ四分ノ一ノ恩給ヲ受ク</p>	<p>ろ 在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ爲メニアラスシテ死亡シタルトキハ遺族ニ一時扶助金ヲ給ス、其金額ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乗シタル額トス</p>
<p>ハ 國務大臣ノ寡婦ハ一千「グルデン」ノ恩給ヲ受ク</p>	<p>は 國務大臣ノ寡婦ニ關スル特別ノ規定ナシ</p>
<p>ニ 此項ニ該當スル規定ナシイ若クハロニ依リテ寡婦恩給ヲ受ク</p>	<p>に 官吏ノ死亡ノ原因公務ニ依ルモノハ亡夫ノ恩給ノ年額三分ノ二ノ扶助料ヲ受ク</p>

<p>ホ 孤兒ハ其年齡二十四年ニ至ル迄孤兒恩給ヲ受ク、其年額ハ寡婦恩給年額ノ二分ノ一トス 孤兒數人アルトキハ右ノ恩給年額ハ等分ニ分與ス</p>	<p>ほ 孤兒ハ其年齡二十年ニ至ル迄扶加料ヲ受ク其年額ハ寡婦扶助料ニ同シ、數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニアラアルモノハ孤兒ニアリテハ長子ニ給ス其繼襲者、又ハ長子ナキトキカ或ハ年齡ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給ス</p>
<p>ヘ 此項ニ該當スル規定ナシ</p>	<p>へ 寡婦及孤兒ナキトキハ寡婦扶助料ニ等シキ年額ヲ父、母祖父、祖母ノ順序ニ依リ轉給スルコトヲ得</p>
<p>ト 此項ニ該當スル規定ナシ</p>	<p>と 寡婦ハ孤兒、父母及祖父母ナキトキハ其戶籍内ニアル兄弟姉妹（二十年未滿又ハ痲疾又ハ不具ニシテ之ヲ給養スルモノナキトキ）ニ寡婦扶助料五ヶ年分ヨリ多カラサル金額ヲ一時ニ給スコトヲ得</p>

是ニ由レハ寡婦恩給ヲ受クルノ資格ニ於テハ稍相似タル所アリト雖モ其年額ニハ非常ニ差違アルヲ見

ル、則チ彼ニアリテハ亡夫ノ官等ニ依リ四百「グルデン」乃至三千「グルデン」ニシテ則チ亡夫ノ俸給ノ二分ノ一乃至四分ノ一ニ當ルニ(一等官ノ年俸ハ一萬二千「グルデン」ニシテ其寡婦恩給年額ハ三千「グルデン」、十一等官ノ最下級俸ハ八百「グルデン」ニシテ其寡婦恩給年額ハ四百「グルデン」ナリトス)、我ニアリテハ寡婦扶助料ハ亡夫ノ恩給年額ノ三分ノ一ナルヲ以テ之ヲ俸給ニ對比スルトキハ僅カニ其九分ノ一乃至十二分ノ一ニ當レリ、又彼ハ勤続年數十年未滿ニシテ死亡シタル官吏ノ寡婦ハ尙亡夫ノ年俸ノ四分ノ一ノ恩給ヲ給スト雖モ我ハ極メテ少額ノ一時扶助金ヲ受クルニ過キサザルナリ、孤兒恩給ノ年額ハ我ハ寡婦恩給年額ニ等クシテ寛大ナル如クナルモ元來寡婦恩年額ノ少額ナルヲ以テ實際其金額ハ多キニアラス、加之彼ニアリテハ別ニ小兒養育料ヲ給スルノ規定アルヲ以テ見レハ彼カ孤兒ヲ扶助スルノ極メテ篤キヲ知ルヘキナリ、

四 子女養育料及子女養育料付加額

官吏ノ嫡子ニシテ其母ガ寡婦トナリテ寡婦恩給ヲ受ケ居ル場合ハ、其子女ノ數ニ關セス各子女ハ年齢二十四年ニ至ル迄ハ各其母ノ寡婦恩給ノ五分ノ一ニ當ル年額ヲ養育料トシテ受クルノ權アリ、然レトモ養育料ハ子女一人ニ付年額三百「グルデン」ヲ超ユルコトヲ得ス、亦子女數人ナルモ其全額ハ寡婦恩給額ヨリ多額ナルコトヲ得サルナリ、若シ子女年齢二十四年ニ達セサルモ獨立シテ生計ヲ營ミ得ベキトキハ養育料ノ給與ヲ廢止サルヘキナリ、

子女ガ其母タル寡婦ノ死亡再婚ニヨリテ孤兒トナルカ又ハ母ガ犯罪ノ爲メ寡婦恩給ヲ受クルコト能ハサル場合ニハ別ニ子女養育料付加額ヲ給ス、其年額ハ子女養育料年額ノ總計ト孤兒恩給年額ノ總計(則チ寡婦恩給年額ノ二分ノ一)トノ差額ニシテ孤兒二人以上ナルトキハ之ヲ等分シテ分給ス、例之ハ五人ノ子女アリテ母ノ寡婦恩給年額一千「グルデン」ナルトキハ各子女ノ養育料年額ハ二百「グルデン」ニシテ其養育料年額ノ總額ハ一千「グルデン」ナリトス、而シテ、母ヲ失ヒ若クハ失ヒタルト認メ得ヘキ場合ニ於ケル各孤兒ノ毎年受クヘキ養育料付加額ハ

$$\begin{array}{l} \text{(養育料)} \quad \text{(孤兒恩給)} \\ 1000 - 500 = 500 \text{ 「グルデン」} \end{array}$$

則チ百「グルデン」ニシテ之ニ養育料及孤兒恩給ヲ併算スルトキハ各孤兒ハ毎年四百「グルデン」ノ金額ヲ得ヘキナリ、若シ一人ノ孤兒年齢二十四年ニ達シタルトキハ他ノ四人ノ孤兒ノ各ガ受クヘキ扶助金ノ年額總計ハ四百五十「グルデン」ナリトス、則チ數式ヲ以テ示セハ左ノ如シ、

$$\begin{array}{l} \text{養育料} \quad \text{孤兒恩給} \quad \text{養育料付加額} \\ \left(\frac{1000}{5} = 200 \right) + \left(\frac{500}{4} = 125 \right) + \left(\frac{1000 - 500}{4} = 125 \right) = 450 \text{ 「グルデン」} \end{array}$$

此子女養育ニ關シテハ我國ニアリテハ官吏遺族扶助法中ニ規定スル所ナキノミナラス、亦他ニ類似ノ法令アルヲ見ス、

五 一時賜金及死亡賜金

官吏及等外吏ニシテ勤績年數十年ニ至ラスシテ退官シタルトキハ懲戒處分ニ依リ免セラレタル者及自己ノ意思ニ依リ退官シタルモノヲ除クノ外ハ一時賜金ノ給與ヲ受ク其金額ハ勤績年數五年未滿ナレハ退官現時ノ年俸ト同一ノ額ニシテ五年以上ナレハ其二倍ナリトス、我國明治二十三年勅令第九十八號ノ退官賜金ト全ク其性質ヲ同フスルモノニシテ只金額ニ多少アルノミ、

官吏及等外吏ニシテ在官中死亡スルカ又ハ退隱料ヲ受ケ居リテ死亡シタルトキハ他ノ法律上ノ扶助ニ關セス遺族ニ死亡賜金ヲ給與ス其金額ハ年俸又ハ退隱料年額ノ月割ノ三倍ナリトス、我國ノ明治二十四年勅令第八十三號及明治二十五年勅令第九十八號ノ俸給令中ニ規定スル死亡賜金ト同一ノ性質ニシテ且俸給ニ對スル金額ノ割合モ略同一ナリトス、其異ナルハ彼レハ退隱料ヲ受クルモノニモ死亡賜金ヲ給スト雖モ我ニアリテハ只在官者ニ給與スルニ止マレリ、

第六章 狩獵ノ制度

(鳥獸ノ保護) 澳國ニ於テモ往時ハ林業ノ未タ起ラサリシトキハ王侯及地方豪族等重キヲ狩獵ニ置キ森林ハ狩獵ノ爲メニ保護セラレシヲ以テ、今日ニ至リテモ狩獵ト林業トハ密接ノ關係ヲ有シ、狩獵ハ皇帝、貴族、紳縉等ノ遊樂的ノモノヲ除クノ外ハ森林家ニ依リテ行ハル、ヲ常トセルコト獨逸各聯邦ト趣ヲ同フセリ、是森林家ヲシテ森林ト密着ノ關係ヲ有セシメ、森林保護上ニ至便ナル機會ヲ與フルノミナラス、林業其物ヲシテ愈趣味アル事業タラシムルノ利益アレハナリ、

狩獵ノ目的物タル鳥獸類ハ農林業上ニ有益ナルモノアリ有害ナルモノアリテ其殖産上ニ關係スルコト甚大ナリトス、加之今日ニ至リテハ狩獵ハ早最遊樂的ノモノニアラス、大ニシテハ人類ニ(殊ニ山間人民)食肉ヲ供シテ健康ヲ保タシメ毛皮ヲ出シテ防寒若クハ裝飾ノ用ヲ充タシ小ニシテハ土地所有者ヲシテ狩獵ノ收利ヲ得セシムルコト尠ナシトセス、故ニ鳥獸保護ハ主トシテ農林業上ノ利害ニ基ツクト雖モ亦狩獵其物ノ利害ヲ鑑ミ其制度ヲ定メタルモノ、如シ、澳國ニ於テハ千七百八十六年二月狩獵鳥獸保護令ヲ發布シ又千八百七十四年十二月法律第四號ヲ以テ鳥獸避獵期ヲ定メタリ、其要概ヲ舉クレハ野獸飼養者ハ其獵區ニテ各種ノ野獸ニ適當ナル飼料ヲ與ヘテ之ヲ養ヒ獵獸ノ減殺ヲ防クノ義務ヲ有ス、然レトモ亦野獸増殖ハ公安ヲ害スルノ恐アル程ノ多數ナルヲ許サス、行政廳之ヲ監督スルコト極メテ周到ナリ、保護鳥獸ノ避獵期ヲ定ムルコト左ノ如シ、

一、牡鹿

十一月一日ヨリ七月一日マテ

二、牡レイ

一月十五日ヨリ七月一日マテ

三、牝鹿及牝レイ

全年

並ニ鹿及レイノ種

四、兔

一月十五日ヨリ九月十五日マテ

五、ベルクハイン及
アウエルハイン（エツキヤドリ松鷄ノ類）ノ牡

六月一日ヨリ十月一日マテ

六、全上ノ牝

全年

七、ハーゼルフーン（全上）

一月十五日ヨリ九月十五日マテ

八、レイブレーン（鶉ノ類）

十一月一日ヨリ九月一日マテ

九、鴨、シユネツペー及ベカシイン（鴨ノ類）四月十五日ヨリ七月十五日マテ

十、ワルドシユネツペー（鴨ノ類）

四月十五日ヨリ九月十五日マテ

十一、ウフツテル（鶉ノ類）

四月一日ヨリ八月十五日マテ

十二、トラツペー（鴈ノ類）

四月一日ヨリ八月一日マテ

此避獵期中ハ只保護鳥類ノ非常ニ増加シテ公安上又ハ殖産上ニ害ヲ及ホス場合ノ外ハ之ヲ狩獵スルコトヲ禁シ、又家鶏ヲシテ卵ヲセシムルノ外保護鳥類ノ卵及雛ヲ取ルコトヲ嚴禁セリ、狩獵違反ニ對シ

其罪ノ輕重ニ依リ罰金、拘留及鳥獸沒收等ノ制裁アリテ其罰金及沒收鳥獸ノ代金ハ市町村ノ養貧院ノ資金ニ編入セリ、

〔獵區ノ設定〕獵區ノ制度ハ已ニ千八百四十九年三月ノ勅令ニ依リ制定セラレタリ、其要概ヲ擧クレハ土地ノ面積少ナクモ百十五〔ヘクタール〕以上ナラサレハ土地所有者ハ狩獵ヲ行フヲ得スシテ其狩獵權ハ市町村ニ屬セリ、市町村ハ市町村有地及個人ノ土地ニシテ獵區ヲ制定スルニ足ラサル土地ニ對シテ適當ナル獵區ヲ設定シ狩獵ヲ行フノ權利ヲ有ス、尤モ狩獵ハ市町村ニ於テ適當ノ狩獵者ヲ雇フテ行フト、獵區ヲ他人ニ賃貸スルトハ市町村ノ意思ニ依リ行政廳ノ認可ヲ得テ之ヲ定メ市町村ニテ設定シタル獵區ヨリ得ル毎年ノ純收入ハ其管理年度又ハ借地年度ノ終リニ土地所有者ニ土地ノ面積ニ應ジテ之ヲ分配スヘキモノトス、

狩獵ノ貸付年限ハ通例五ヶ年以内トシ特別ノ場合ニハ三ヶ年迄ニ短縮スルコトアリ、市町村ノ獵區貸付ハ狩獵資格者ノ競争（口頭）ヲ以テ其借區者ヲ定ムルノ規定ニシテ此場合ニ於テハ貸付年限ハ通常十ヶ年迄延長スルコトヲ許セリ、此獵區貸付年限ヲ規定スル所以ハ最短期ハ其期間ノ短カキニ失シテ、生シ易キ借區人ノ濫獵ヲ防カントスルニアリテ、最長期ハ期間ノ長キニ過キ因襲ノ久シキ終ニ一種ノ地役權ノ如キ付帶權利ヲ設立セシメ不完全ナル土地所有權ヲ生スルニ至ルヲ恐ルレハナリ、案スルニ獵區ノ制ハ濫獵ヲ防キ適當ナル狩獸ヲ行ハシムヲ以テ目的トスルモノニシテ獨逸聯邦各國ニ

於テモ大低此制ヲ採ラサルハナシ、蓋シ獵區ノ設定ナキトキハ狩獵上好位置ノ所ニアリテハ狹小ナル區域中ニ數多ノ狩獵者競争シテ狩獵ヲ行ヒ終ニ濫獵ノ弊ヲ生シテ永ク狩獵ノ利益ヲ皆無ニスルノ恐レアルノミナラス、農林業上ニ不良ノ結果ヲ生スルニ至レハナリ、

千八百九十五年ノ調査ニ依レハ全國(ダルマチン州ハ尙一般狩獵規則ヲ適用セラレヌシテ自由獵ナリ)獵區ノ數ハ一萬九千七百七十六個ニシテ尙其面積ノ廣狹ニ依リテ尙之ヲ區別スレハ左ノ如シ、

- 百 十 五「ヘクタール」乃至百七十二「ヘクタール」 四千七十七
- 百七十二「ヘクタール」乃至二百二十「ヘクタール」 二千五百九十九
- 二百二十「ヘクタール」乃至二百八十七「ヘクタール」 二千五百五十一
- 二百八十七「ヘクタール」乃至五百七十五「ヘクタール」 四千九百五十七
- 五百七十五「ヘクタール」乃至千五百五十「ヘクタール」 三千五百五十九
- 千五百五十「ヘクタール」以上 二千二百三十三

〔狩獵ノ免許〕狩獵免許ハ狩獵者タル資格ヲ證明スルモノニシテ、此免許狀ヲ有スルモノニアラサレハ獵區ヲ賃借スルヲ得ス、又自己ノ所有地(獵區ノ成立シタル)ニ於テモ狩獵ヲ行フヲ得サルナリ、是狩獵ハ主トシテ銃器ヲ使用セルヲ以テ人命及財産上ノ安寧ニ關スルヲ以テナリ、澳國千八百八十六年十二月法律第二十號ニ依レハ左ノ各項ニ該ルモノニハ狩獵ノ免許ヲ受クルノ資格ナキモノトセリ、

- 一、精神病又ハ飲酒ノ爲メ神經ニ異狀ヲ生スル者
- 二、二十年以下ノ者

但父母又ハ後見人ノ出願ニ依リ免許ヲ與フルコトアリ

- 三、獵器ノ使用上ニ熟練ヲ有セサル者
- 四、自己ノ生活費ヲ市町村又ハ慈善院等ヨリ受ケ居ル者
- 五、日賃又ハ週賃ヲ以テ生活スル勞力者
- 六、獵器ヲ所持スルヲ得ヘキ免狀又ハ之ト同様ニ認メ得ヘキ證明書ヲ有セサル者

但銃器ヲ使用セサル狩獵ハ此限ニアラス

- 七、身体又ハ財産ニ關スル罪ヲ犯シ十ヶ年ヲ經過セサル者
 - 八、免許狀ヲ不正ニ使用スルカ又ハ避獵期ヲ犯シテ狩獵シ三ヶ年ヲ經過セサル者
- 其外諸種ノ細工職人、徒弟、小使、奉公人等ノ如キ身分ノ卑キモノニハ其生活ノ狀況ニ依リ免許狀ヲ與フルコトヲ拒絕スルコトヲ規定セリ、
- 狩獵免許間ハ狩獵免許ノ手数料トシテ毎年五「グルデン」ヲ納ムルノ義務アリ、而シテ此手数料及狩獵免許ニ關スル違反ノ罰金ハ(五乃至二十「グルデン」)其地方ノ殖産資本ニ編入セリ、森林官ニハ其在官中ハ此手数料ヲ納ムルヲ要セスシテ狩獵免狀ヲ受クルノ特權ヲ付與セリ、

〔國有林及基本林ノ狩獵〕澳國ニ於ケル國有林及基本林ニ屬スル狩獵ハ亦狩獵法ノ規定ニ依ルハ無論ナ
リト雖モ、獵區ハ之ヲ賃貸セスシテ凡テ森林官ヲシテ狩獵ヲ實行セシメリ、是自獵法ニ依ルトキハ林
業及狩獵ヲ一手ニ管理施業シ得ルヲ以テ安全ニ林業ノ目的ヲ達スルノミナラス常ニ山間輻輳ノ土地ニ
住居シ他ニ娛樂ナキ森林官ニ快樂ヲ與エ活潑優美ナル生活ヲナサシムルノ得アリテ、間接ニ林業ノ進
歩上ニ及ホス利益尠ナカラサレハナリ、

國有林及基本林ノ狩獵ハ亦森林及國有地管理者ニ依テ行ハル、モノニシテ其章程ニ依レハ管理者ハ每
年野獸狀況(狩獵獸ヲシテ常ニ適當ノ數ヲ保ツノ狀況ヲ云フ)ヲ監督局ニ報告セシメ且繁殖又ハ必要ナ
ル滅殺并ニ狩獵費用ノ豫算ヲ調製シ認可ヲ得テ森林保護吏ト共ニ狩獵ヲ實行シ、其獵獲物ハ之ヲ一般
ノ產物賣拂ノ規定ニ依リ賣拂ヒ其收入ハ森林收入ト同一ノ性質ヲ以テ國庫ニ納入スルコト、他ノ林產
物ト異ナルヲ見ス、

國有林及基本林ノ領域ニ屬スル河川及池沼等ニ於ケル漁業モ政府ノ自獵ニシテ森林官ハ漁業法ニ依リ
之ヲ實行シ其收入ハ亦森林收入ニ屬ス、

一千九百年ノ國有林及基本林ノ豫算ニ依レハ狩獵及漁獵ノ收支ハ左ノ如シ、
經常收入

第三 副施業中ノ狩獵及漁業ノ收入

一〇九、〇〇二クローキ

經常費

第三 副施業中ノ狩獵及漁業費

四七、九八〇

差引純益

六一、二二〇

僅カニ百萬「ヘクター」ニ足ラサル國有林及基本林ヲ有シ且獸肉價格ノ廉ナル澳國ニシテ尙此收利アリ、知ルヘシ狩獵ノ利益モ甚々鮮少ナラサルヲ、

第七章 森林ニ關スル設置所ノ概況

第一節 林業試験所

澳國維也納府附近ニ在ルマリヤブルン林業試験所ハ農務省ニ屬スル獨立シタル官立試験所ナリ、元來林業試験所ノ所屬ニ付テハ大學若クハ森林、工藝ノ專門學校ニ屬スルモノト森林管理ノ官省ニ屬スルモノトノ別アリ、澳國ニ於テハ既ニ詳述シタル如ク森林教育スラ務メテ實際ノ應用ヲ是旨トシ、農務省ノ干渉ヲ受ケシムルノ方針ナルヲ以テ其可否ハ姑ラク之ヲ措キ林業試験所ヲ以テ農務省ノ管理ニ屬セシメタルハ終始一貫ノ方針ト云ハサルヘカラス、(尤モ高等農林學校ニ於テモ學校所屬ノ林業試験所アリテ專ラ學理上ノ試験及學生實習ノ用ニ供ス)

此マリヤブルン林業試験所ノ目的ハ合理的林業ノ基礎ヲ定メ且林業ノ實施ヲ試験、調査及檢定(種子檢定ノ如キ)等ニ依リ之ヲ輔ケ以テ一般林業ノ進歩ヲ企圖スルニアリ、其方法トシテハ一方ハ自己ノ研究ニ依リ、一方ハ個人又ハ團體ヲ獎勵シテ此試験事業ヲ行ハシメ且之ヲ管理スルニアリ、而シテ試験業務ヲ施行スル爲メノ機關ニ三別アリ試験ヲ施行スル爲メ常置スル職員(一)、臨時ニ或特別ノ試験ニ專任セシムル職員(二)、及試験囑託員(三)是ナリ、則チ(一)ハ試験所ノ職員ニシテ林業試験所長、補助官、見習生及園丁ヨリ成リ、所長ハ高等森林參事官ニシテ勅裁ヲ以テ任命セラレ、補助官以下ハ農務大臣之ヲ任命セリ、(二)ハ他ノ職務ヲ奉スル官吏ヲシテ一時兼任ヲ命スルモノニシテ其特定ノ試験事件ヲ完了

スルトキハ之ヲ解任スルモノ、(三)ハ高等學校ノ教官、學術的研究所員其他適當ト認ムル官民ノ森林家ニ有報酬又ハ無報酬ヲ以テ試驗所ノ業務ヲ囑託スルモノナリ、
 地方林業試驗所ハ大ナル森林所有主若クハ團體ノ設立ニ係ルモノニシテ目下全國ヲ通シテ十二個アリ
 マリヤブルン林業試驗所ノ監督ヲ受ケ氣脈ヲ通シテ試驗事業ヲナスト雖モ、固ヨリ其組織等ニ就テハ敢テ干涉ヲ受ケサルモノ、如シ、

第二節 森林協會

澳國ニ於ケル森林ニ關スル協會ノ數ハ二十個アリテ其會員ノ總數約八千名餘アリ、各協會ハ多少其目的方法ヲ異ニスル所アルヲ以テ會員ノ數甚タ多カラス然レトモ概シテ資本ノ豐富ニシテ其事業ノ盛大ナルハ豫想ノ外ナリトス、協會ノ目的トスル所ハ林業ノ進歩發達ヲ謀ルニ歸着スヘシト雖モ各會各々其特色トスル所アリトス、或ハ森林學校ヲ設立シ若クハ學生ヲ補助シテ森林教育ノ普及ヲ謀ルモノアリ、或ハ集會講話ヲ開ラキ若クハ會報、新聞雜誌、森林手簿等ヲ發行シテ一般林業上ノ智識ヲ進メントスルモノアリ、或ハ學術的ニ重キヲ置クモノアリ、或ハ實際的ヲ主トスルモノアリ、或ハ官吏的團體アリ、學者的團體アリ、或ハ商業的ナルアリ、或ハ親睦溫交ノ俱樂部等アリテ、各其特色トスル所ヲ異ニス、會ノ資金モ專ラ寄附金ヨリ成ルモノアリ、或ハ會費ニ依ルモノアリ、或ハ政府ノ補助金ヲ受クルモノアリ、然レトモ資金ノ豐富ナルモノハ皆寄附金ニ依ルモノニシテ中ニハ數十萬圓ノ基本金

ヲ有スルモノアリ、

澳國森林協會ノ狀況ヲ示サンカ爲メ各會ノ目的并ニ事業等ノ要領ヲ左ニ記述セム、

澳國森林會ハ一般林業ノ進歩發達ヲ企圖スルヲ目的トシ、毎三ヶ月ニ會報ヲ頒ツ、千八百五十二年ノ設立ニシテ會員六百六十五名(千九百年ノ現在、以下之ニ做フ)ヲ有ス、

澳國森林會集會ハ澳國各森林會ノ氣脈ヲ通スルヲ目的トスルノ協會ニシテ會員ハ各森林會及農會ノ代表者ヲ以テ組織ス、千八百七十五年ノ創立ニシテ既ニ十六回集會ヲ爲シ毎回會報ヲ頒テリ、

下澳國森林會ハ地方森林事業ノ發達ヲ目的トシ毎年下澳國內ノ各地ニ巡回的集會ヲ爲シ、且時々會報ヲ頒ツ、千八百七十九年ノ設立ニシテ會員五百五十名アリ、

下澳國森林學校會ハアツクスバツハノ造林學校ヲ維持シ且學資ニ乏シキ學生ヲ補助スルヲ以テ目的トス、資金ハ寄附金、會費及政府ノ補助金ヲ以テ之ニ充テリ、千八百七十五年ニ創立シ會員二百四十名ヲ有セリ、

上澳國及サルツブルク森林會ハ地方森林事業ノ發達ヲ謀ルヲ目的トシ、毎年此兩州ニ於テ巡回的集會ヲ催シ、且時々會報ヲ頒ツ、千八百五十五年ノ創立ニシテ會員四百十三名アリ、

ベーメン森林會(一)ハ千八百四十八年ノ創立ニシテ千六百名ノ會員ヲ有セリ、其目的及事業ハ前者ニ同シ、

ベーマン森林會(二)ハ千八百六十二年ノ創立ニシテ會員僅カニ八十餘名ニ過キスト雖モ資金ノ豊カナルヲ以テ名アリ、會員中五十三名ハ一時出金トシテ二十三萬二千九百六十八「クルーネ」ヲ納レ、三十一名ハ毎年九千二百九十九「クルーネ」ヲ出金セリ、其目的及事業ハ亦前者ニ同シ、

ベーマン獨逸森林家會ハ林業及狩獵ノ進歩ヲ目的トシ、毎年ベーマン州内各地ニ巡回的集會ヲ催シ、且狩獵新聞紙ヲ發行セリ、千八百九十四年ノ創立ニシテ會員四百名ヲ有セリ、

メーブル及シユレジツヒ森林會ハ地方森林事業ノ發達ヲ謀ル爲メ毎年巡回的集會ヲ催シ、且年四回會報ヲ發行ス、千八百四十九年ノ創立ニシテ一千二百三十名ノ會員ヲ有ス、

メーブル及シユレジツヒ森林學校會ハ千八百五十年ヲイツス、キルヘンノ高等森林學校ヲ設立スルヲ以テ目的トシテ成立セリ、資金二十三萬六千「クルーネ」ヲ有スレトモ會員僅カニ百五十七名ニシテ、多クハ地方ノ富豪ナリ、

スタイエルマルク森林會ハフルツクアドムール森林學校及グウスウエルク造林學校ヲ維持シ、且林業獎勵ノ爲メ時々巡回的集會ヲ爲シ、會報ヲ發行シテ之ヲ會員ニ頒ツ、千八百八十四年ノ創立ニシテ會員五百三十六名アリ、

ケルンテン森林會ハ毎年大集會ヲ上方及下方ケルンテンニ開キ森林手簿及森林雜誌ヲ發行ス、千八百七十二年ノ創立ニシテ會員四百七十名アリ、

クライン及キユスタンランド森林會ハ千八百七十五年ノ創立ニシテ二百名ノ會員アリ、地方林業ノ進歩ヲ謀ルヲ目的トシテ巡回的ノ集會ヲ催シ及會報ヲ出ス、

チロール及フラルアルヘルク森林會ハ千八百五十二年ノ創立ニシテ五百五十名ノ會員ヲ有ス、目的及事業前ニ同シ、

ガリチエン森林會ハ千八百八十二年ノ創立ニシテ八百四十名ノ會員ヲ有ス「ポール」語ノ森林月報ヲ發行シ林業ノ進歩ヲ目的トス、

維也納農林業家俱樂部ハ農林業従事者ノ互ニ智識ヲ交換シ交情ヲ温メ親睦ヲ保ツヲ以テ目的トス、會員二百八十名ヲ有ス、

澳匈國木材產出者、木材商及木材工藝者ノ協會(維也納府)ハ木材需用供給上ノ便宜ヲ謀ルヲ以テ目的トス、會員二百餘名ヲ有ス、

澳國農林業博物館設立會(維也納府)ハ千八百九十一年ノ創立ニシテ創立委員二十八名會員三百四十六名アリ、會名ノ如ク博物館設立ヲ目的トシ、資金ノ募集並ニ陳列品ノ蒐集、建築ノ設計其他必要ノ件

ニ付調査ニ着手セリ、

殖産ニ從事スル官吏ノ協會ハ農林業其他殖産業ニ關スル官吏及役員ノ生計上其他社會上ノ利便ヲ進ムル爲メ千八百八十年ニ創立セラレタル組合ナリ千八百九十三年此協會ニ於テ有限責任ノ貯金及貸

金組合ヲ組織シ、會員ヲシテ貯金セシメ又ハ會員ニ信用貸ヲ爲セリ、
其他維也納、サルツブルク、グレー、ライバツハ、レムベルク及クラカウニ於ケル農會及プロゼナノ
殖産會ニハ林業部ヲ設ケリ、

第三節 森林的工業場

澳國ノ木材貿易ノ狀勢ハ既ニ總論ニ詳述セシ所ニシテ澳國ノ輸出貿易品中最モ重要ノ位置ヲ占ムルコ
ト讀者ノ知了スル所ナリ、然レトモ林産物ノ輸出ハ獨リ木材ニ止マラス、尙重要品ニ數フヘキモノハ
木材製品、製紙(主トシテ木材纖維ヨリ製造ス)護謨、樹脂、彈性護謨品及燐寸木ニシテ千八百九十
八年ノ輸出入ハ左ノ如シ

木材製品(彫刻材料ヲ含ム) 製紙(紙製造品ヲ含ム) 護謨及樹脂 彈性護謨品 燐寸木	輸出入	
	輸出	輸入
木材製品(彫刻材料ヲ含ム)	一二、五〇〇、〇〇〇	一一、六〇〇、〇〇〇
製紙(紙製造品ヲ含ム)	一八、三〇〇、〇〇〇	一〇、四〇〇、〇〇〇
護謨及樹脂	三、二〇〇、〇〇〇	五、九〇〇、〇〇〇
彈性護謨品	三、二〇〇、〇〇〇	九、五〇〇、〇〇〇
燐寸木	二、四五〇、〇〇〇	一三三、〇〇〇

計	四六、四五〇、〇〇〇	三八、五三三、〇〇〇
輸出超過	七、九一七、〇〇〇	

澳國カ之等ノ林産ノ加工若クハ製造(此表ノ輸出超過額ノ外ニ尙國民ノ需用スルモノ數千萬「グルデ
ン」アルルヘシ)及木材ヲ造材スル爲メニ施備スル所ノ森林工業ハ亦甚タ盛大ナル狀況ニシテ尙大ニ
進運セントスルノ徴ヲ呈セリ、造材工業トシテ最モ盛ナルハ鋸工場ナリトス、千八百九十五年ノ調査
ニ依レハ全國ニ於ケル鋸工場ノ總數ハ一萬千十五ヶ所、内動力ヲ蒸汽ニ取ルモノ五百八ヶ所、此馬力
一萬三千九十三ニシテ水車力ニ依ルモノ一萬五百七ヶ所、此馬力五萬六千四百五十五ナリトス、其他
剝皮及割材工場ノ數モ少ナシトセス

國有林及基本林ニ於テモ鋸工場ノ數六十三ヶ所アリテ多クハ新式ノ連結縱鋸及回旋鋸ヲ使用シ毎年平
均大凡十萬立法「メートル」ノ木材ヲ鋸斷セリ、
剝皮工場及割材工場モ官設ニ係ルモノ四ヶ所アリ、凡テ之等ノ工場ハ政府ノ施備スル所ナリト雖モ多
クハ之ヲ林産物買受人(主トシテ木材商)ニ賃貸シテ其事業ヲ行ハシムルヲ常トセリ、而シテ其貸付料
ハ副施業ノ收入トシテ森林收入ニ編入セラルヘキモノナリ、千九百年ノ豫算ニ依レハ工業建設物ノ貸
料及其施業收入ハ九十八萬三千八百四十「クルーネ」、之ニ對スル經費ハ六十九萬四千五百八十「クル
ーネ」ニシテ工業建設物及其施業ノ純收入トシテ得ル所ハ僅ニ三十一萬「クルーネ」餘ナリト雖モ政府